

---

富士見市

---

# 宮脇遺跡

---

都市計画道路鶴瀬駅東通線建設工事関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

2003

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

---

富士見市

---

# 宮脇遺跡

---

都市計画道路鶴瀬駅東通線建設工事関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

2003

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

## 序

埼玉県は年々人口の増加が続き、昨年で人口700万人を超えました。富士見市も30年前までは武蔵野の面影が残る近郊農村でしたが、首都圏30km圏内に位置しており、鉄道沿線のベッドタウンとして人口が急増し、現在でも開発が進められ今後も人口が増えるものと見込まれています。

このように開発が進む中で富士見市の鶴馬1丁目土地区画整理事業が施工されました。この事業は、鶴瀬駅東口から富士見市役所北側まで伸びる都市計画道路鶴瀬駅東通線及び、沿道区画整理型街路事業からなるもので、富士見市の都市軸の一つとして位置付けられました。

鶴瀬駅東通線は、県事業として早期整備と周辺地区の有効利用を図る、埼玉県で初めての沿道区画整理型街路事業として行われることになりました。

この都市計画道路鶴瀬駅東通線用地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として、宮脇遺跡が所在していました。遺跡の取り扱いについては、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることとなりました。そのため発掘調査は、当事業団が埼玉県県土整備部道路街路課の委託を受け実施いたしました。

今回の調査の結果、縄文時代及び奈良・平安時代の竪穴住居跡をはじめとして、近世の溝跡・土坑などが発見され、多くの土器・鉄器や陶磁器などが出土しました。また、近世の溝跡からは陶磁器のほか、古銭の銀貨「文政南鐐一朱銀」も出土しました。

本書はこれらの発掘調査成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました埼玉県県土整備部道路街路課、川越県土整備事務所、富士見市教育委員会並びに地元関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成15年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 桐川卓雄

## 例 言

- 1 本書は、埼玉県富士見市羽沢3丁目に所在する宮脇遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査に対する指示通知は以下のとおりである。  
宮脇遺跡（MYWK）  
埼玉県富士見市羽沢3丁目1,574－1 他  
平成10年12月28日付け教文第2－168号  
埼玉県富士見市羽沢3丁目1,563－4 他  
平成11年5月12日付教文第2－2号  
埼玉県富士見市羽沢3丁目1,563－4 他  
平成11年7月15日付教文第2－51号  
埼玉県富士見市羽沢3丁目1,567－36 他  
平成13年12月28日付け第2－99号
- 3 発掘調査は、都市計画道路鶴瀬駅東通線建設工事事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業の発掘調査については山本禎、富田和夫、岩瀬譲、栗岡潤、山本靖が担当し、平成11年1月4日から平成11年4月30日、平成11年7月1日から平成11年9月30日、平成13年12月1日から平成14年1月31日まで4次に渡り断続的に実施した。整理・報告書作成事業は、山本禎が担当し、平成15年2月3日から平成15年9月30日まで実施した。
- 5 遺跡の基準点測量は、アジア航測株式会社、株式会社シン技術コンサル、株式会社東京航業研究所に、空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 6 写真撮影は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版の作成は、黒坂禎二・渡辺清志・石塚香の協力を得て山本禎が行った。
- 8 本書の執筆は、1－1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、縄文時代の遺物を黒坂が、その他の物を山本が行った。
- 9 本書の編集は、山本が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成15年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 本書を作成するに当たり、下記の方々から御教示・御指導を賜った。記して感謝の意を表します。  
富士見市教育委員会



# 目 次

序

例言

凡例

|     |                  |    |                 |     |
|-----|------------------|----|-----------------|-----|
| I   | 発掘調査の概要          | 1  | (3) 遺構外出土遺物     | 34  |
| 1.  | 発掘調査に至る経過        | 1  | 2. 古代・中近世の遺構と遺物 | 36  |
| 2.  | 発掘調査・報告書作成の経過    | 2  | (1) 住居跡         | 36  |
| 3.  | 発掘調査・整理・報告書刊行の組織 | 3  | (2) 掘立柱建物跡      | 58  |
| II  | 遺跡の立地と環境         | 5  | (3) 土坑          | 60  |
| III | 遺跡の概要            | 8  | (4) 溝跡          | 80  |
| IV  | 遺構と遺物            | 18 | (5) 柵列          | 102 |
| 1.  | 縄文時代の遺構と遺物       | 18 | (6) 地下式坑        | 102 |
| (1) | 住居跡              | 18 | V               | まとめ |
| (2) | 土坑               | 21 |                 | 104 |

# 插图目次

|      |               |    |      |                |    |
|------|---------------|----|------|----------------|----|
| 第1图  | 埼玉県の地形        | 5  | 第36图 | 第6号住居跡         | 44 |
| 第2图  | 周辺の遺跡         | 7  | 第37图 | 第6号住居跡出土遺物     | 45 |
| 第3图  | 調査区周辺の地形      | 9  | 第38图 | 第7号住居跡         | 46 |
| 第4图  | 宮脇遺跡全測図       | 10 | 第39图 | 第7号住居跡出土遺物     | 46 |
| 第5图  | Ⅲ区全測図(1)      | 11 | 第40图 | 第8号住居跡         | 47 |
| 第6图  | Ⅲ区全測図(2)      | 12 | 第41图 | 第9号住居跡         | 48 |
| 第7图  | Ⅲ区全測図(3)      | 13 | 第42图 | 第9号住居跡出土遺物     | 48 |
| 第8图  | Ⅱ区全測図         | 14 | 第43图 | 第10号住居跡        | 49 |
| 第9图  | I-2区全測図       | 15 | 第44图 | 第10号住居跡出土遺物(1) | 50 |
| 第10图 | I-1区全測図(1)    | 16 | 第45图 | 第10号住居跡出土遺物(2) | 51 |
| 第11图 | I-1区全測図(2)    | 17 | 第46图 | 第11号住居跡        | 52 |
| 第12图 | 第15号住居跡       | 18 | 第47图 | 第11号住居跡出土遺物    | 52 |
| 第13图 | 第16・18号住居跡    | 19 | 第48图 | 第12号住居跡        | 52 |
| 第14图 | 第17号住居跡       | 20 | 第49图 | 第12号住居跡出土遺物    | 53 |
| 第15图 | 第17号住居跡出土遺物   | 20 | 第50图 | 第13号住居跡        | 54 |
| 第16图 | 土坑(1)         | 22 | 第51图 | 第13号住居跡出土遺物(1) | 55 |
| 第17图 | 土坑(2)         | 24 | 第52图 | 第13号住居跡出土遺物(2) | 56 |
| 第18图 | 土坑(3)         | 25 | 第53图 | 第14号住居跡        | 57 |
| 第19图 | 土坑(4)         | 28 | 第54图 | 第14号住居跡出土遺物    | 58 |
| 第20图 | 土坑(5)         | 29 | 第55图 | 第1号掘立柱建物跡      | 59 |
| 第21图 | 土坑(6)         | 31 | 第56图 | 第2号掘立柱建物跡      | 60 |
| 第22图 | 土坑出土遺物        | 32 | 第57图 | 土坑(1)          | 61 |
| 第23图 | 遺構外出土遺物(1)    | 33 | 第58图 | 土坑(2)          | 63 |
| 第24图 | 遺構外出土遺物(2)    | 34 | 第59图 | 土坑(3)          | 65 |
| 第25图 | 第1号住居跡        | 36 | 第60图 | 土坑(4)          | 67 |
| 第26图 | 第1号住居跡出土遺物    | 37 | 第61图 | 土坑(5)          | 68 |
| 第27图 | 第2号住居跡        | 38 | 第62图 | 土坑(6)          | 70 |
| 第28图 | 第2号住居跡出土遺物    | 38 | 第63图 | 土坑(7)          | 72 |
| 第29图 | 第3号住居跡出土遺物    | 39 | 第64图 | 土坑(8)          | 74 |
| 第30图 | 第3号住居跡        | 39 | 第65图 | 土坑出土遺物         | 75 |
| 第31图 | 第4号住居跡        | 40 | 第66图 | 土坑(9)          | 77 |
| 第32图 | 第4号住居跡出土遺物    | 40 | 第67图 | 第120号土坑出土遺物    | 78 |
| 第33图 | 第5号住居跡        | 41 | 第68图 | 土坑(10)         | 79 |
| 第34图 | 第5号住居跡出土遺物(1) | 42 | 第69图 | 第1・2号溝跡        | 81 |
| 第35图 | 第5号住居跡出土遺物(2) | 43 | 第70图 | 第3号溝跡          | 82 |

|      |                 |    |      |                          |     |
|------|-----------------|----|------|--------------------------|-----|
| 第71図 | 第3号溝跡出土遺物       | 83 | 第83図 | 第19号溝跡出土遺物(2)            | 93  |
| 第72図 | 第4・5・6号溝跡       | 84 | 第84図 | 第19号溝跡出土遺物(3)            | 94  |
| 第73図 | 第7・8・9号溝跡       | 85 | 第85図 | 第19号溝跡出土遺物(4)            | 96  |
| 第74図 | 第10号溝跡          | 86 | 第86図 | 第19号溝跡出土遺物(5)            | 98  |
| 第75図 | 第10号溝跡出土遺物      | 86 | 第87図 | 第19号溝跡出土遺物(6)            | 99  |
| 第76図 | 第12号溝跡出土遺物      | 86 | 第88図 | 第21・22号溝跡、<br>第21号溝跡出土遺物 | 100 |
| 第77図 | 第12号溝跡          | 87 | 第89図 | 第11・23・24・25号溝跡          | 101 |
| 第78図 | 第13・14・15・16号溝跡 | 88 | 第90図 | 第1号柵列                    | 102 |
| 第79図 | 第17・18号溝跡       | 89 | 第91図 | 第1号地下式坑                  | 102 |
| 第80図 | 第17号溝跡出土遺物      | 90 | 第92図 | 第1号地下式坑出土遺物              | 103 |
| 第81図 | 第19号溝跡          | 91 |      |                          |     |
| 第82図 | 第19号溝跡出土遺物(1)   | 92 |      |                          |     |

## 図版目次

|     |                                                                                        |                                                                                                                |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 図版1 | I-1区南半全景<br>I-1区北半全景                                                                   | 第62号土坑<br>第110号土坑遺物出土状況                                                                                        |
| 図版2 | I-2区全景<br>II区南半全景                                                                      | 図版6                                                                                                            |
| 図版3 | II区北半全景<br>III区全景                                                                      | 第110号土坑<br>第140号土坑遺物出土状況<br>第140号土坑<br>第1号住居跡カマド遺物出土状況                                                         |
| 図版4 | 第15号住居跡<br>第16号住居跡<br>第17号住居跡<br>第17号住居跡埋礎確認状況<br>第17号住居跡炉跡・埋壘<br>第17号住居跡埋壘<br>第18号住居跡 | 第1・2号住居跡<br>第2号住居跡<br>第2号住居跡遺物出土状況                                                                             |
| 図版5 | 第11・12号土坑<br>第17号～第20号土坑<br>第21号土坑<br>第23・24号土坑<br>第55号土坑<br>第58号土坑                    | 図版7                                                                                                            |
|     |                                                                                        | 第3号住居跡<br>第4号住居跡<br>第4号住居跡遺物出土状況<br>第5号住居跡遺物出土状況<br>第5号住居跡カマド遺物出土状況<br>第5号住居跡<br>第6号住居跡遺物出土状況<br>第6号住居跡紡錘車出土状況 |
|     |                                                                                        | 図版8                                                                                                            |
|     |                                                                                        | 第6号住居跡<br>第7号住居跡                                                                                               |

|      |                   |      |                     |
|------|-------------------|------|---------------------|
|      | 第8号住居跡            |      | 第12号溝               |
|      | 第9号住居跡            |      | 第17号溝               |
|      | 第10号住居跡遺物出土状況     |      | 第19号溝遺物出土状況         |
|      | 第10号住居跡           |      | 第1号地下式坑             |
|      | 第12号住居跡遺物出土状況     | 図版13 | 第17号住居跡出土遺物         |
|      | 第12号住居跡           |      | 第110号土坑出土遺物         |
| 図版9  | 第13号住居跡遺物出土状況     |      | 第18・92号土坑、第17号溝出土石鏃 |
|      | 第13号住居跡炭化物・粘土検出状況 |      | 土坑出土遺物              |
|      | 第13号住居跡           | 図版14 | 土坑出土遺物              |
|      | 第14号住居跡           |      | 遺構外出土遺物             |
|      | 第2号掘立柱建物跡         | 図版15 | 遺構外出土遺物             |
|      | 第7号土坑             | 図版16 | 遺構外出土石斧             |
|      | 第8号土坑             |      | 第2号住居跡出土遺物          |
|      | 第11・12号土坑         |      | 第5号住居跡出土遺物          |
| 図版10 | 第13号土坑            |      | 第6号住居跡出土遺物          |
|      | 第14・15号土坑         |      | 第7号住居跡出土遺物          |
|      | 第16号土坑            |      | 第10号住居跡出土遺物         |
|      | 第22号土坑            | 図版17 | 第10号住居跡出土遺物         |
|      | 第25号土坑            |      | 第11号住居跡出土遺物         |
|      | 第26号土坑            |      | 第12号住居跡出土遺物         |
|      | 第36～38・40号土坑      |      | 第13号住居跡出土遺物         |
|      | 第48号土坑            | 図版18 | 第5号住居跡出土遺物          |
| 図版11 | 第49号土坑            |      | 第2号住居跡出土遺物          |
|      | 第55号土坑            |      | 第13号住居跡出土遺物         |
|      | 第57・72号土坑         | 図版19 | 第120号土坑出土遺物         |
|      | 第82号土坑            |      | 第19号溝出土遺物           |
|      | 第83号土坑            | 図版20 | 第19号溝出土遺物           |
|      | 第84号土坑            | 図版21 | 第19号溝出土遺物           |
|      | 第117～120号土坑       | 図版22 | 第19号溝出土遺物           |
|      | 第138号土坑           |      | 第1・2・4・13号住居跡出土遺物   |
| 図版12 | 第3号溝              | 図版23 | 第19号溝出土遺物           |
|      | 第7号溝              |      |                     |
|      | 第11号溝             |      |                     |

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、豊かな彩の国づくりの重点施策として、県内1時間道路網構想の推進を図っている。

特に、県内を東西方向に結ぶ道路網の整備については、南北方向に比較して遅れている現状があり、県土の均衡ある発展と新たな交流連携の促進のため、重要であると位置づけられている。

都市計画道路鶴瀬駅東通線改築事業は、こうした施策の一環として計画されたものである。

埼玉県教育庁生涯学習部文化財保護課では、このような施策の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係部局との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

本事業にかかる埋蔵文化財の所在および取扱については、平成10年7月29日付け都整第622号で、都市整備課長より文化財保護課長あて照会があった。

文化財保護課では確認調査を実施し、その結果をもとに、平成10年11月2日付け教文第943号で、宮脇遺跡の取扱について次のように回答した。

### 1 埋蔵文化財の所在

| 名 称 (No.)           | 種 別        | 時 代             | 所 在 地                   |
|---------------------|------------|-----------------|-------------------------|
| 宮脇遺跡<br>(No.24-025) | 貝塚・<br>集落跡 | 縄文・古墳・<br>平安・近世 | 富士見市羽沢<br>3丁目、諏訪<br>1丁目 |

### 2 取扱いについて

現状保存することが望ましいが、工事計画上やむを得ず上記の埋蔵文化財包蔵地現状を変更する場合には、事前に文化財保護法第57条の3の規定による発掘通知を文化庁長官あて提出し、記録保存のための発掘調査を実施して下さい。

(以下省略)

発掘調査については、実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と都市整備課、文化財保護課の三者により調査方法、期間、経費などの問題を中心に協議が行われた。

その結果、用地の取得等の事情もあり、平成11年1月4日から平成11年3月31日  
平成11年4月1日から平成11年4月30日  
平成11年7月1日から平成11年9月30日  
平成13年12月1日から平成14年1月31日の4次にわたり発掘調査が実施された。

文化財保護法第57条の3の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県知事土屋義彦から平成10年12月1日付け都整第1321号で提出され、それに対する保護上必要な勧告は平成10年12月10日付け教文第3-590号で通知を行った。また、第57条1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査の届出に対する指示通知は以下のとおりである。

#### 宮脇遺跡

平成10年12月28日付け教文第2-168号  
平成11年5月12日付け教文第2-2号  
平成11年7月15日付け教文第2-51号  
平成13年12月28日付け教文第2-99号

(文化財保護課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### 発掘調査

発掘調査は、平成11年1月4日から平成11年4月30日、平成11年7月1日から平成11年9月30日、平成13年12月1日から平成14年1月31日の数次に渡って実施した。調査面積は5,264㎡である。

平成11年1月から、ユニットハウスの設置、器材運搬等の発掘準備とⅠ区南半部を重機による表土除去作業を行った。表土除去終了後、遺構確認を行い遺構精査に着手し記録等終了後、旧石器の精査も実施し、下旬に完了した。2月には、Ⅰ区の北半部調査のため、排土を反転し北半部の表土除去を行い、中旬に遺構精査・記録等を完了した。Ⅰ区を埋戻し、Ⅱ区の南半部の表土除去後、遺構精査・記録等を行った。3月に、Ⅱ区南半部の住居跡等の遺構精査・記録等終了後、排土の反転、Ⅱ区北半部の表土除去後、住居跡などの遺構精査・記録等に着手し、4月にⅡ区北半部の住居跡等の遺構精査・記録等を完了し、Ⅲ区北端の一部の表土除去を行い、遺構確認を完了し、発掘器材を撤収した。

平成11年7月に、発掘器材を搬入し、Ⅲ区の残りの表土除去と遺構確認済みの北側から住居跡・土坑・溝跡等の遺構精査・記録等を行った。9月中旬、遺構の精査・記録等が完了し、Ⅲ区の埋戻し・事務所等の撤収を行った。

平成13年11月下旬から、事務所設置とⅠ区とⅢ区の未調査部分の表土除去作業を行った。遺構確認作業後、住居跡・土坑・溝跡・ピット等の遺構精査・記録等を行った。平成14年1月遺構の精査・記録等の完了後、Ⅲ区においては旧石器の精査を行った。調査終了後、埋戻しと事務所の撤去を行った。

### 整理・報告書作成

整理・報告書作成は、平成15年2月3日から平成15年3月28日、平成15年4月8日から平成15年9月30日まで実施した。

平成15年2月から、出土遺物・図面・写真等の搬入作業後、遺物の水洗・注記および接合・復元を行った。これらと並行して、遺構実測図を整理し、第二原図の作成を行った。また、接合・復元が終了した遺物から実測を開始し、大型の遺物はスリースペースを使用して実測を行った。3月は、遺物の接合・復元と遺物の実測、第二原図の作成を継続して行い、遺構の計測データの作成を開始した。4月も、前月の作業を継続し、下旬から遺構トレースにイラストレーターを使用するためにスキャンニングする遺構の図版作成を行った。5月に入り、遺物実測図作成のための陶磁器の撮影を行った。遺物は初旬で復元作業を完了した。下旬には遺物実測も終了し、観察表を作成した。遺物のトレース、イラストレーターによる遺構のトレースを開始した。遺物の図版組みをおこなった。6月も、イラストレーターによる遺構トレースは引き続き行い、遺物図版の作成、原稿の執筆を始めた。7月には、遺物の写真撮影をし、写真図版の作成を行い、原稿執筆終了後、割り付け作業を行った。図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。8月に報告書印刷の相見積りを行い、8月・9月で校正を行い、9月下旬に報告書を刊行した。

### 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査（平成10～11・13年度）

平成10年度

|           |         |
|-----------|---------|
| 理 事 長     | 荒 井 桂   |
| 副 理 事 長   | 飯 塚 誠一郎 |
| 常務理事兼管理部長 | 鈴 木 進   |
| 管理部       |         |

|            |         |
|------------|---------|
| 庶 務 課 長    | 金 子 隆   |
| 主 査        | 田 中 裕 二 |
| 主 任        | 長 滝 美智子 |
| 主 任        | 腰 塚 雄 二 |
| 専門調査員兼経理課長 | 関 野 栄 一 |
| 主 任        | 江 田 和 美 |
| 主 任        | 福 田 昭 美 |
| 主 任        | 菊 池 久   |

調査部

|             |         |
|-------------|---------|
| 調 査 部 長     | 谷 井 彪   |
| 調 査 部 副 部 長 | 水 村 孝 行 |
| 調 査 第 一 課 長 | 井 上 尚 明 |
| 統 括 調 査 員   | 山 本 禎 潤 |
| 主 任 調 査 員   | 栗 岡 潤   |

平成11年度

|           |         |
|-----------|---------|
| 理 事 長     | 荒 井 桂   |
| 副 理 事 長   | 飯 塚 誠一郎 |
| 常務理事兼管理部長 | 広 木 卓   |
| 管理部       |         |

|             |         |
|-------------|---------|
| 管理部副部長兼経理課長 | 関 野 栄 一 |
| 庶 務 課 長     | 金 子 隆   |
| 主 査         | 田 中 裕 二 |
| 主 任         | 江 田 和 美 |
| 主 任         | 長 滝 美智子 |
| 主 任         | 福 田 昭 美 |
| 主 任         | 腰 塚 雄 二 |
| 主 任         | 菊 池 久   |

調査部

|               |         |
|---------------|---------|
| 調 査 部 長       | 増 田 逸 朗 |
| 調 査 部 副 部 長   | 水 村 孝 行 |
| 専門調査員(調査第二担当) | 坂 野 和 信 |
| 統 括 調 査 員     | 山 本 禎 讓 |
| 主 任 調 査 員     | 岩 瀬 讓   |

平成13年度

|           |         |
|-----------|---------|
| 理 事 長     | 中 野 健 一 |
| 副 理 事 長   | 飯 塚 誠一郎 |
| 常務理事兼管理部長 | 大 館 健   |
| 管理部       |         |

|         |         |
|---------|---------|
| 管 理 幹 事 | 持 田 紀 男 |
| 主 任     | 菊 池 久   |
| 主 任     | 江 田 和 美 |
| 主 任     | 長 滝 美智子 |
| 主 任     | 福 田 昭 美 |
| 主 任     | 腰 塚 雄 二 |

調査部

|               |         |
|---------------|---------|
| 調 査 部 長       | 高 橋 一 夫 |
| 調 査 部 副 部 長   | 坂 野 和 信 |
| 主席調査員(調査第二担当) | 昼 間 孝 志 |
| 統 括 調 査 員     | 富 田 和 夫 |
| 主 任 調 査 員     | 山 本 靖   |

# 整理事業（平成14・15年度）

## 平成14年度

|               |         |
|---------------|---------|
| 理 事 長         | 桐 川 卓 雄 |
| 副 理 事 長       | 飯 塚 誠一郎 |
| 常務理事兼管理部長     | 大 部 健   |
| 管理部           |         |
| 管 理 幹 事       | 持 田 紀 男 |
| 主 任           | 江 田 和 美 |
| 主 任           | 長 滝 美智子 |
| 主 任           | 福 田 昭 美 |
| 主 任           | 腰 塚 雄 二 |
| 主 任           | 菊 池 久   |
| 調査部           |         |
| 調 査 部 長       | 高 橋 一 夫 |
| 調 査 部 副 部 長   | 坂 野 和 信 |
| 主席調査員（資料整理担当） | 磯 崎 一   |
| 統 括 調 査 員     | 山 本 禎   |

## 平成15年度

|               |         |
|---------------|---------|
| 理 事 長         | 桐 川 卓 雄 |
| 副 理 事 長       | 飯 塚 誠一郎 |
| 常務理事兼管理部長     | 中 村 英 樹 |
| 管理部           |         |
| 管 理 部 副 部 長   | 村 田 健 二 |
| 主 席           | 田 中 由 夫 |
| 主 任           | 江 田 和 美 |
| 主 任           | 長 滝 美智子 |
| 主 任           | 福 田 昭 美 |
| 主 任           | 腰 塚 雄 二 |
| 主 任           | 菊 池 久   |
| 調査部           |         |
| 調 査 部 長       | 宮 崎 朝 雄 |
| 調 査 部 副 部 長   | 坂 野 和 信 |
| 主席調査員（資料整理担当） | 磯 崎 一   |
| 主席調査員（資料整理担当） | 金 子 直 行 |
| 統 括 調 査 員     | 山 本 禎   |

## II 遺跡の立地と環境

富士見市は首都圏30km圏に位置するため、昭和30年頃からベッドタウンとして急激な宅地の開発が行われ、高台の畑地のみならず低地の水田を埋め立て、山林を開いて進出し、伝統的な農村の景観を大きく変えることとなった。

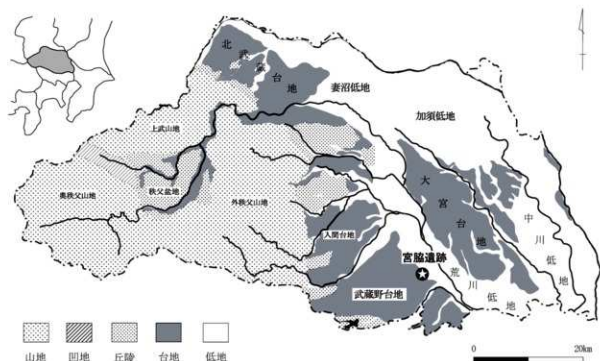
また、市域は地形から西部が武蔵野台地、東部が荒川低地に分けることができる。武蔵野台地は、秩父から奥多摩にかけて連なる関東山地から流れる古入間川と古多摩川による扇状地の氾濫原の上にできた関東ローム層の台地である。現在の荒川・入間川から多摩川にはさまれた地域が武蔵野台地である。

宮脇遺跡は、富士見市のほぼ中央部の富士見市羽沢3丁目に所在し、荒川の支流である新河岸川の右岸に形成された武蔵野台地上にある。台地は北東流する小河川により水子支台・鶴馬支台・勝瀬支台に分けられ、北側の砂川堀と南側の江川にはさまれた

鶴馬支台にある。鶴馬支台は標高27.8mを最高所にもち、東に向かって緩やかに下り、急傾斜で低地に落ちている。遺跡は、鶴馬支台の荒川低地が眼下に広がる台地縁辺に位置し、標高は20m程を測る。

遺跡の東側に形成された、北東から入り込む開析谷の左岸台地上に広がる。この谷津には現在も湧水があり、新河岸川に注ぐ小河川の水源となっている。

旧石器時代の遺跡は、台地を解析して流れる小河川流域と東部の沖積地に面した台地末端部に立地する分布の傾向がある。最も古い段階として勝瀬支台で砂川堀に注ぐさかい川流域の中沢遺跡、ナイフ形石器と石刃を出土した谷津遺跡、斧形石器を伴う打越遺跡があり、打越遺跡からは6地点6文化層が確認されている。その他、さかい川流域の西ノ原遺跡・外記塚遺跡・神明後遺跡、鶴馬支台北端の貝塚山遺跡、台地縁辺の山室遺跡・宿遺跡、江川流域の松ノ



第1図 埼玉県の地形

木遺跡・栗八ツ遺跡・氷川前遺跡・俣笠遺跡、柳瀬川左岸の北通遺跡などがある。

縄文時代の草創期の遺跡としては、石槍を出土した羽沢遺跡・打越遺跡・栗谷ツ遺跡の他に貝塚山遺跡がある。早期になると、貝塚山遺跡・御庵遺跡では竈穴が、貝層を検出した北通遺跡・山室遺跡、住居跡と竈穴を検出した氷川前遺跡・宮廻遺跡・打越遺跡・谷津遺跡のほかに貝塚山遺跡・八ヶ上遺跡・北通遺跡があり多くの遺物を出土している。打越遺跡では平地式の掘立柱建物跡や環状に住居が並び、小規模な貝塚もみられた。前期は縄文海進により貝塚がみられ、貝塚山遺跡・打越遺跡・殿山遺跡・御庵遺跡・北通遺跡では貝塚を伴う住居跡群が検出されている。宮廻遺跡・中沢遺跡・氷川前遺跡、環状貝塚の水子貝塚の他に東台遺跡などがある。中期は大規模集落が増え、環状集落の松ノ木遺跡・羽沢遺跡・中沢遺跡、その他には打越遺跡・八ヶ上遺跡・栗谷ツ遺跡・貝塚山遺跡・新田遺跡・東台遺跡などがある。後期・晩期になると遺跡数は減り、貝塚山遺跡・本目遺跡・打越遺跡・節沢遺跡・氷川前遺跡・正網遺跡・北通遺跡があり、晩期は、打越遺跡と安行期の住居跡と多量の土器が検出された正網遺跡があげられる。

弥生時代は、新河岸川右岸に中期の環濠集落の伊佐島遺跡がある。また、柳瀬川流域の南通遺跡でも環濠集落、北通遺跡では方形周溝墓が検出され、その他には打越遺跡がある。

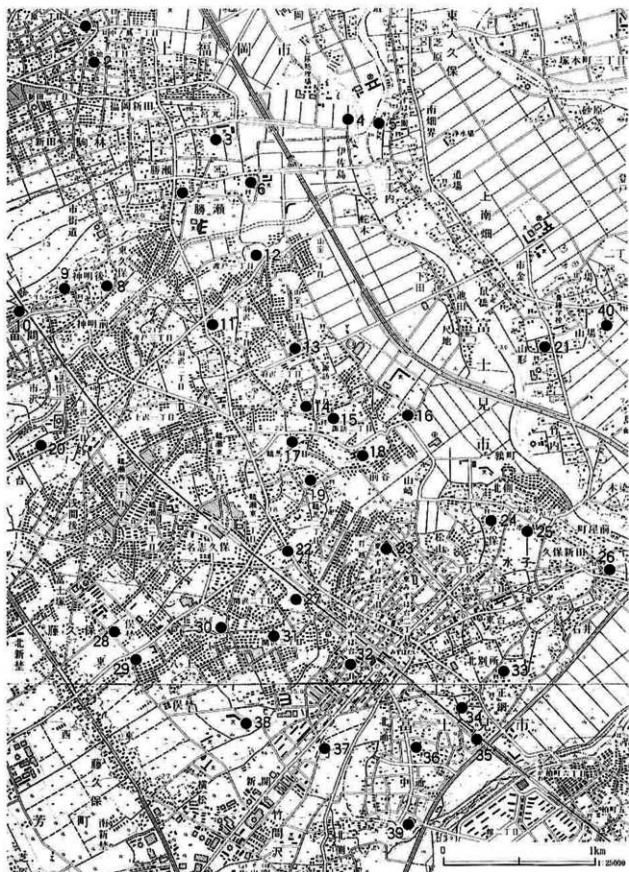
古墳時代は、前代から続く南通遺跡の他に、上内手遺跡・本目遺跡・打越遺跡・氷川前遺跡・山形遺跡・観音前遺跡があり、北通遺跡からは円形周溝墓が検出されている。

奈良・平安時代は、河川の流域台地上に集落が広がる。巡方が出土した殿山遺跡や、風土記が出土した栗谷ツ遺跡・宮脇遺跡があり、その他の集落として松山遺跡・長宮遺跡・黒貝戸遺跡・殿山遺跡・南通遺跡・上内手遺跡・谷津遺跡・栗谷ツ遺跡・北通遺跡・氷川前遺跡・東台遺跡・宮廻遺跡がある。また、栗谷ツ遺跡では須恵器窯跡、宮脇遺跡では掘立柱建物跡群・仏具鋳造工房、氷川前遺跡では掘立柱建物跡群・製鉄関連遺構、正網遺跡でも掘立柱建物跡群が検出されている。

中近世では、難波田城跡・多門氏館跡・殿山遺跡・鍛冶海戸遺跡が城館跡で、谷津遺跡・宮脇遺跡・打越遺跡・氷川前遺跡・正網遺跡・別所遺跡・北通遺跡・山形遺跡で遺構が確認され、近世では上内手遺跡がある。

第2図 宮脇遺跡周辺の遺跡地名

|         |          |          |            |         |         |          |                |
|---------|----------|----------|------------|---------|---------|----------|----------------|
| 1 松山遺跡  | 2 長宮遺跡   | 3 豊森遺跡   | 4 伊佐島遺跡    | 5 上内手遺跡 | 6 宮廻遺跡  | 7 鍛冶海戸遺跡 | 8 淨禅寺遺跡        |
| 9 神明後遺跡 | 10 中沢遺跡  | 11 羽沢遺跡  | 12 貝塚山遺跡   | 13 山室遺跡 | 14 宮脇遺跡 | 15 黒貝戸遺跡 | 16 宿遺跡 (多門氏館跡) |
| 17 谷津遺跡 | 18 殿山遺跡  | 19 御庵遺跡  | 20 東台遺跡    | 21 山形遺跡 | 22 新田遺跡 | 23 打越遺跡  | 24 氷川前遺跡       |
| 25 水子貝塚 | 26 観音前遺跡 | 27 八ヶ上遺跡 | 28 藤久保第三遺跡 | 29 俣笠遺跡 | 30 本目遺跡 | 31 節沢遺跡  | 32 松ノ木遺跡       |
| 33 正網遺跡 | 34 栗谷ツ遺跡 | 35 別所遺跡  | 36 北通遺跡    | 37 新開遺跡 | 38 唐沢遺跡 | 39 南通遺跡  | 40 難波田城跡       |



第2図 周辺の遺跡

### III 遺跡の概要

宮脇遺跡は、武蔵野台地東端部に位置し、台地を解析して流れる小河川によって分断された鶴馬支台に占地する。台地はさらに小支谷が樹枝状に発達し複雑な地形をつくっている。遺跡の北側は荒川低地へとおちる急峻な崖となっており、東側には小支谷が北東方向から入り込み、谷頭からは湧水があり沖積地の荒川低地へと流れている。

宮脇遺跡の調査は、富士見市によって24地点の発掘調査と区画整理事業に伴う発掘調査、また旧羽沢前遺跡の3箇所と都市計画道路部分を含めて30箇所を越える発掘調査が実施されてきている。これまでの調査では、縄文時代前期黒浜期の住居跡9軒、中期の住居跡4軒、埋蔵2基、古墳時代後期の鬼高期後期の住居跡1軒、奈良時代の掘立柱建物跡1棟、平安時代の住居跡35軒、掘立柱建物跡6棟の他に、溝跡16条、柱穴列12列などが検出されている。縄文時代の住居跡のうち4軒で貝層を伴っており、遺跡東南部で検出されている。奈良時代の遺構は、南に隣接する谷津遺跡で検出されている。平安時代の住居跡では、第17地点第28号住居跡からは、鉄滓・銅滓の他に鋳型が出土し、第8地点第7号住居跡からも鋳型が出土している。

今回の発掘調査は、宮脇遺跡北部の中央を貫くような北東から南西方向の都市計画道路部分であった。調査によって確認された遺構は、縄文時代中期の堅穴住居跡4軒、土坑59基、ピット296基、奈良前代の堅穴住居跡2軒、奈良・平安時代の堅穴住居跡12軒、土坑26基、溝跡4条、それ以降の時代ものとして掘立柱建物跡2棟、柵列1条、土坑76基、溝跡19条、ピット208基、地下式坑1基、落ち込み状遺構3基である。

調査区全体としてはほぼ平坦で、調査区北東端は北東から入り込んでいる小支谷の肩部にあり、極僅

かに東に傾斜している。遺構の分布は全体的に見ると比較的疎らである。

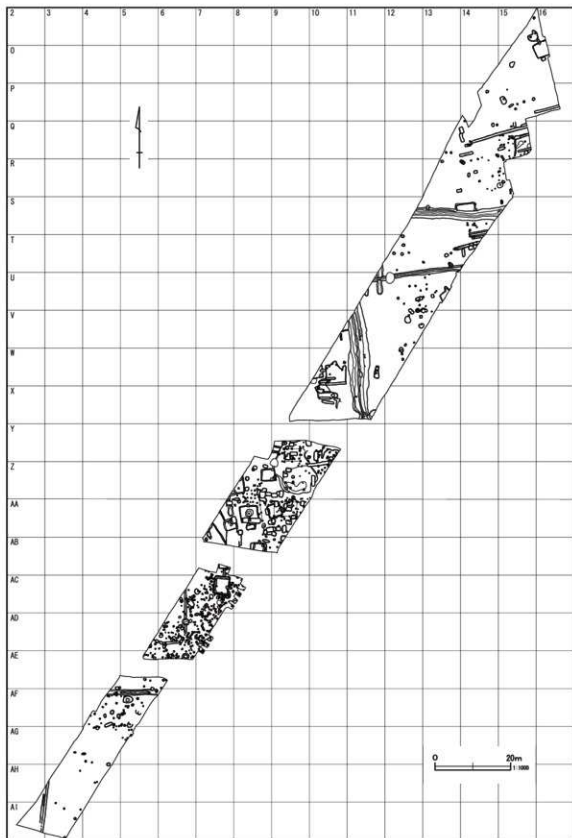
Ⅲ区には奈良・平安時代の住居跡5軒が、点在している状況である。土坑も重複するものは殆どない状況である。溝はほぼ東西方向に伸びるもの、南北方向に伸びるもの、やや軸が偏して南北に伸びるものがある。いずれも区画溝であり、東西に伸びる溝が最も古い。南北に走る溝は近世遺物が出土したことから、近世の区画溝とみられる。

Ⅰ-Ⅰ区も、土坑・溝のみで遺構が疎らである。

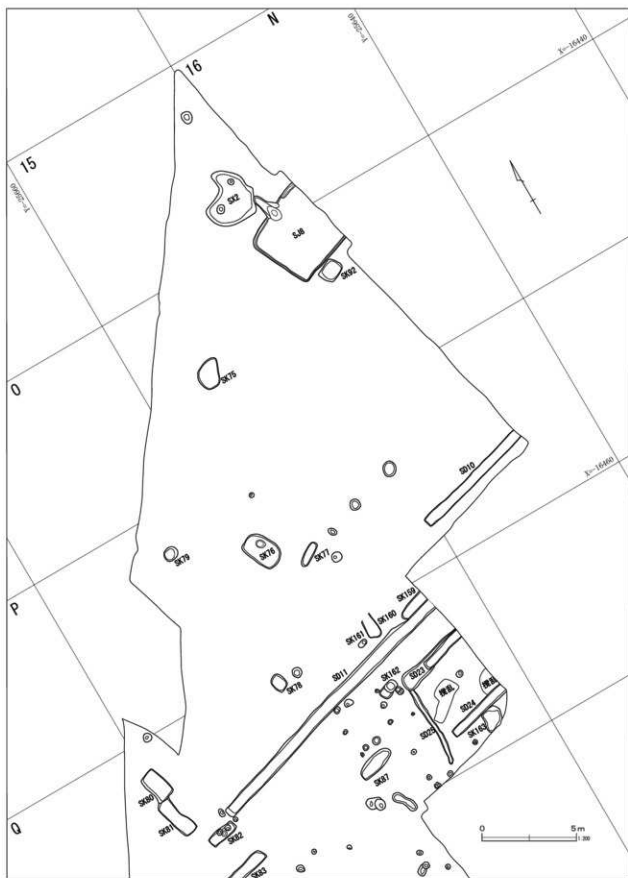
Ⅰ-Ⅱ区とⅡ区では、堅穴住居跡13軒が検出された。Ⅰ-Ⅱ区では、縄文時代中期の堅穴住居跡4軒と、その北に奈良前代から平安時代の堅穴住居跡9軒が検出された。縄文時代の住居跡は後世の耕作などで削平されているため、戸跡と柱穴のみの確認であった。縄文時代とみられるピットも多数検出されている。縄文時代と平安時代の住居跡との重複が1軒あったが、縄文時代の住居跡の掘り込みは浅いため平安時代の堅穴住居跡に壊されていた。平安時代の堅穴住居跡に入れ子状に重複したものは1箇所のみであったが、他のものは重複がなかった。カマドを粘土で構築した住居跡が3軒検出され、1軒はカマドの両脇の住居跡壁面にも粘土が貼り付けられていた。

遺物は、縄文土器深鉢、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・甕・短頸壺・瓶の他、風字硯、土製紡錘車、土錘、砥石、石臼、鉄製品では鎌などが出土し、近世の遺物は、陶磁器、瓦、銭貨、金属製品が出土し、銭貨は「寛永通寶」の他に銀貨「文政南嶺一朱銀」が出土した。

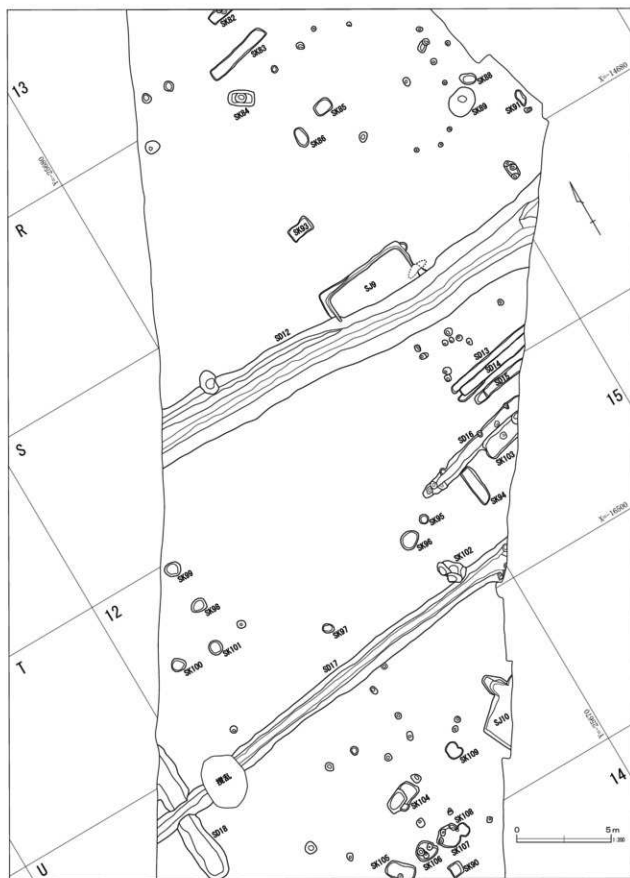




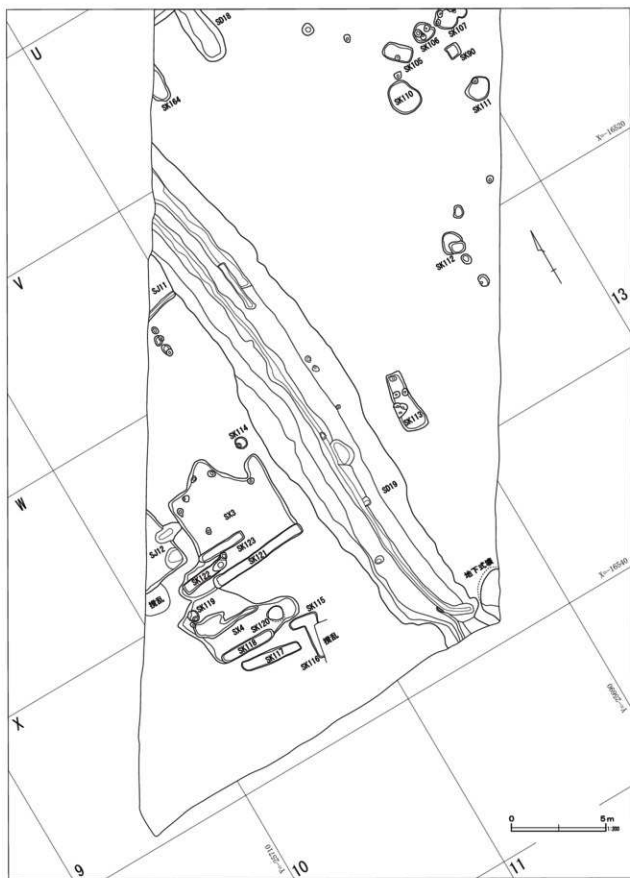
第4図 宮脇遺跡全測図



第5图 III区全测图(1)



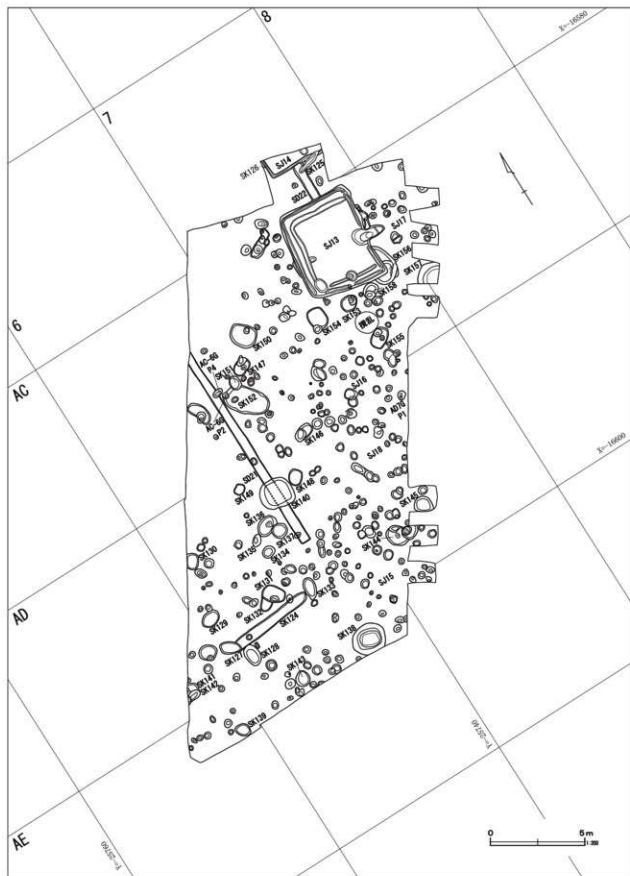
第6图 III区全测图(2)



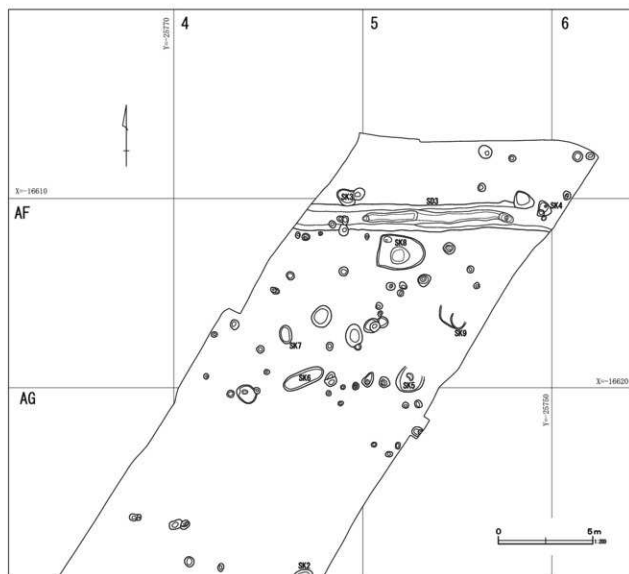
第7図 III区全測図 (3)



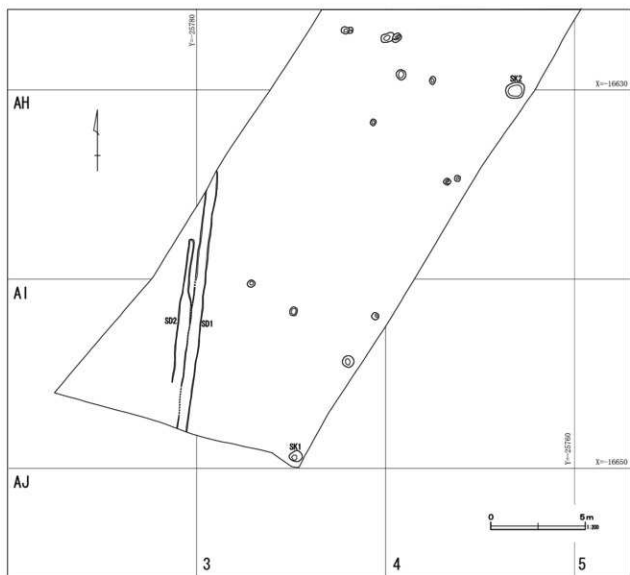
第8图 II区全测图



第9図 I-2区全測図



第10図 I-1区全測図(1)



## IV 遺構と遺物

### 1. 縄文時代の遺構と遺物

#### (1) 住居跡

##### 第15号住居跡 (第12図)

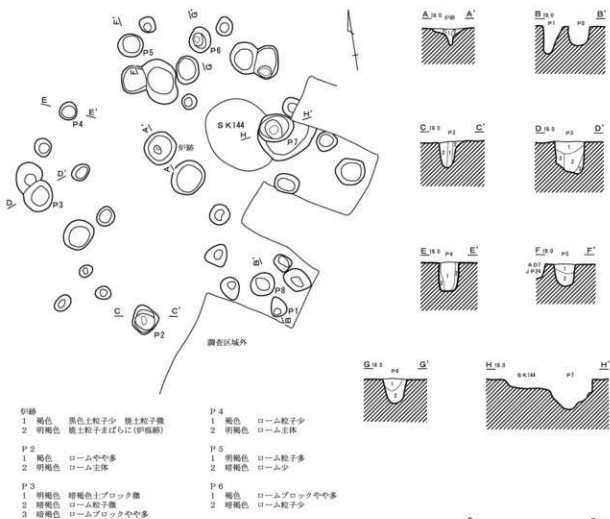
A E-6・7グリッドを中心に位置する。床面が削平され依存状態は悪く、東側一部が調査区域外となっており、平面形は、炉跡と周囲を巡る柱穴によって確認された4.5~5.0m程の円形である。

炉跡は、住居跡のやや北よりに設けられ径50cmの円形で、深さ10cm程度を測るが、炉床の硬化は認められなかった。

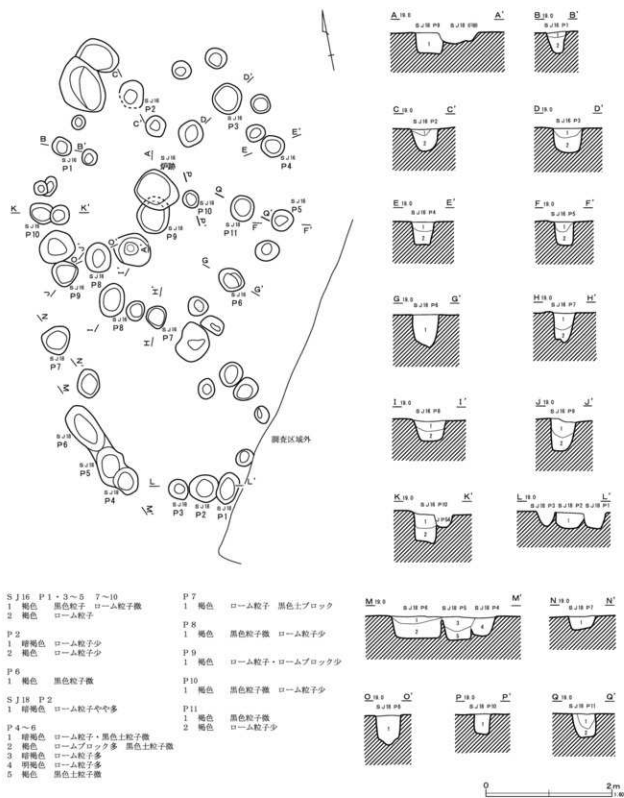
柱穴は、調査区域外は不明であるが計7本検出し、径30cm程で、深さはP5は35cm、他は40~50cm程である。

##### 第16号住居跡 (第13図)

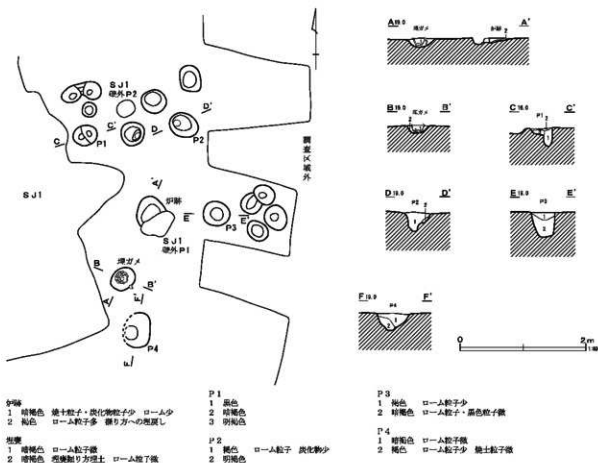
A C・A D-7グリッドに位置する。南半で18号住居跡と重複し、切っている。床面が削平され依存状態は悪く平面形は、炉跡と周囲を巡る柱穴によって確認された4m程の円形である。



第12図 第15号住居跡



第13図 第16・18号住居跡



第14图 第17号住居跡

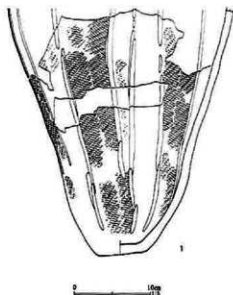
炉跡は、住居跡のほぼ中央部に設けられ、規模は65 cm×85 cmの隅丸方形気味で深さ12～16 cmを測る。

柱穴は、計10本検出し、径30～50 cmの円形で、深さ30～50 cmを測る。

第17号住居跡 (第14図)

AC-7・8グリッドに位置する。西側が第13号住居跡と重複し、切られている。床面が削平され依存状態は悪く、東側の一部は調査区域外となっている。平面形は、炉跡と周囲を巡る柱穴によって確認された4m程度の円形とみられる。

肝鉢は、東側のP3寄りに設けられている。南側が他のピットに填されているが、径50 cmほどの円形で、深さ15 cmほどを測る。また、南側のP4寄りに埋壺を検出した。深鉢を正位に埋設し、口縁部は欠損していた。埋設土器の掘り方は、40×30 cmの楕円形で、深さ15 cm程を測る。



第15图 第17号住居跡出土遺物

柱穴は、計4本検出し、径35～50cmの円形及び楕円形で、深さ30～40cmを測る。

#### 第17号住居跡出土遺物 (第15図)

住居跡内に埋設されていた土器である。上半を欠くが埋設時に切断されたものと考えられる。口縁下に沈線を巡らし、以下、縦位区画のみが展開する構成だろう。

#### 第18号住居跡 (第13図)

AD-7グリッドに位置する。第16号住居跡と重複し、切られている。東側は調査区域外であり、床面が削平され依存状態は悪く平面形は、周囲を巡る柱穴によって確認された5m程の円形である。

炉跡は確認できなかった。

柱穴は、計11本検出したが、東側は不明である。径30～50cmの円形が主体で、深さ20～30cmと浅いものが主体である。

## (2) 土 坑

#### 第11号土坑 (第16・22図)

AA・AB-7グリッドに位置する。第12号土坑と重複し、切られている。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ200cm以上、幅96cm、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-20°-Wを指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第12号土坑 (第16図)

AA-7グリッドに位置する。第11号土坑と重複し、切っている。平面形は、北西半が調査区外で不明確であるが円形を呈するとみられる。確認できた規模は、径86cm、深さ33cmを測る。主軸方位は、N-32°-Eを指す。

遺物は、縄文土器小片が出土した。

#### 第17号土坑 (第16図)

AA-8グリッドに位置する。第18号土坑と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、方形を呈するとみられる。規模は、長さ90cm以上、幅115cm、深さ37cmを測る。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

#### 第18号土坑 (第16・22図)

AA-8・9グリッドに位置する。第17号・第19号・第20号土坑と重複しているが先後関係は不明である。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ187cm、幅200cm、深さ64～70cmを測る。主軸方位は、N-79°-Eを指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第19号土坑 (第16・22図)

AA-9グリッドに位置する。第18号・第20号土坑と重複するが、先後関係は不明である。平面形は、方形を呈するとみられる。規模は、長さ68cm以上、幅110cm、深さ52cmを測る。主軸方位は、N-11°-Wを指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第20号土坑 (第16・22図)

AA-8・9グリッドに位置する。第18号・第19号土坑と重複するが、先後関係は不明である。平面形は、方形を呈するとみられる。規模は、長さ120cm以上、幅115cm、深さ65cmを測る。主軸方位は、N-74°-Wを指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第21号土坑 (第16図)

AA-9グリッドに位置する。平面形は、方形を呈する。規模は、長さ122cm、幅106cm、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

遺物は、縄文土器片の他に、後世の混入物と見られる凝灰岩製砥石が出土した。

#### 第23号土坑 (第16・22図)

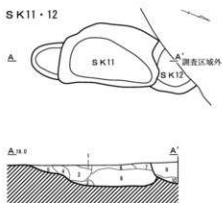
AA-8・9グリッドに位置する。第24号土坑と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ170cm、幅108cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-85°-Wを指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

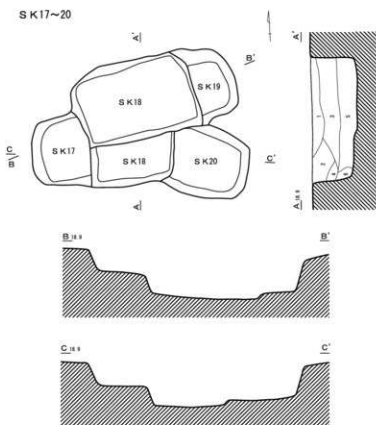
#### 第24号土坑 (第16・22図)

AA-9グリッドに位置する。第23号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ140cm、幅106cm、深さ48cmを測る。

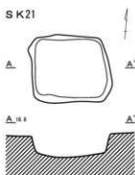
SK11・12



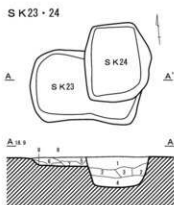
SK17~20



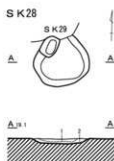
SK21



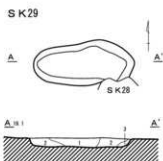
SK23・24



SK28



SK29



0 2m

SK11・12

- 1 黒褐色 10YR3/1 締まりやや強い
- 2 黒褐色 10YR3/2 締まり強い
- 3 暗褐色 10YR3/4 締まり強い
- 4 暗褐色 10YR3/4 黒褐色土
- 5 暗褐色 10YR3/3
- 6 黒褐色 10YR3/1
- 7 黒褐色 10YR3/1 暗褐色土
- 8 暗褐色 10YR3/2
- 9 黒色 10YR2/1 黄褐色微粒子

SK18

- 1 暗褐色 10YR3/3 締まりなし
- 2 黒褐色 10YR3/2 締まりなし
- 3 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック若干
- 4 黒褐色 10YR3/2 ロームブロック若干
- 5 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック極多
- 6 ロームブロック 黒褐色土

SK23・24

- 1 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック僅か
- 2 暗褐色 10YR3/3 黒褐色土・ロームブロック若干
- 3 ロームブロック
- 4 灰黄褐色 10YR4/2
- 5 黄褐色 10YR3/2
- 6 黒褐色 10YR3/2 黄褐色土若干
- 7 黒褐色 10YR2/2
- 8 黄褐色 10YR5/6

SK28

- 1 黒褐色 10YR3/2
- 2 褐色 10YR4/4

SK29

- 1 黒褐色 10YR2/3 黄褐色土僅か
- 2 黒色 10YR2/1 黄褐色土若干
- 3 褐色 10YR4/4 黒色土

第16図 土坑(1)

主軸方位は、 $N-2^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第28号土坑 (第16図)

AA-8グリッドに位置する。第29号土坑・AA-8グリッドビット1と重複するが、先後関係は不明である。平面形は、不整形を呈する。規模は、径88cm×73cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、 $N-88^{\circ}-E$ を指す。

#### 第29号土坑 (第16図)

AA・Z-8グリッドに位置する。第28号土坑・AA-8グリッドビット1と重複するが、先後関係は不明である。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸160cm、短軸68cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、 $N-88^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文土器小片が出土した。

#### 第31号土坑 (第17図)

AA-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈し、南東隅にビットが付随している。規模は、長さ130cm、幅104cm、深さ27cmを測る。主軸方位は、 $N-87^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、縄文土器小片が出土した。

#### 第33号土坑 (第17図)

AA-9グリッドに位置する。第34号・第53号土坑が重複し、第34号土坑を切っており、第53号土坑との先後関係は不明である。平面形は、長方形を呈し、西辺にビットが付随している。規模は、長さ141cm、幅90cm、深さ48cmを測る。主軸方位は、 $N-18^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文土器小片が出土した。

#### 第34号土坑 (第17図)

AA-9グリッドに位置する。第33号土坑と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ203cm、幅93cm、深さ25cmを測る。主軸方位は、 $N-89^{\circ}-E$ を指す。

#### 第52号土坑 (第17図)

AA-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ124cm、幅95cm、深さ19

cmを測る。主軸方位は、 $N-6^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第53号土坑 (第17図)

AA-9グリッドに位置する。第33号土坑と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、L字形を呈する。規模は、長さ167cm、幅112cm～150cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、 $N-2^{\circ}-E$ を指す。

#### 第55号土坑 (第17・22図)

AA-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ147cm、幅107cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第58号土坑 (第17・22図)

Y-10グリッドに位置する。東辺でY-9グリッドビット1と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ241cm、幅112cm、深さ31cmを測る。主軸方位は、 $N-87^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

#### 第60号土坑 (第17図)

Y-9・10グリッドに位置する。ビット2基が重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸90cm、短軸71cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、 $N-34^{\circ}-E$ を指す。

#### 第62号土坑 (第17・22図)

Y-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ128cm、幅94cm、深さ47cmを測る。主軸方位は、 $N-86^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、縄文土器が出土した。

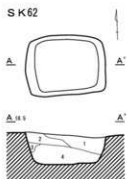
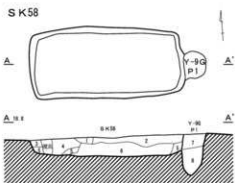
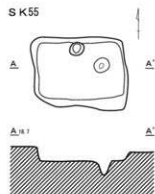
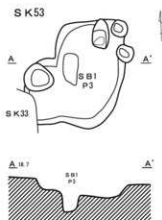
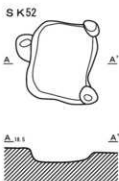
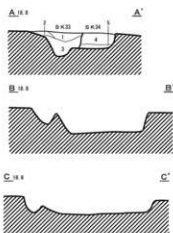
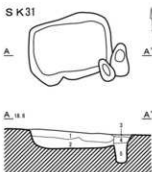
#### 第67号土坑 (第18図)

Y-9グリッドに位置する。第66号土坑に切られ、平面形は不明で、規模は、長さ50cm以上、幅70cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第75号土坑 (第18図)

O-15グリッドに位置する。平面形は、不整形円形を呈する。規模は、長軸172cm、短軸111cm、

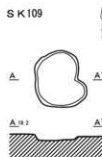
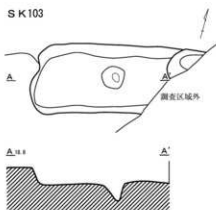
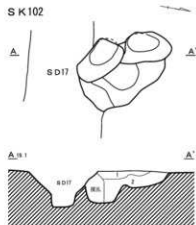
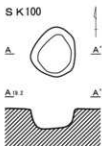
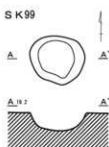
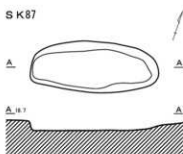
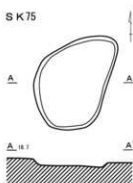
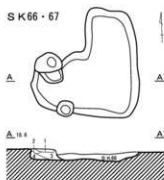


- S K31
- 1 暗褐色 10YR3/3 粗粒
  - 2 黒褐色 10YR2/2
  - 3 黒色 10YR2/1 結まりなし
  - 4 黒褐色 10YR3/1 ローム小ブロック
  - 5 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック
- S K33・34
- 1 に少し黄褐色 10YR4/2
  - 2 黒褐色 10YR3/1 ローム小ブロック若干
  - 3 黒褐色 10YR3/2 結まりなし
  - 4 暗褐色 10YR3/2 ロームブロック若干
  - 5 暗褐色 10YR3/2 ロームブロック多

- S K58
- 1 褐色 10YR4/4 ロームブロック多
  - 2 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子・ロームブロック多
  - 3 褐色 10YR4/4 ロームブロック多
  - 4 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子・ロームブロック多
  - 5 褐色 10YR4/4 ロームブロック多
  - 6 褐色 10YR4/4 ロームブロック多 炭化物多
  - 7 黒褐色 10YR3/2 ローム粒子多
  - 8 褐色 10YR4/4 ローム粒子・ロームブロック多

- S K62
- 1 褐色 10YR4/4 ローム粒子・ロームブロック 結性ややあり 結まりなし
  - 2 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック
  - 3 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック・炭化物
  - 4 褐色 10YR4/4 ロームブロック・ローム粒子多

第17図 土坑 (2)



- S K 67
- 1 焼土 10192/1 焼土 被熱し硬質
  - 2 黒色 10192/1 焼土若干
  - 3 黒色 10192/2 焼土若干
  - 4 灰黄褐色 10193/2 跡まりなし
- S K 102
- 1 暗褐色 10193/3
  - 2 黒褐色 10193/2 跡まりややあり

0 2 m

第18図 土坑 (3)

深さ7cmを測る。主軸方位は、N-40°-Eを指す。

#### 第79号土坑 (第18図)

P-14グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径77cm×74cm、深さ47cmを測る。主軸方位は、N-39°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第87号土坑 (第18図)

Q-15グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸203cm、短軸81cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-72°-Eを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第95号土坑 (第18図)

T-13グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径51cm、深さ11cmを測る。中央に礫が直立していた。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第99号土坑 (第18図)

T-12グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径87cm×76cm、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-55°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第100号土坑 (第18図)

T-12グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径74cm×70cm、深さ31cmを測る。主軸方位は、N-35°-Eを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第101号土坑 (第18図)

T-12グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径76cm×72cm、深さ32cmを測る。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第102号土坑 (第18・22図)

T-13グリッドに位置する。第17号溝と重複し、切られている。平面形は、ビットが重複したような不整形を呈する。規模は、長さ138cm、幅98cm、深さ49cmを測る。主軸方位は、N-9°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第103号土坑 (第18図)

T-14グリッドに位置する。東部は調査区域外で、第16号溝と重複しているが、先後関係は切られていると考えられる。平面形は、隅丸長方形を呈する。確認できた規模は、長さ217cm、幅107cm、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第109号土坑 (第18図)

U-13グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ91cm、幅68cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-12°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第110号土坑 (第19・22図)

V-12グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径181cm×150cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-12°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第111号土坑 (第19図)

V-12・13グリッドに位置する。北壁際のビットは、先後関係、付随するものかは不明である。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径140cm×113cm、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第112号土坑 (第19図)

V・W-12グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ137cm、幅120cm、深さ7~12cmを測る。主軸方位は、N-16°-Wを指す。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第114号土坑 (第19図)

W-10グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径63cm、深さ10cmを測る。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第115号土坑 (第19図)

X-10グリッドに位置する。第116号土坑と重複し、切っていると考えられる。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ159cm、幅57cm、深

さ3cmを測る。主軸方位は、 $N-83^{\circ}-W$ を指す。

#### 第127号土坑 (第19図)

AD-6グリッドに位置する。第124号土坑と重複し、切られているが浅いため平面形は確認でき、楕円形を呈する。規模は、長軸116cm、短軸67cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、 $N-56^{\circ}-W$ を指す。

#### 第128号土坑 (第19図)

AD-6グリッドに位置する。第124号土坑と重複し、切られているが浅いため平面形は確認でき、楕円形を呈する。規模は、長軸113cm、短軸75cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、 $N-85^{\circ}-E$ を指す。

#### 第129号土坑 (第19図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸107cm、短軸75cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、 $N-76^{\circ}-E$ を指す。

#### 第130号土坑 (第19図)

AD-6グリッドに位置する。西側一部が調査区域外である。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸88cm、短軸63cm以上、深さ11cmを測る。主軸方位は、 $N-32^{\circ}-E$ を指す。

#### 第131号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。第132号土坑と重複し切っている。坑底にピットがあるが先後関係は不明である。平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ124cm、幅87cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、 $N-39^{\circ}-W$ を指す。

#### 第132号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。第131号土坑と重複し切られている。平面形は、楕円形と考えられる。規模は、長軸60cm以上、短軸59cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、 $N-50^{\circ}-E$ を指す。

#### 第133号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長軸119cm、短軸64cm、深さ19cmを測る。主軸方位は、 $N-20^{\circ}-E$ を指す。

#### 第134号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、円形を

呈する。規模は、径63cm×70cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、 $N-52^{\circ}-E$ を指す。

#### 第135号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸70cm、短軸40cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、 $N-45^{\circ}-E$ を指す。

#### 第136号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。第137号土坑と重複し、切られている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸118cm、短軸83cm、深さ27cmを測る。主軸方位は、 $N-69^{\circ}-E$ を指す。

#### 第137号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。第136号土坑と重複し、切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径80cm×82cm、深さ14cmを測る。

遺物は、縄文土器片が出土した。

#### 第140号土坑 (第20図)

AD-6グリッドに位置する。第21号溝と重複し、切られているが、坑底まで達していない。平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ178cm、幅154cm、深さ40cmを測る。主軸方位は、 $N-79^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、縄文土器・石鏃が出土した。

#### 第141号土坑 (第20図)

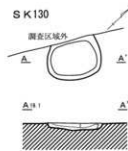
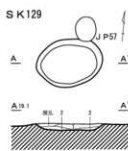
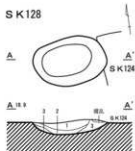
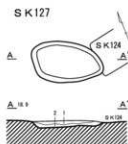
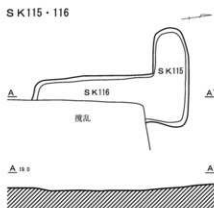
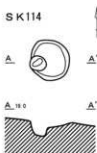
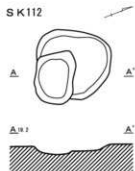
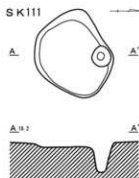
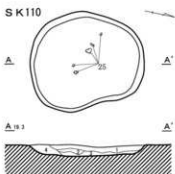
AD-5グリッドに位置する。西側は調査区域外で、第142号土坑・ピット6と重複し、第142号土坑・ピット6に切られている。平面形は不明であるが、規模は、残存部で長さ55cm、幅42cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、 $N-75^{\circ}-W$ を指す。

#### 第142号土坑 (第20図)

AD-5グリッドに位置する。西側は調査区域外となっており、第141号土坑・ピット5・6と重複し、ピット5・6に切られている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸59cm以上、短軸44cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、 $N-88^{\circ}-E$ を指す。

#### 第147号土坑 (第20図)

AC-6グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸102cm、短軸68cm、深さ



SK110

- 1 黒褐色 10YR3/2
- 2 黒色 10YR2/1 締まり強い
- 3 黒褐色 10YR2/2 ローム多
- 4 黒褐色 10YR3/1 締まりなし

SK127

- 1 暗褐色 焼土粒子・黒色土ブロック少
- 2 明褐色

SK128

- 1 暗褐色 焼土粒子少 ローム粒子微
- 2 暗褐色 ローム粒子やや多
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロックやや多

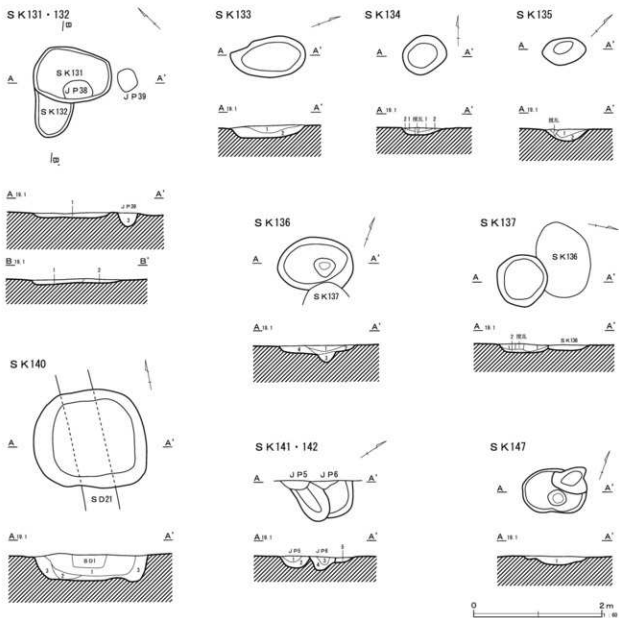
SK129

- 1 暗褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少
- 2 明褐色 ローム主体 暗褐色土ブロック少

SK130

- 1 暗褐色 ローム粒子多
- 2 明褐色 ローム主体

第19図 土坑(4)



SK 131・132

- 1 暗褐色 黒色土ブロック
- 2 暗褐色 ローム粒子やや多
- 3 暗褐色 ローム粒子少

SK 133

- 1 暗褐色 ローム粒子少
- 2 褐色 暗褐色土をブロック状に含む  
ローム粒子やや多

SK 134

- 1 褐色 暗褐色土をブロック状に含む
- 2 明褐色 ローム主体 褐色土しみ状に含む

SK 135

- 1 暗褐色 ローム粒子やや多
- 2 明褐色 ローム主体 黒色土ブロック少

SK 136

- 1 暗褐色 ロームブロック少
- 2 明褐色 ローム主体 黒色土ブロック少
- 3 明褐色 ローム主体
- 4 明褐色 ロームブロックやや多

SK 137

- 1 明褐色 ロームブロック少
- 2 暗褐色 ローム主体 炭化物粒子微量

SK 140

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少
- 3 明褐色 ロームブロック多

SK 141・142

- 1 暗褐色 ローム粒子 炭化物粒子微量
- 2 暗褐色土 炭化物粒子微量
- 3 暗褐色土 炭化物粒子 焼土粒子微量
- 4 褐色土 ロームブロック少量
- 5 暗褐色土 ロームブロック 炭化物粒子微量

SK 147

- 1 暗褐色 黒色粒子・ロームブロック少

第20図 土坑 (5)

を呈する。規模は、長軸102cm、短軸68cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。

#### 第148号土坑 (第21図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径86cm×70cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-40°-Eを指す。

#### 第149号土坑 (第21図)

AD-6グリッドに位置する。平面形は、不整形円形を呈する。規模は、径59cm×52cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-44°-Eを指す。

#### 第150号土坑 (第21図)

AC-6・7グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ142cm、幅117cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-44°-Wを指す。

#### 第151号土坑 (第21図)

AC-6グリッドに位置する。第30号土坑と重複し、切っている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸76cm、短軸57cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N-28°-Wを指す。

#### 第152号土坑 (第21図)

AC-6グリッドに位置する。第29号土坑・縄文ピット12・AC-6グリッドピット2と重複し、第29号土坑・AC-6グリッドピット2に切られ、縄文ピット12を切っている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸251cm、短軸137cm、深さ19cmを測る。主軸方位は、N-47°-Wを指す。

#### 第153号土坑 (第21図)

AC-7グリッドに位置する。縄文ピット33と重複し、切られる。平面形は、円形を呈する。規模は、径95cm×80cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-85°-Eを指す。

#### 第157号土坑 (第21図)

A・C-7グリッドに位置する。平面形は、円形を呈すると考えられる。規模は、現存径114cm×106cm、深さ64cmを測る。主軸方位は、N-39°-Eを指す。

#### 第163号土坑 (第21図)

Q-5グリッドに位置する。第24号溝と重複し、切られている。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ118cm、幅95cm、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-13°-Eを指す。

#### 土坑出土遺物 (第22図)

土坑よりは土器を主体とする遺物が出土したが、1基あたりの出土量は少なく、また、接合がかなわぬ破片資料が多かった。器形を復元できるものは1個体にすぎず、全体の構成は判然としない。石器2点を含む27点を図示したが、1と20を除くすべてが中期末から後期初頭に製作されたものと考えられる。

#### 第11号土坑出土遺物 (第22図1)

1は竹管による深い縦位集合線が残る。勝坂系後葉の所産だろう。

#### 第18号土坑出土遺物 (第22図2～7)

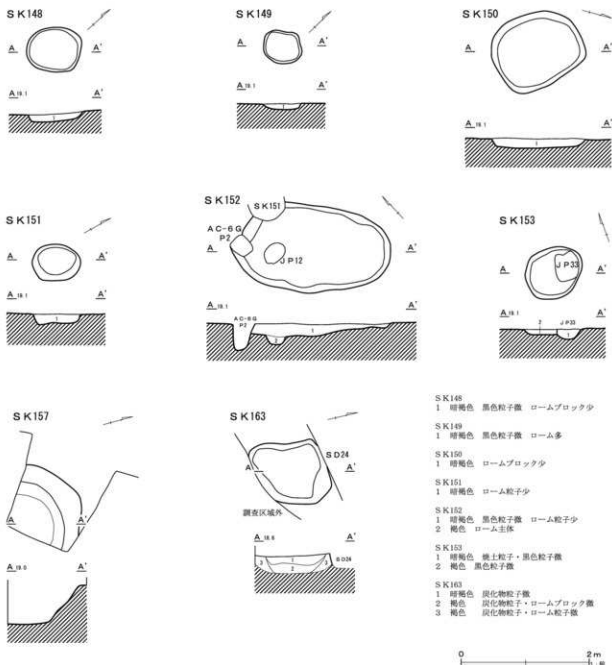
土坑の中では比較的多く土器破片が出土したが、接合はせず、全体の構成が確定できない土器5点を示せたにすぎない。2・3は、波状口縁下にこれに沿った微隆起や沈線を配置し、以下を全面縄文にする個体と考えられる。また、4は縦位区画構成だろう。5・6は、残存部のすべてが無節縄文だが、器形傾斜から深鉢形土器の一部と思われる。そして、7は先端をわずかに欠く凹基盤で脚部は非対称となる。チャート製。

#### 第19号土坑出土遺物 (第22図8・9)

2点の土器破片を示した。同個体かは判別できないものの、いずれも微隆起で縦位あるいは波状区画を成するものである。9は口縁下の内折部で、横位区画の微隆起も認められる。

#### 第20号土坑出土遺物 (第22図10～12)

3点の拓影図を示したが、10は沈線、11は微隆起での区画構成を施している。おそらく、前者は縦位区画のみ、後者は波状区画となるだろう。また、12は、縦位の直条線のみが観察できる破片で、深鉢形土器の一部と考えられる。



第21図 土坑 (6)

#### 第23号土坑出土遺物 (第22図13)

13の1点のみを示したが、縄文施文部で、詳しい構成は不明である。

#### 第24号土坑出土遺物 (第22図14～18)

土器が比較的多く出土した遺構であるが、接合はかななかった。土器拓影5点を示したが、大方が、縄文帯の下方が開放される構成をとるものと考えら

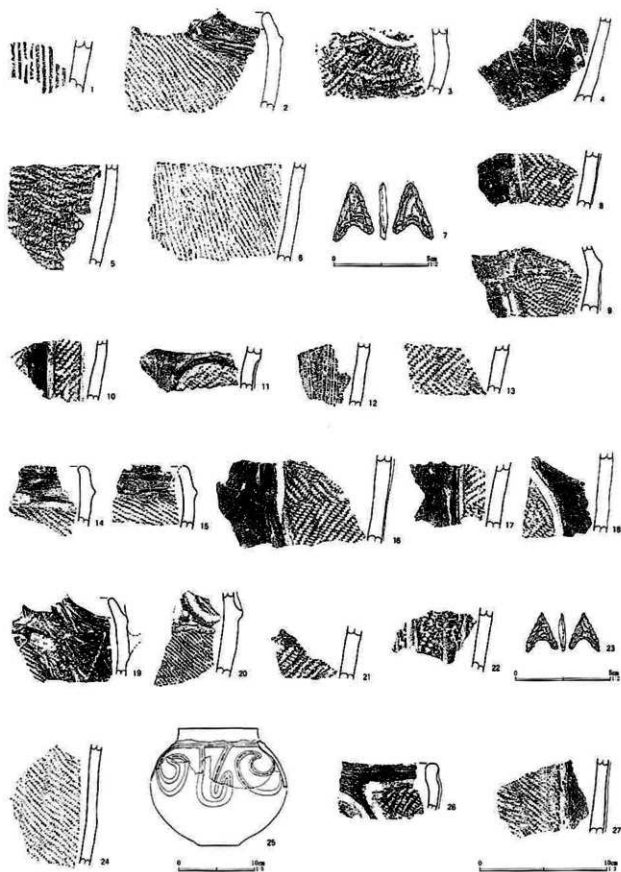
れる。14・15は同一個体。

#### 第55号土坑出土遺物 (第22図19)

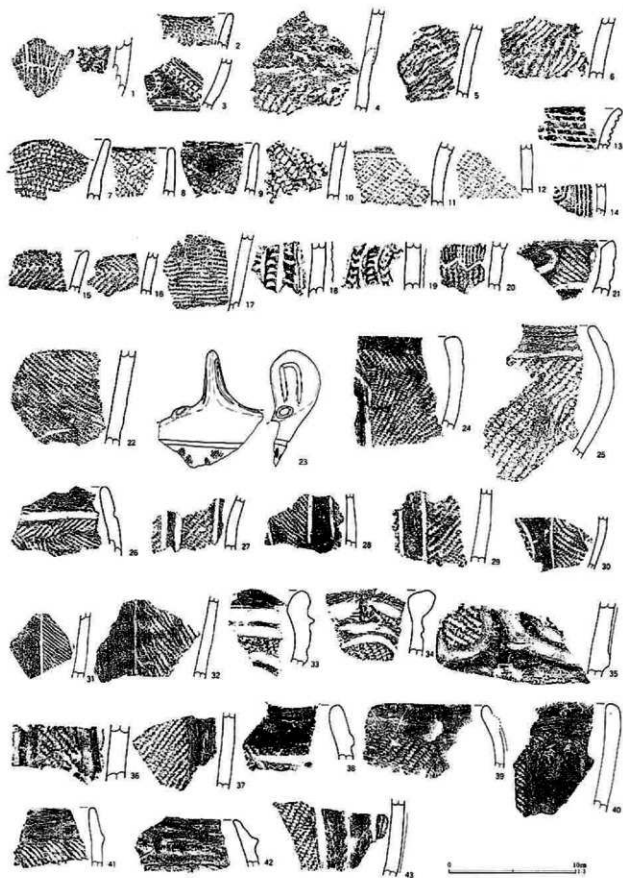
19の1点のみを示したが、波状口縁の頂部橋状把手部の破片である。

#### 第58号土坑出土遺物 (第22図20)

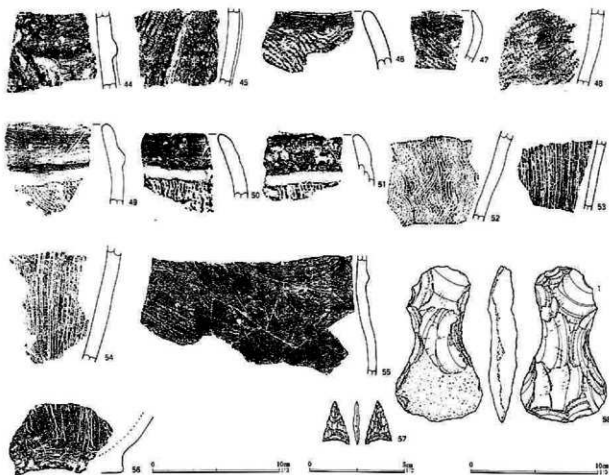
出土遺物は少なく、20の拓影を示せたにすぎない。同番は勝坂系の胴部文様帯部で、上位に弧を描く隆



第22図 土坑出土遺物



第23图 遼朝外出土遺物 (1)



第24図 遺構外出土遺物（2）

帯が残るが、文様の展開は不明である。

第62号土坑出土遺物（第22図21・22）

2点の中期末破片を示せたのみで、全体の構成は判然としない。

第92号土坑出土遺物（第22図23）

23の石鉄のみが出土した。完存の凹基鉄で、一方の側縁が弧状となる。チャート製。

第102号土坑出土遺物（第22図24）

24の縄文施文破片が図示できたのみである。深鉢の一部と考えられるが区画構成は不明である。

第110号土坑出土遺物（第22図25～27）

第18号などと並び、比較的多くの破片が出土し、器形復元可能な1点を得た。25は無文地に微隆起区画のJ字文を交互に向きをかねて配置する壺形土器である。全周はせず、口縁部を欠いているため、

把手や孔部の有無は確定できない。また、26・27は微隆起縁で区画を成する深鉢片である。

### （3）遺構外出土遺物

土器（第23・24図1～56）

遺構外より出土した縄文時代の遺物は土器が主体である。製作時期は、早期条痕文系から前期羽状縄文系、竹管文系から前期末、勝坂系を含め、中期末から後期初頭の加曾利E系まで、大きくわけて5つの時代に分かれる。

1は、唯一図示できた条痕文系土器で、器面調整痕のみが残る。

2～12は、羽状縄文系土器で、いわゆる黒浜式期の所産がもっぱらである。2・3は大型菱形文系の構成をとると思われ、前者は口縁下の縦列点帯

である。縄文を施文するものでは、無節（4～6）、単節（7～10）、附加条手法を用いた異条斜縄文（11・12）などがあり、11の破片上端には文様帯区画線がわずかに残る。

13～17は竹管文系から前期末葉の土器群と考えられ、13は外反する口縁部に横位の爪形列を施す諸磯a期の個体である。また、14は竹管による深い集合沈線を用いて縦位区画を成し、その間に曲線文を充填している。そして、15～17は縄文のみが観察できるもので、前二者は結束羽状縄文を施文している。17は縄文原体の特徴が、後述の加曾利E系にも似ているが、胎土の質感から、乱雑な施文位をとる同期東関東系の全面縄文施文土器と考えた。

18～22は中期勝坂系の土器と判断したが、区画文構成の全体を想定できるものはない。18～20は胴部文様帯の区画内充填文で、21は無文区画部を強調する抽象文系列の破片と考えられる。また、22は、下位縄文施文部の破片である。

23～56は、出土縄文土器の主体を占める中期末から後期初頭にかけての加曾利E系土器で、23～32が沈線で区画を成するものである。縦位を主と

する区画の無文帯はやや狭く、直線的である。また、33～37は、浮彫的低隆帯手法で上位に大型渦巻きを、下位に垂下文を配する構成となる。

これに対し、38～45は微隆起で縄文帯を区画するもので、なかには縄文施文によって微隆起が潰れてしまうものもあるが、それを含め、概して大区画を成している。そして、46～48は縄文のみが観察できるもの、49～54は条線施文の個体である。条線施文のうち前四者は蛇行条線を縦位に施文しており、鉢形土器の一部と考えられる。また、直条線を施文する後二者は深鉢となるだろう。

一方、55は、破片内では微隆起を除き無文の深鉢だが、上位に縄文帯が存在するとも想定できる。さらに、56は、条線施文土器の底部である。

#### 石器（第24図57・58）

遺構外からの石器出土は2点のみであった。57は、挟りの弱いチャート製の凹基鋳で、左右が非対称となる。また、58の打製石斧は、分銅形に近いものの、自然面の遺存が一方とどまるため、撥形を意図したものと判断できる。ホルンフェルス製。

## 2. 古代・中近世の遺構と遺物

### (1) 住居跡

#### 第1号住居跡 (第25・26図)

AB-8グリッドに位置する。南側が調査区域外へ伸びている。第2号住居跡内に入れ子状に重複し、床面は第2号住居跡の床面より深いため第2号住居跡の床を壊している。確認できた規模は、主軸長1.83m×3.13m、深さ0.45mを測り、平面は方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-9°-Eを指す。

カマドは、北壁の東端に設けられているが、依存状態は良くない。燃焼部は、70cm×70cm、床面から深さ12cmを測る。壁溝は、東壁と北壁にみられ、幅35～45cm、深さ10cm程である。

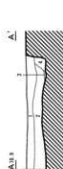
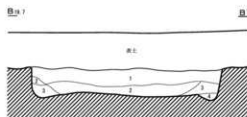
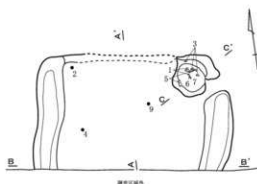
遺物は、カマドに集中し、須恵器坏・高台付碗、土師器台付甕・甕、小刀、吊り金具・棒状鉄器、青銅製金具、円柱状土製品が出土した。

#### 第2号住居跡 (第27・28図)

AB-8グリッドに位置する。南側が調査区域外へ伸びている。第1号住居跡が重複し、床面まで切られている。確認できた規模は、主軸長2.15m×4.32m、深さ40cmを測り、平面は方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-3°-Eを指す。

カマドは、北壁の僅か東よりに設けられている。燃焼部は70cm×80cm、床面から深さ7cmを測る。煙道部は25cm確認できた。壁溝は、東壁と北壁のカマド以東にみられ、幅20～40cm、深さ3cm程である。

遺物は、須恵器坏・高台付碗・長頸瓶、鉄製鎌が出土した。

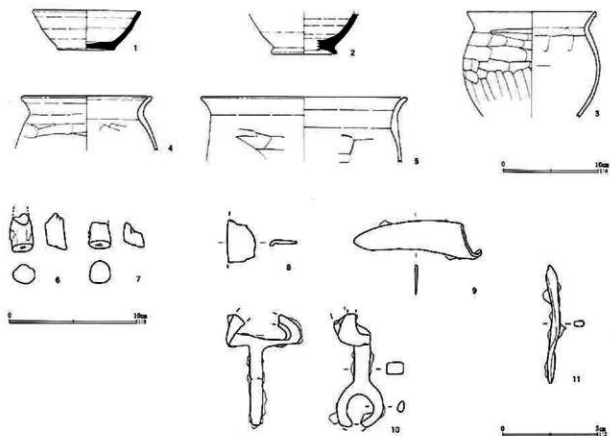


カマド  
a 黒色土 10YR2/2 焼土  
b 黒褐色 10YR2/1 焼土  
c 黒色 10YR2/1 焼土

1 黒褐色 10YR3/1 焼土  
2 黒褐色 10YR3/1 焼土  
3 黒褐色 10YR3/1 焼土  
4 黒褐色 10YR3/1 焼土

0 2m

第25図 第1号住居跡



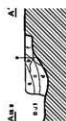
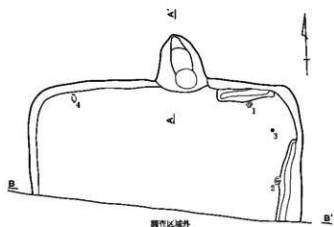
第26図 第1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表 (第26図)

| 番号 | 器 種   | 口径     | 器高  | 底径    | 胎 土   | 焼成 | 色 調   | 残存 | 備 考                       |
|----|-------|--------|-----|-------|-------|----|-------|----|---------------------------|
| 1  | 須恵坏   | (11.2) | 4.2 | (5.6) | B J L | 良好 | 灰     | 25 | 底部右回転糸切り                  |
| 2  | 須恵高台埴 |        |     | (7.0) | J     | 普通 | にぶい黄橙 | 30 |                           |
| 3  | 土師台付壺 | (13.3) |     |       | B C   | 普通 | にぶい黄褐 | 45 | 胴部内面工具横ナデ<br>外面←・↓方向ヘラ削り  |
| 4  | 土師台付壺 | (13.4) |     |       | B G   | 良好 | 灰褐    | 45 | 胴部内面工具横ナデ 外面←方向ヘラ削り       |
| 5  | 土師壺   | (21.3) |     |       | A J   | 普通 | にぶい黄橙 | 30 | 口縁へ頸部内外面ナデ<br>胴部外面←方向ヘラ削り |
| 6  | 土製品   |        |     |       | G J   | 普通 | 明褐    |    |                           |
| 7  | 土製品   |        |     |       | G J   | 普通 | 明褐    |    |                           |

第2号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

| 番号 | 器 種   | 口径   | 器高  | 底径    | 胎 土     | 焼成 | 色 調   | 残存 | 備 考                               |
|----|-------|------|-----|-------|---------|----|-------|----|-----------------------------------|
| 1  | 須恵坏   |      |     | 5.6   | B J     | 普通 | 灰黄褐   | 60 | 底部右回転糸切り、底部外面のみ<br>酸化焙焼成 内面クロコ痕顯著 |
| 2  | 須恵坏   | 12.2 | 3.8 | 6.5   | B E J L | 普通 | にぶい黄橙 | 80 | 底部右回転糸切り、「X」ヘラ描き<br>酸化焙焼成 ロクロ痕顯著  |
| 3  | 須恵高台埴 |      |     | (7.2) | B J     | 不良 | 灰黄    | 50 | 高台部内面強いナデ 内面クロコ痕顯著                |
| 4  | 須恵長頸瓶 |      |     | 5.7   | J       | 良好 | 灰     | 80 | 肩部降灰痕                             |



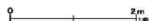
方マ Y

- a 黒褐色 10YR2/2 焼十多
- b 黒褐色 10YR2/3 焼土層多
- c 焼土層
- d 暗褐色 10YR3/3
- e 褐色 10YR4/4
- f 黒褐色 10YR2/1 17一人多

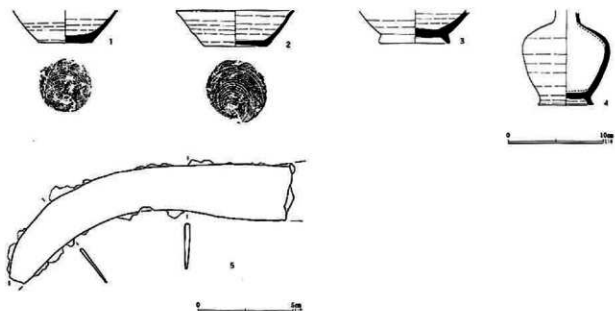
図27



- 1 黒褐色 10YR3/1 焼十多
- 2 黒褐色 10YR3/1 口一人砂子
- 3 暗褐色 10YR3/3 口一人砂子多



第27図 第2号住居跡



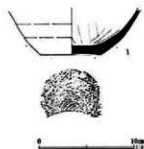
第28図 第2号住居跡出土遺物

### 第3号住居跡 (第29・30図)

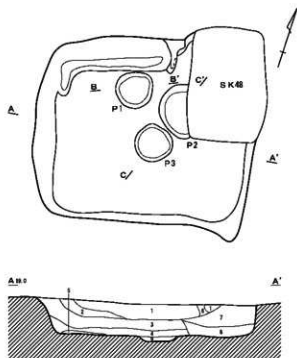
AA-7・8グリッドに位置する。規模は、主軸長2.93m×3.46m、深さ50cm程を測り、平面は方形を呈する。主軸方位は、N-12°-Wを指す。

カマドは、北壁の東寄りに設けられ、東半が第48号土坑に切られている。燃焼部は、70cm×25cm以上で、床面と同じ高さである。カマド前面には、白色粘土を含む浅い土坑状のものがみられた。

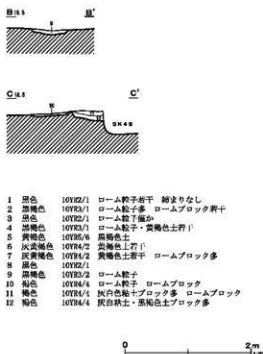
遺物は、須恵器瓶の底部が出土した。



第29図 第3号住居跡出土遺物



第30図 第3号住居跡



### 第3号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

| 番号 | 器 種 | 口径 | 器高 | 底径  | 胎 土 | 焼成 | 色 調 | 残存 | 備 考     |
|----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|---------|
| 1  | 須恵壺 |    |    | 6.5 | B J | 良好 | 灰   | 75 | 内面籬方向ナデ |

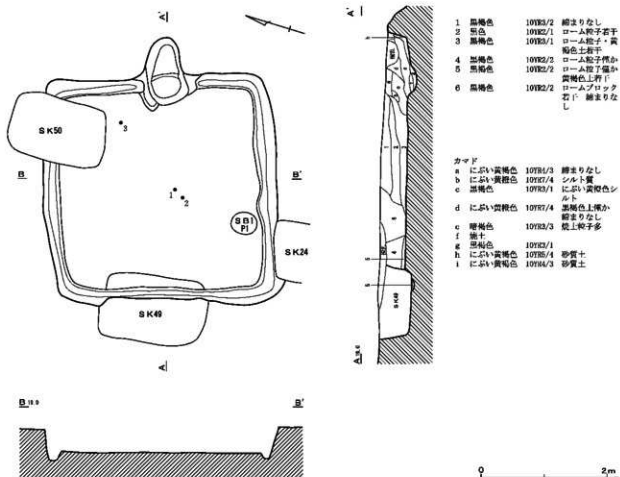
### 第4号住居跡 (第31・32図)

AA-8・9グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡のビット8に床面が切られている。規模は、主軸長3.53m×3.60m、深さ40cm程を測り、平面は方形を呈する。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

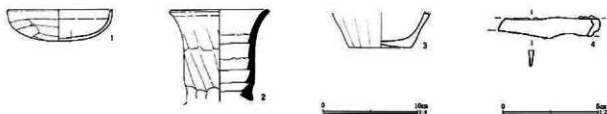
カマドは、東壁のほぼ中央に設けられている。燃

焼部は、106cm×57cm、床面から深さ10cmを測る。

遺物は、土師器杯・甕底部、須恵器瓶頸部、刀子が出土した。



第31図 第4号住居跡



第32図 第4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表 (第32図)

| 番号 | 器 種   | 口径     | 器高  | 底径    | 胎 土     | 焼成 | 色 割   | 残存 | 備 考                          |
|----|-------|--------|-----|-------|---------|----|-------|----|------------------------------|
| 1  | 土師杯   | (10.8) | 3.3 |       | L       | 良好 | 灰褐    | 60 | 体部外面へラ削り                     |
| 2  | 須恵長頸瓶 | (10.2) |     |       | A J     | 普通 | にぶい黄橙 | 45 | 輪襷痕 外面↑方向へラナデ<br>接合部ヘラ及び指頭ナデ |
| 3  | 土師壺   |        |     | (6.5) | A B G J | 普通 | 明黄褐   | 30 | 外面↑方向へラ削り                    |

# 第5号住居跡 (第33～35図)

AA-8グリッドに位置する。第32号土坑に南壁がほとんどが切られている。確認できた規模は、主軸長4.32 m×4.70 m、深さ45 cm程を測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマドは、北壁のほぼ中央に設けられている。燃焼部は、87 cm×60 cm、床面から深さ5 cmを測る。両袖部には土師器甕が倒立した状態で出土した。

遺物は、土師器環・甕、須恵器高台付杯・瓶底部が出土した。

## 第6号住居跡 (第36・37図)

Z-7・8グリッドに位置する。北西半が調査区域外で、規模は、主軸長4.65 m×4 m以上、深さ

55 cmを測り、平面は方形を呈すると考えられる。主軸方位は、東壁を基準とするとN-3°-Wを指す。

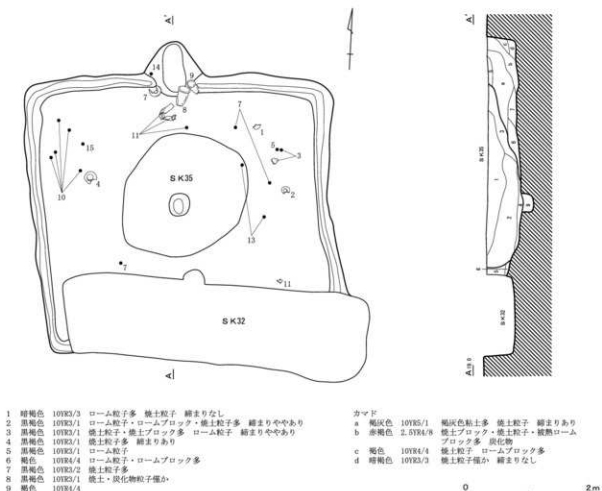
柱穴は、1本のみの検出で、径50 cmで、深さ50 cmを測る。

カマドは、北壁に設けられていたと考えられる。遺物は、土師器環・甕、土製紡錘車が出土した。

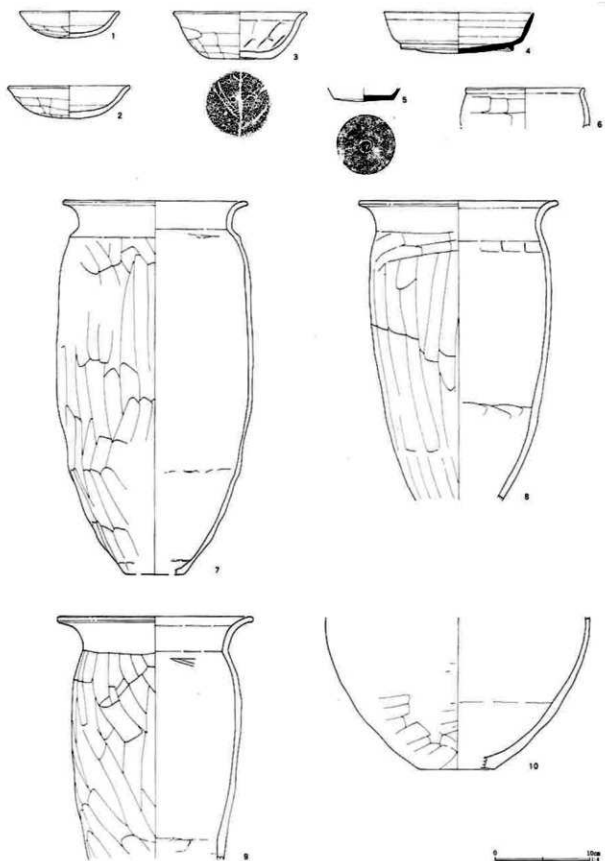
## 第7号住居跡 (第38・39図)

Z-8・9グリッドに位置する。規模は、主軸長3.7 m×3.2 m、深さ20 cm程を測り、平面は台形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

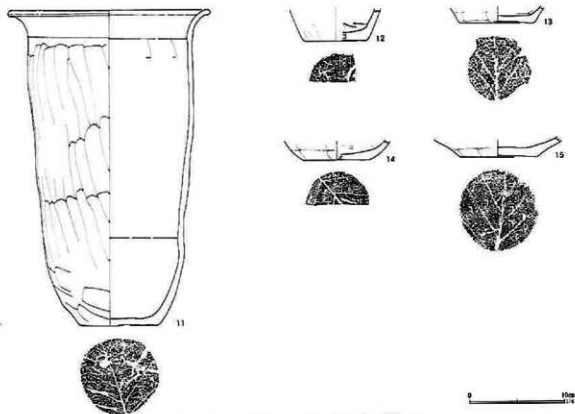
カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、48 cm×50 cm、床面から深さ20 cmを測る。煙道部は20 cm確認できた。カマド前に楕円形のピットがあり、長軸33 cm、短軸24 cm、深さ15 cmを



第33図 第5号住居跡



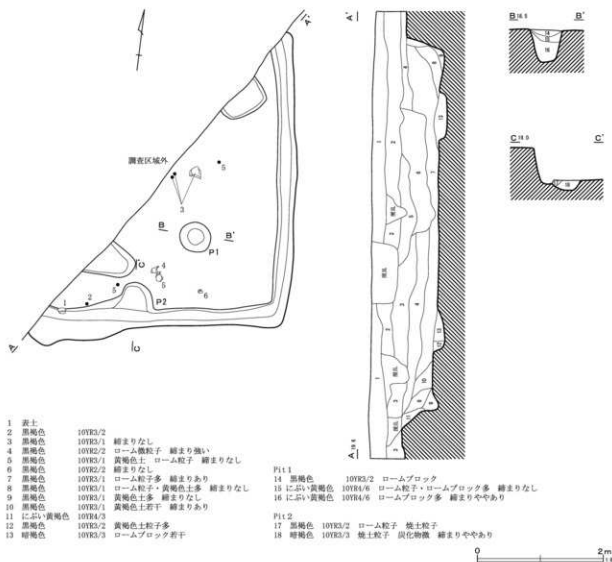
第34図 第5号住居跡出土遺物 (1)



第35図 第5号住居跡出土遺物（2）

第5号住居跡出土遺物観察表（第34・35図）

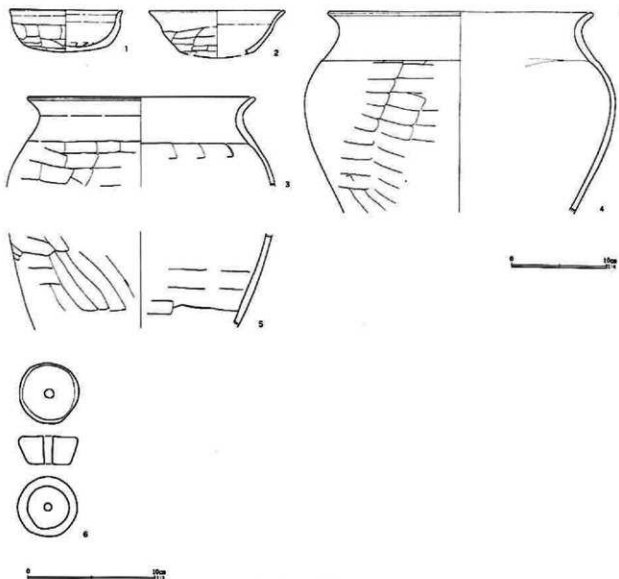
| 番号 | 器種    | 口径     | 器高   | 底径    | 胎土    | 焼成 | 色調    | 残存  | 備考                                |
|----|-------|--------|------|-------|-------|----|-------|-----|-----------------------------------|
| 1  | 土師坏   | (10.3) | 2.8  |       | A B J | 普通 | にぶい橙  | 60  | 口縁部外面ナデ 底部外面→方向へラ削り               |
| 2  | 土師坏   | 12.5   | 3.5  |       | G J   | 普通 | にぶい橙  | 95  | 口縁部内外面横ナデ 底部外面へラナデ                |
| 3  | 土師坏   | (13.9) | 5    | 6.5   | J     | 普通 | にぶい橙  | 75  | 口縁部内外面横ナデ 底部外面へラ削り 内面へラナデ 底部木炭痕   |
| 4  | 須恵高台坏 | 15.8   | 4.3  | 11.7  | J     | 不良 | 灰白    | 95  | 底縁突出 貼り付け高台                       |
| 5  | 須恵瓶   |        |      | 6.4   | A F   | 良好 | 灰オリーブ | 100 | 底部右回転へラ削り 外面右回転へラ削り 内面自然胎付着       |
| 6  | 土師鉢   | (12.3) |      |       | A J   | 普通 | にぶい褐  | 25  | 底部外面←方向へラ削り                       |
| 7  | 土師鉢   | (19.0) | 39.5 | (6.1) | A G J | 普通 | にぶい橙  | 70  | 口縁部外面ナデ 胴部外面へラ削り                  |
| 8  | 土師鉢   | 20.4   |      |       | A B G | 普通 | 明赤褐   | 95  | 外面←・↑方向へラ削り                       |
| 9  | 土師鉢   | 20.2   |      |       | A G   | 普通 | 明赤褐   | 100 | 口縁へ頸部内外面横ナデ 胴部外面↑・↓方向へラ削り         |
| 10 | 土師鉢   |        |      | (8.0) | A G J | 普通 | 橙     | 20  | 外面←方向 上位不明瞭←方向へラ削り 内面横ナデ 底部木炭痕    |
| 11 | 土師鉢   | 20.7   | 33.3 | 8     | A G L | 普通 | 橙     | 80  | 口縁部内外面横ナデ 胴部外面↓方向 下縁→方向へラ削り 底部木炭痕 |
| 12 | 土師鉢   |        |      | (6.4) | G J   | 普通 | にぶい橙  | 底部  | 底部内面へラナデ 胴部外面↓方向へラ削り 底部木炭痕        |
| 13 | 土師鉢   |        |      | (8.0) | A G   | 普通 | 灰黄褐   | 底部  | 底部内面指ナデ 外面→方向へラ削り 底部木炭痕           |
| 14 | 土師鉢   |        |      | (7.0) | B J   | 普通 | にぶい黄橙 | 底部  | 底部内面へラナデ 外面→方向へラ削り 底部木炭痕          |
| 15 | 土師鉢   |        |      | 9.0   | B G   | 普通 | 明赤褐   | 底部  | 底部内面ナデ 外面→方向へラ削り 底部木炭痕            |



第36図 第6号住居跡

第6号住居跡出土遺物観察表 (第37図)

| 番号 | 器種  | 口径                    | 器高    | 底径    | 胎土   | 焼成 | 色調   | 残存  | 備考                             |
|----|-----|-----------------------|-------|-------|------|----|------|-----|--------------------------------|
| 1  | 土師環 | 11.7                  | 4.4   |       | ACGJ | 普通 | にぶい橙 | 95  | 口縁部内外面ナデ 体部～底部外面ヘラ削り 底部内面ヘラナデ  |
| 2  | 土師環 | (14.0)                | (5.0) | (7.8) | GJ   | 普通 | にぶい橙 | 25  | 口縁部内外面横ナデ 体部～底部外面ヘラ削り          |
| 3  | 土師甕 | (23.5)                |       |       | A EJ | 普通 | にぶい橙 | 35  | 口縁部内外面横ナデ 胴部外面←方向ヘラ削り 内面丁寧ナデ   |
| 4  | 土師甕 | (27.7)                |       |       | A J  | 普通 | にぶい橙 | 20  | 口縁部内外面横ナデ 胴部外面←・↑方向ヘラ削り 内面丁寧ナデ |
| 5  | 土師甕 |                       |       |       | GJ   | 普通 | にぶい橙 | 30  | 外面↑方向ヘラ削り 内面丁寧な横ナデ             |
| 6  | 紡錘車 | 長径4.7 短径3.2～3.3 厚さ2.1 |       |       | G    | 良好 | にぶい橙 | 100 | 土製                             |



第37図 第6号住居跡出土遺物

測り、カマド関連施設と見られる。土坑が、北東隅と南東隅に検出された。北東隅の土坑は柱穴の可能性はある。

遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・蓋が出土した。

#### 第8号住居跡 (第40図)

N・O-15・16グリッドに位置する。東壁側は調査区域外となっている。規模は、主軸長3.93 m × 3.95 m以上、深さ16 cmを測り、平面は方形を呈すると思われる。主軸方位は、N-21°-Wを指す。

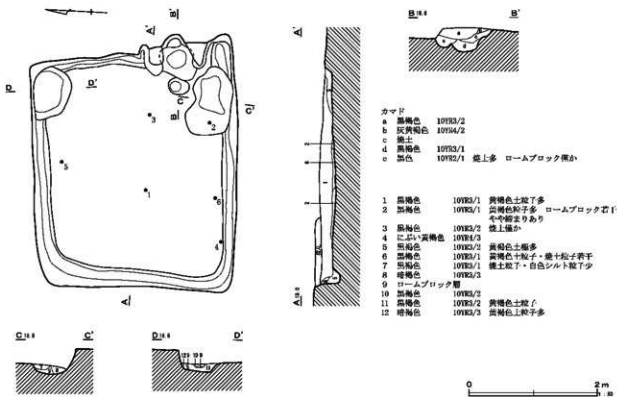
カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、

182 cm × 80 cm、床面から深さ36 cmを測る。カマド袖部は、粘土で構築されていた。床面はカマド前面部が、特に硬化していた。壁溝は全周するとみられ、幅13~25 cm、深さ7~10 cmを測る。

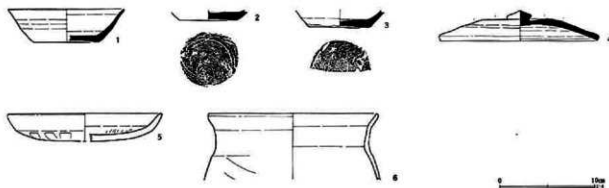
#### 第9号住居跡 (第41・42図)

S-13・14グリッドに位置する。第12号溝に南半部が切られている。規模は、主軸長5.2 m × 2.3 m以上、深さ30 cmを測る。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられていたが、依存状態は良くなかった。燃焼部は、87 cm × 40 cm、床面から



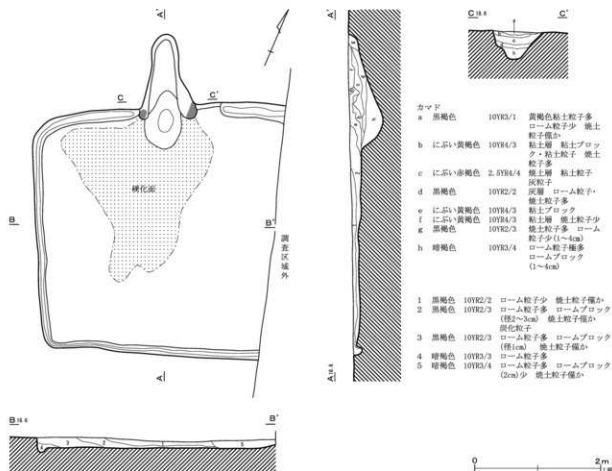
第38図 第7号住居跡



第39図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

| 番号 | 器種  | 口径     | 器高  | 底径    | 胎土  | 焼成 | 色   | 調 | 残存  | 備考                          |
|----|-----|--------|-----|-------|-----|----|-----|---|-----|-----------------------------|
| 1  | 須恵杯 | (12.1) | 3.5 | (6.8) | B J | 良好 | 灰   |   | 30  | 底部回転糸切り 体部下端に糸切り痕           |
| 2  | 須恵杯 | 6.0    |     |       | B L | 良好 | 灰   |   | 底部  | 底部内面クロ板顕著 外面右回転糸切り糸痕体部下端に及ぶ |
| 3  | 須恵杯 |        |     | (6.3) | B J | 良好 | 灰   |   | 底部  | 底部右回転糸切り                    |
| 4  | 須恵蓋 | 16.6   | 3.2 |       | B L | 良好 | 灰   |   | 100 | 天井部外面右回転へう割り 歪み有            |
| 5  | 土師壺 | (16.1) | 2.9 |       | B J | 良好 | 灰   |   | 20  | 底部内面暗文 外面へラナデ               |
| 6  | 土師壺 | (17.7) |     |       | D G | 普通 | 明赤褐 |   | 15  | 内面ナデ 外面口縁部横ナデ 頸部へう割り 体部へう割り |



第40図 第8号住居跡

深さ3cmを測る。燃烧部と段差を持った部分が45cm程確認できた。壁溝は、依存部分では全周し、幅15~33cm、深さ5cm程を測る。

遺物は、土師器盤、須恵器高台付坏が出土した。

#### 第10号住居跡 (第43~45図)

U-13グリッドに位置する。カマドと住居跡の西隅以外は調査区域外で、確認規模は、主軸長1.7m以上×3.3m以上、深さ60cmを測る。主軸方位は、N-26°-Wを指す。

カマドは、北東壁に設けられている。燃烧部は、103cm×100cmで、床面と同じ高さである。煙道部は60cm確認できた。カマドは袖部、燃烧部壁、天井部は粘土で構築されている。

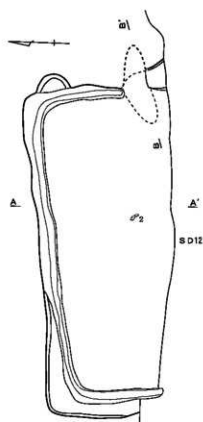
遺物は、土師器坏・台坏壺・脚台・壺・壺が出土した。

#### 第11号住居跡 (第46・47図)

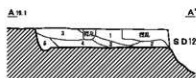
V-10・11グリッドに位置する。南壁の一部を確認できたのみで、東側は第9号溝に切られ、西側は調査区域外である。確認規模は、南北長2.6m×東西長2.05m、深さ30cm程を測る。主軸方位は、南壁を元に南北方向を基準とするとN-14°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。



- カマド
- a におい黄褐色 10YR7/4 粘土 炭化物
  - b 暗褐色 7.5YR5/3 粘土多、炭土 暗褐色土 炭化物少
  - c 暗褐色 10YR5/2 粘土少、炭土 炭化物
  - d 暗褐色 7.5YR5/2 粘土・ローム多 炭化物少
  - e 褐色 7.5YR4/3 粘土 炭土少
  - f 褐色 7.5YR4/4 粘土



- 1 暗褐色 7.5YR2/2 ローム微粒子傾斜、締まりあり
- 2 暗褐色 7.5YR2/2 ロームブロック若干
- 3 暗褐色 7.5YR3/3 締まりなし
- 4 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒子若干 締まりあり
- 5 褐色 7.5YR4/3 締まりあり

0 2m

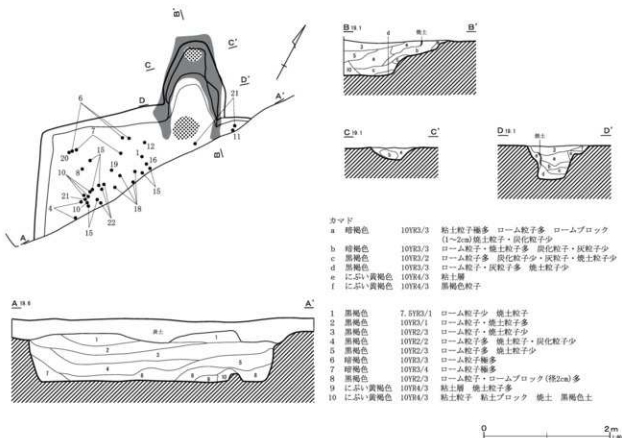
第41図 第9号住居跡



第42図 第9号住居跡出土遺物

第9号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

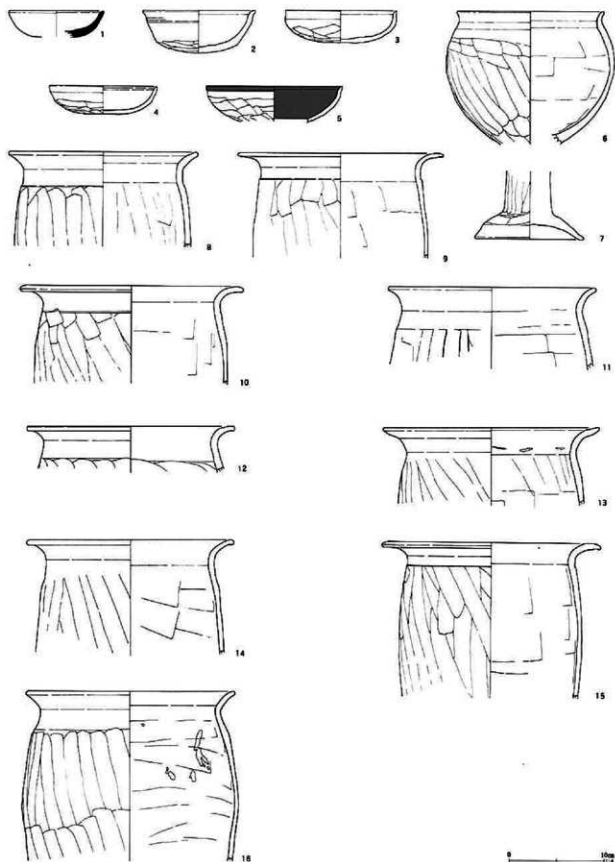
| 番号 | 器 種   | 口径     | 器高  | 底径     | 胎 土       | 焼成 | 色 調 | 残存 | 備 考       |
|----|-------|--------|-----|--------|-----------|----|-----|----|-----------|
| 1  | 須恵高台杯 | (20.0) | 2.8 | (10.2) | B J       | 良好 | 黄灰  | 40 | 底部左回転ヘラ削り |
| 2  | 土師皿   | (20.0) | 2.8 | (10.2) | A B E G J | 普通 | 橙   | 10 |           |



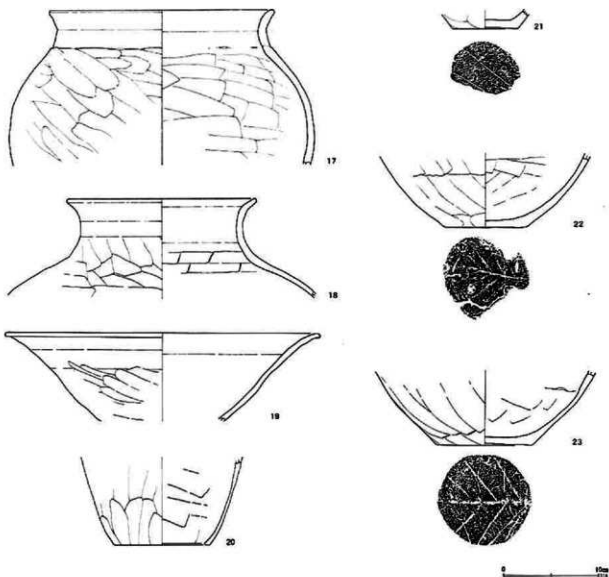
第43図 第10号住居跡

第10号住居跡出土遺物観察表 (第44・45図)

| 番号 | 器種    | 口径     | 器高   | 底径   | 胎土          | 焼成 | 色調    | 残存 | 備考                              |
|----|-------|--------|------|------|-------------|----|-------|----|---------------------------------|
| 1  | 須恵環   | (9.8)  | 2.8  |      | B J         | 普通 | 褐灰    | 10 |                                 |
| 2  | 土師環   | 11.8   | 4.5  |      | A B G J     | 良好 | 橙     | 60 | 口縁部外面回転工具ナデ                     |
| 3  | 土師環   | (11.7) | 3.4  |      | E J         | 不良 | にぶい褐  | 50 | 底部外面へう割り                        |
| 4  | 土師環   | (11.6) | 3.0  |      | A E J       | 普通 | にぶい褐  | 60 |                                 |
| 5  | 土師環   | (14.2) | 3.8  |      | A B J       | 良好 | 橙     | 30 | 口縁部外面・内面全面赤彩                    |
| 6  | 土師台付甕 | (15.4) | 19.0 |      | B E G J     | 良好 | 橙     | 25 | 胴部上位←方向 以下↑方向へう割り               |
| 7  | 土師脚台  |        |      | 11.2 | A B E G J   | 良好 | 橙     | 70 | 脚台裾部内外面クロコナデ<br>脚柱部外面ヘラナデ       |
| 8  | 土師甕   | (19.6) | 10.0 |      | A B D J     | 普通 | 明赤褐   | 20 | 胴部外面↓方向へう割り 内面縦位のナデ             |
| 9  | 土師甕   | (20.6) |      |      | A B E G J   | 良好 | 橙     | 10 | 胴部外面↑方向へう割り                     |
| 10 | 土師甕   | (21.0) | 10.2 |      | A D E J     | 良好 | 明赤褐   | 25 | 胴部外面↑方向へう割り                     |
| 11 | 土師甕   | (21.6) | 4.9  |      | A B E G J   | 良好 | 橙     | 30 | 頸部内・外面強いクロコナデ                   |
| 12 | 土師甕   | (21.6) | 8.6  |      | A B J       | 良好 | 明褐    | 20 | 胴部外面↑方向へう割り<br>頸部外面クロコナデ        |
| 13 | 土師甕   | (22.5) | 8.2  |      | A G J       | 良好 | 橙     | 25 | 胴部外面↑方向へう割り                     |
| 14 | 土師甕   | (21.2) | 12.1 |      | A B D E J   | 良好 | 橙     | 20 | 胴部外面↑方向へう割り                     |
| 15 | 土師甕   | 21.6   |      |      | A B D E J   | 良好 | にぶい黄褐 | 50 | 胴部外面↑方向へう割り                     |
| 16 | 土師甕   | (21.8) |      |      | A B D E G J | 普通 | 明赤褐   | 30 | 胴部外面↓方向へう割り 外面器壁<br>荒れ 内面一部油煙付着 |
| 17 | 土師甕   | (23.2) |      |      | A B E G J   | 普通 | にぶい橙  | 20 | 胴部外面上位↑・下位↓方向へう割り               |
| 18 | 土師甕   | (19.8) |      |      | A B J       | 良好 | 橙     | 65 | 胴部外面↑方向へう割り<br>頸部内面工具横ナデ        |



第44図 第10号住居跡出土遺物 (1)



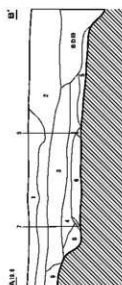
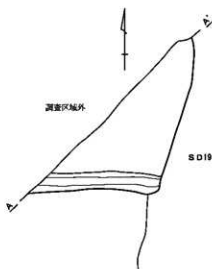
第45図 第10号住居跡出土遺物（2）

第10号住居跡出土遺物観察表（第45図）

| 番号 | 器種  | 口径     | 器高 | 底径     | 胎土        | 焼成 | 色調  | 残存 | 備考                            |
|----|-----|--------|----|--------|-----------|----|-----|----|-------------------------------|
| 19 | 土師鉢 | (32.6) |    |        | E G J     | 普通 | 橙   | 15 | 口縁部内外面ロクロナデ<br>体部外面↓方向へラ削り    |
| 20 | 土師甗 |        |    | (10.0) | A B E J   | 良好 | 橙   | 20 | 外面↓方向へラ削り                     |
| 21 | 土師甗 |        |    | 6.8    | B G       | 良好 | 明赤褐 | 50 | 底面木炭痕                         |
| 22 | 土師甗 |        |    | 8.8    | A B D E J | 良好 | 橙   | 20 |                               |
| 23 | 土師甗 |        |    | 10.0   | A B D E J | 普通 | 黄橙  | 45 | 底面木炭痕あり 胴部外面↓方向へラ削り<br>内外面炭附着 |

第11号住居跡出土遺物観察表（第47図）

| 番号 | 器種  | 口径   | 器高  | 底径 | 胎土    | 焼成 | 色調 | 残存 | 備考                     |
|----|-----|------|-----|----|-------|----|----|----|------------------------|
| 1  | 土師杯 | 18.3 | 3.6 |    | A B J | 普通 | 橙  | 95 | 口縁部外面ロクロナデ 底面外面→方向へラ削り |



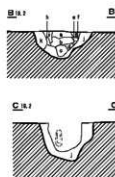
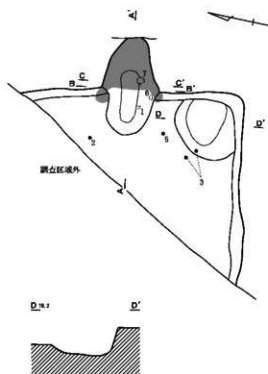
- 1 盛土 10YR3/3 赤や紅褐色
- 2 灰褐色 10YR3/2 黄褐色土粒子多
- 3 灰褐色 10YR3/2 黄褐色土粒子多
- 4 灰褐色 10YR3/2 ロームブロック多
- 5 灰褐色 10YR3/2 ローム多(張り上)
- 6 灰褐色 10YR3/2 ローム多(張り上)
- 7 黄褐色 10YR6/6
- 8 黄褐色 10YR3/3 ローム・白色粘土
- 9 黄褐色 10YR3/3 黄白色粘土若干

0 2m

第46図 第11号住居跡



第47図 第11号住居跡出土遺物



- 1 灰褐色 7.5YR2/2 棕色土粒子・黄褐色土粒子
- 2 灰褐色 7.5YR2/2 黄褐色土粒子若干 粗粒多なし
- 3 灰褐色 7.5YR2/2 黄褐色土粒子若干 粗粒多なし
- 4 灰褐色 7.5YR2/2 ロームブロック
- 5 褐色 7.5YR4/4 灰褐色土

カマド

- a 灰褐色 10YR3/1 焼土粒多
- b 灰褐色 10YR2/1 焼土・暗褐色土若干
- c 灰褐色 10YR2/1 焼土・暗褐色土若干
- d 灰褐色 10YR2/1 焼土多なし
- e 灰褐色 10YR4/2 焼土多
- f 灰褐色 10YR3/3 焼土多
- g 灰褐色 10YR3/3 焼土多
- h 灰褐色 10YR3/3 焼土多
- i 灰褐色 10YR3/3 焼土多
- j 灰褐色 10YR3/3 焼土多
- k 灰褐色 10YR3/3 焼土多

0 2m

第48図 第12号住居跡

# 第12号住居跡 (第48・49図)

W-10グリッドに位置する。北西半は調査区域外であり、カマド先端は第3号性格不明遺構に切られている。確認できる規模は、主軸長3.05 m以上×3.53 m以上で、深さ30 cm程を測る。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、155 cm以上×90 cm、床面から深さ17 cmを測る。カマド中央には、土製支脚が設置され、袖部と袖部より奥の燃焼部は粘土で構築されていた。

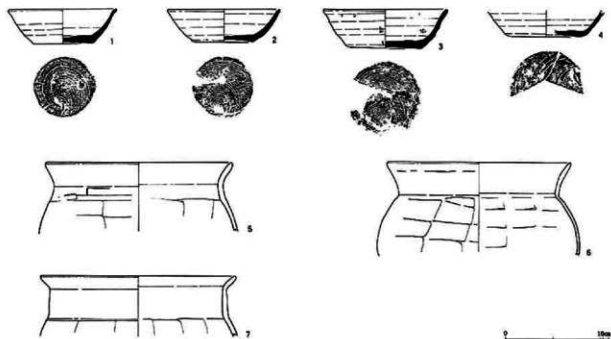
遺物は、土師器壺、須恵器坪が出土した。

# 第13号住居跡 (第50～52図)

AC-7グリッドに位置する。第17号土坑を切り、第22号溝に切られる。規模は、主軸長4.2 m×5.1 m、深さ40 cm程を測り、平面は長方形を呈する。主軸方位は、N-99°-Eを指す。

カマドは、東壁の中央に設けられている。燃焼部は、135 cm×85 cm、床面から深さ9 cmを測る。煙道部は50 cm確認できた。カマドとその左右の住居跡壁面は、藁状繊維を混ぜた白色粘土が貼り付けられ、壁面が被熱により赤褐色に焼けていた。

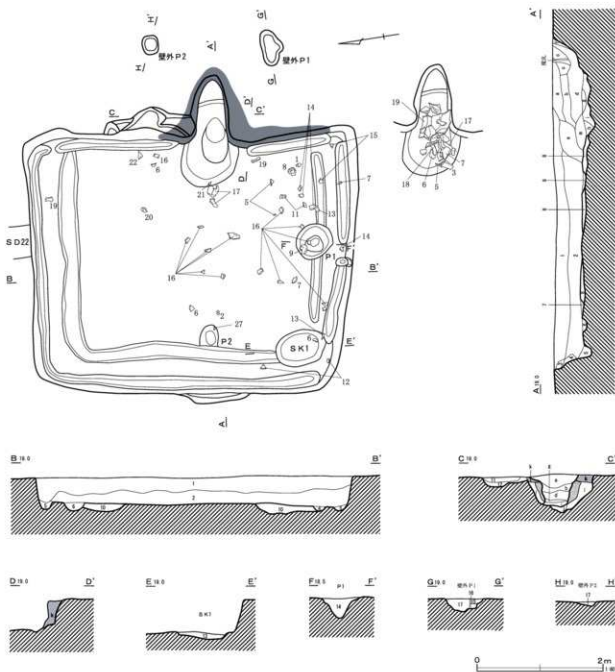
また、住居跡覆土から床面にかけて焼土と炭化材



第49図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

| 番付 | 器 種 | 口径     | 器高  | 底径    | 胎 土     | 焼成 | 色 調    | 残存 | 備 考                           |
|----|-----|--------|-----|-------|---------|----|--------|----|-------------------------------|
| 1  | 須恵杯 | 11.3   | 3.6 | 6.2   | B J L   | 良好 | 灰      | 75 | 底部右回転糸切り                      |
| 2  | 須恵杯 | 11.7   | 3.5 | 6.3   | B J L   | 良好 | 灰      | 80 | 底部右回転糸切り                      |
| 3  | 須恵杯 | 13.0   | 4.2 | 7.7   | B E J L | 普通 | 褐灰     | 90 | 底部右回転糸切り 酸化焼成<br>外面多・内面若干釉層付着 |
| 4  | 須恵杯 |        | 2.8 | (7.5) | J L     | 不良 | 浅黄褐色   | 50 | 底部右回転糸切り                      |
| 5  | 土師壺 | (19.4) |     |       | A B E L | 普通 | 明赤褐色   | 25 | 胴部外面←方向へラ削り                   |
| 6  | 土師壺 | (19.2) |     |       | B D E J | 普通 | 褐色     | 33 | 胴部外面←方向へラ削り                   |
| 7  | 土師壺 | (20.4) |     |       | B D J   | 普通 | にぶい赤褐色 | 30 | 胴部外面→方向へラ削り 内面ナデ              |

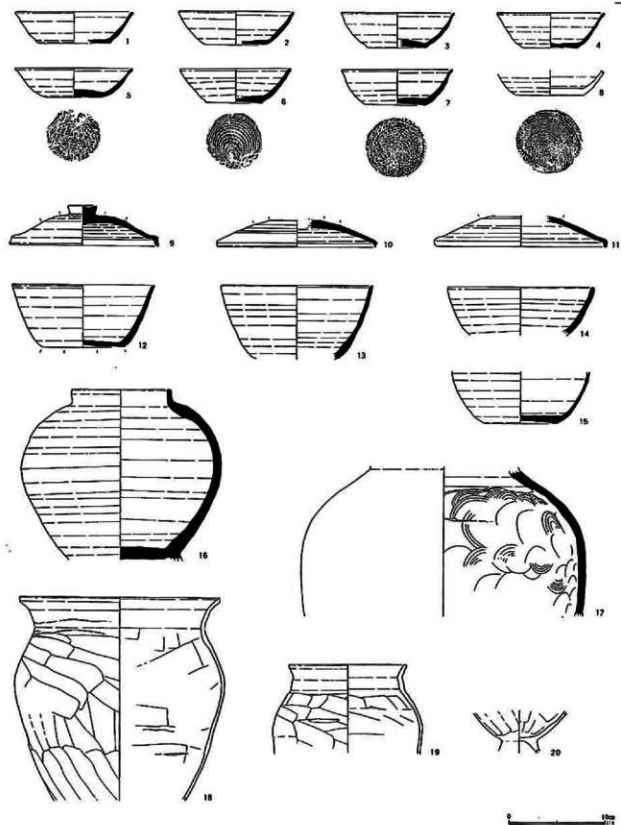


- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子多 ロームブロック少 炭化物
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子極多 炭化物多
- 3 褐色 ローム粒子少
- 4 黄褐色 ローム主体
- 5 暗褐色 ロームブロック多
- 6 黒褐色 焼土 炭化物粒子 ローム粒子
- 7 暗褐色 ロームブロック多
- 8 黄褐色 暗褐色土ブロック多 焼土少 (柱廻り方)
- 9 被熱焼土 ロームブロック・炭化物粒子多 (廻り方)
- 10 黄褐色 白色粘土ブロック
- 11 褐色 焼土・白色粘土
- 12 暗褐色 ロームブロック ローム粒子・焼土粒子多 締まり弱い
- 13 黒褐色 焼土・白色粘土
- 14 暗褐色 焼土粒子多 炭化物粒子やや多 ローム粒子多 ロームブロック
- 15 褐色 焼土・白色粘土多
- 16 褐色 焼土 黒色土 炭化物
- 17 褐色 白色粘土ブロック 焼土粒子・炭化物多

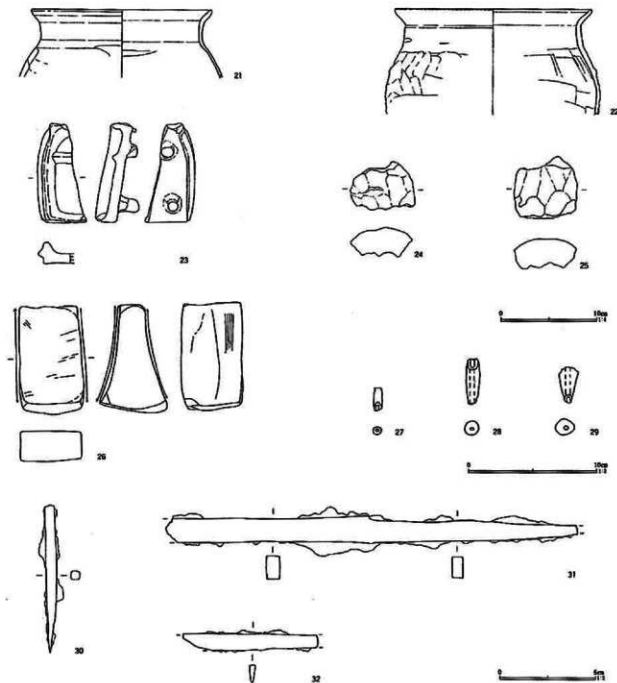
#### カマド

- a 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子多 炭化物粒子少
- b 褐色 焼土粒子・炭化物・白色粘土粒子・ブロック多 (天井部崩落)
- c 暗褐色 被熱焼土 焼土ブロック極多 (天井部崩落)
- d 暗褐色 焼土粒子やや多
- e 褐色 焼土粒子極多 被熱した壁材多
- f 褐色 焼土粒子やや多
- g 暗褐色 焼土粒子・白色粘土粒子多
- h 赤褐色 白色粘土ブロック 被熱焼土主体
- i 褐色 焼土粒子 白色粘土 締まり弱い
- j 褐色 ロームブロック 白色粘土 焼土 炭化物 (廻り方)
- k 白色粘土 ローム・焼土
- m 炭化材

第50図 第13号住居跡



第51图 第13号住居跡出土遺物 (1)



第52図 第13号住居跡出土遺物（2）

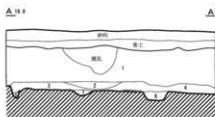
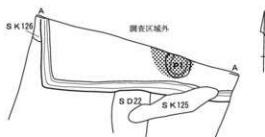
が多量に出土し、火災住居と考えられる。壁溝は四隅で途切れるが全周する。壁溝が二重に巡ることから、拡張が確認された。内側は幅17～30cm、深さ6～13cm、外側は幅15～20cm、深さ5～10cmを測る。住居跡に付属すると捉えたピットが住居跡外のカマドの東に2基確認された。ピット1は第17号住居跡の炉跡を切り、AC-7グリッドピット

ト19に切られており規模は不明であるが、ピット2と同様、径30cm程で、深さ15cmを測る。ピット2は、径30cm、深さ6cmを測る。

遺物は、須恵器坏・蓋・埴・短頸壺・甕、土師器甕・台付甕、風字碗、羽口、砥石、土錘の他鉄器が出土した。

第13号住居跡出土遺物観察表 (第51・52図)

| 番号 | 器 種   | 口径     | 器高   | 底径     | 胎 土     | 焼成 | 色 調   | 残存  | 備 考                                   |
|----|-------|--------|------|--------|---------|----|-------|-----|---------------------------------------|
| 1  | 須恵環   | (12.2) | 3.3  | (7.8)  | B I L   | 良好 | 灰     | 35  | 底部右回転系切り 糸引き抜き痕                       |
| 2  | 須恵環   | 12.0   | 3.5  | 6.4    | A B I J | 普通 | 灰白    | 70  | 底部回転系切り                               |
| 3  | 須恵環   | (11.8) | 3.7  | (6.0)  | I J L   | 普通 | 褐灰    | 30  | 底部右回転系切り                              |
| 4  | 須恵環   | (11.1) | 3.7  | 5.8    | A B I J | 普通 | 褐灰    | 40  | 底部右回転系切り                              |
| 5  | 須恵環   | 12.2   | 3.1  | 5.6    | B I J   | 普通 | 灰     | 75  | 底部右回転系切り                              |
| 6  | 須恵環   | 11.5   | 3.7  | 6.0    | B J L   | 良好 | 灰     | 100 | 底部右回転系切り 糸引き抜き痕                       |
| 7  | 須恵環   | 11.5   | 3.9  | 6.4    | B I J   | 普通 | 灰黄褐   | 80  | 底部右回転系切り                              |
| 8  | 須恵環   |        | 2.7  | 6.9    | B J L   | 不良 | にぶい黄灰 | 75  | 底部右回転系切り 酸化焙焼成                        |
| 9  | 須恵蓋   | 15.4   | 4.3  | 摘径3.0  | B I J L | 良好 | 灰     | 80  | 天井部右回転ヘラ削り                            |
| 10 | 須恵蓋   | (16.6) | 2.9  |        | B J L   | 普通 | 灰黄    | 25  | 天井部回転ヘラ削り                             |
| 11 | 須恵蓋   | (17.8) | 3.3  |        | A B I J | 普通 | 灰白    | 20  | 南北企産 天井部回転ヘラ削り                        |
| 12 | 須恵塊   | (15.0) | 6.6  | (8.6)  | B J L   | 普通 | 灰白    | 25  | 底部系切り後周辺右回転ヘラ削り 指頭痕                   |
| 13 | 須恵高台塊 | (15.8) | 7.8  |        | B J     | 良好 | 灰     | 30  |                                       |
| 14 | 須恵塊   | 15.0   | 5.2  |        | B J     | 普通 | 灰     | 100 |                                       |
| 15 | 須恵塊   |        | 5.5  | 7.6    | B J L   | 良好 | 黄灰    | 40  | 底部右回転系切り                              |
| 16 | 須恵短頸壺 | 10.2   | 18.2 | (11.7) | B F J L | 良好 | 灰     | 95  | 胴部外面下半←方向回転ヘラ削り<br>高台欠損               |
| 17 | 須恵甕   |        |      |        | A B L   | 良好 | 黄灰    | 25  | 外面縦位・横位の丁寧なナデ<br>内面同心円文当て具痕           |
| 18 | 土師甕   | (20.8) | 21.5 |        | A B G J | 良好 | 明赤褐   | 40  | 胴部外面上位←方向、下半↓方向<br>ヘラ削り               |
| 19 | 土師台付甕 | 12.2   | 9.5  |        | A B D J | 良好 | 橙     | 45  | 胴部外面←方向ヘラ削り                           |
| 20 | 土師台付甕 |        |      |        | A B D J | 良好 | 明赤褐   | 40  |                                       |
| 21 | 土師甕   | (18.8) | 7.2  |        | B D E   | 良好 | 明赤褐   | 45  |                                       |
| 22 | 土師甕   | (20.4) | 11.2 |        | A B G   | 良好 | 橙     | 25  |                                       |
| 23 | 須恵硯   |        |      |        | F       | 良好 | 黄灰    | 40  | 風字硯 長さ10.5 幅(5.0) 高さ2.8~4.5           |
| 24 | 羽口    |        |      |        | A E G   | 良好 | 橙     |     | 残存長5.0cm 最大幅6.8cm 重さ8.01g             |
| 25 | 羽口    |        |      |        | A E G J | 良好 | 橙     |     | 残存長6.6cm 最大幅6.5cm 重さ116.9g            |
| 26 | 礫石    |        |      |        |         |    |       |     | 凝灰岩 残存長8.3cm 幅4.8cm<br>厚さ2.0cm 重さ245g |
| 27 | 土鉢    |        |      |        | A B     | 普通 | にぶい褐  |     | 残存長1.8cm 幅0.6cm 孔径0.3cm 重さ0.8g        |
| 28 | 土鉢    |        |      |        | A E J   | 普通 | 明褐色   |     | 残存長3.6cm 幅1.1cm 孔径0.35cm 重さ3.9g       |
| 29 | 土鉢    |        |      |        | A B E J | 普通 | 明褐色   |     | 残存長2.8cm 幅1.5cm 孔径0.3cm 重さ3.5g        |



- 1 灰褐色 ローム粒子多 焼土・炭化物  
2 灰褐色 ローム粒子多 色ブロック S D 22 焼土 近世以降  
3 暗褐色 ローム粒子多 焼土粒子少  
4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子多  
5 黒褐色 ローム粒子多  
6 黄褐色 ロームブロック・黄色ブロック P 1 焼土  
7 黄褐色 炭化物粒子・ローム粒子少

0 2m  
1m

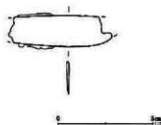
第53図 第14号住居跡

#### 第14号住居跡 (第53・54図)

A B-6グリッドに位置する。南壁と東壁の一部が確認できたのみで、他は調査区域外である。第126号土坑・第22号溝に切られる。確認できた規模は、南壁長3m×西壁長1.15m、深さ10cm程を測る。主軸方位は、南壁を基準とするとN-84°-Wを指す。

カマド等の施設は確認できなかった。北は調査区域外のため不明瞭であるが、床面に73cm×37cmの半円形の被熱焼土範囲があり、鉄滓数点が出土した。壁溝は確認範囲では全周し、幅13~23cm、深さ1~3cmを測る。

遺物は、鉄滓の他に刀子片が出土した。



第54図 第14号住居跡出土遺物

## (2) 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡 (第55図)

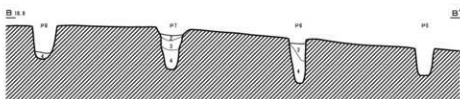
A A-9グリッドに位置する。第50・53号土坑を切り、第4号住居跡に切られている。規模は、3間×2間の東西棟の側柱建物であるが、梁行の間の柱穴は確認できなかった。北側桁行6.4m、南側桁行6.0m、西側梁行3.9m、東側梁行3.8mである。主軸方位は、N-88°-Wを指す。柱間寸法は、柱穴芯間で桁行1.95~2.4m、梁行3.8~3.9mであった。形状は、径30~40cmの円形、軸長40~50cmの楕円形で、多くが深さ50~70cmであった。

遺物は、柱穴より土師器片が僅かに出土した。

#### 第2号掘立柱建物跡 (第56図)

Y-9グリッドに位置する。Y・Z-9グリッド部は僅かに低くなっており、落ち込みの北端で検出した。遺構の切り合いが無いため不明であるが、建物跡と重複しているものは歴史時代以降の土坑だけである。規模は、2間×2間の東西棟の側柱建物である。北側桁行4.3m、南側桁行4.2m、西側梁行3.3m、東側梁行3.25mである。主軸方位は、N-88°-Eを指す。柱間寸法は、柱穴芯間で桁行2.0~2.2m、梁行1.6~1.8mであった。形状は、径25~40cmの円形で、多くが深さ45~70cmで、梁間の柱穴が浅く深さ20~25cmであった。

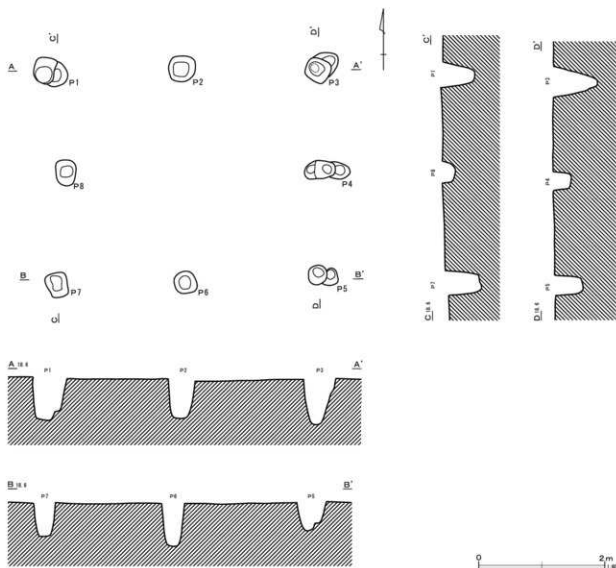
遺物は、柱穴より土師器片が僅かに出土した。



- 1 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子少量 締まりややあり  
 2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック 締まりあり  
 3 褐色 10YR4/4 ロームブロック・ローム粒子多 締まりあり  
 4 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック多 締まりあり

0 2m

第55図 第1号掘立柱建物跡



第56図 第2号掘立柱建物跡

### (3) 土 坑

#### 第1号土坑 (第57図)

AH-3グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径67cm×59cm、深さ43cmを測る。主軸方位は、N-89°-Wを指す。

#### 第2号土坑 (第57図)

AG-4グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径98cm×83cm、深さ24cmを測る。主軸方位は、N-80°-Eを指す。

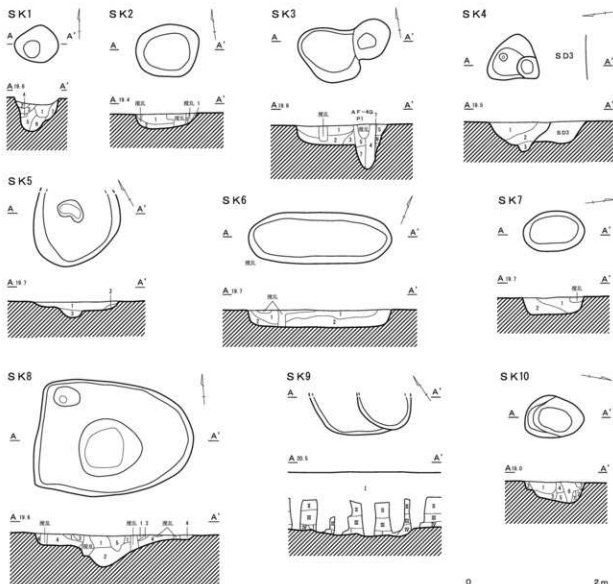
遺物は、土師器片が出土した。

#### 第3号土坑 (第57図)

AE-4グリッドに位置する。AF-4グリッドビット1と重複し、切られている。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ96cm、幅84cm、深さ31cmを測る。主軸方位は、N-24°-Wを指す。

#### 第4号土坑 (第57図)

AF-4グリッドに位置する。第3号溝と重複し、切っている。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ79cm、幅78cm、深さ47cmを測る。主軸方位



- SK 1  
1 暗褐色 10YR2/2  
2 黒褐色 10YR2/2 褐色土多  
3 黒色 10YR2/1 締まりあり  
4 褐色 10YR4/4  
5 黒色 10YR2/1 締まりなし
- SK 2  
6 黒褐色 10YR2/2 褐色粒子若干  
7 褐色 10YR4/4

- SK 3  
1 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子多 炭化物 焼土粒子 締まりあり  
2 暗褐色 10YR2/2 ロームブロック多 締まりあり  
3 褐色 10YR4/4 ロームブロック多 締まりあり  
4 黒褐色 10YR2/2 ローム粒子・ロームブロック 締まりなし 柱痕跡  
5 黒褐色 10YR2/2 ロームブロック多 締まりあり  
6 黒色 10YR4/4 ロームブロック 黒褐色土ブロック多 締まりあり  
7 暗褐色 10YR2/2 ロームブロック多 締まり強い

- SK 4  
1 暗褐色 10YR3/2 ロームブロック  
2 暗褐色 10YR3/6 ロームブロック (厚3cm前後) 多  
3 褐色 10YR4/4 ロームブロック (厚3~5cm) 多

- SK 5  
1 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子・焼土粒子僅か ロームブロック  
2 褐色 10YR4/6 ロームブロック多  
3 褐色 10YR4/4 ロームブロック多

- SK 6  
1 暗褐色 10YR3/4 焼土粒子微 ローム粒子多  
2 褐色 10YR4/4 ロームブロック多

- SK 7  
1 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子多 炭化物 焼土粒子 締まりあり  
2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック多 締まりあり

- SK 8  
1 暗褐色 10YR3/3 締まりなし  
2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック・ローム粒子僅か  
3 に近い黄褐色 10YR4/3  
4 褐色 10YR4/4 締まり強い  
5 暗褐色 10YR2/1 締まりなし

- SK 9  
I 暗褐色 10YR2/2 ローム粒子を多く含む 現在の畑の耕作土  
II 暗褐色 10YR2/2 ローム粒子を低ふに含む 締まりややあり  
III 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子 赤色スロリアを含む しまりややあり 薪炭層  
IV 褐色 10YR4/4 ソフトローム 空川直轄に相当  
1 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子・焼土粒子 締まりややあり

- SK 10  
1 暗褐色 10YR3/1 締まり強い  
2 暗褐色 10YR2/2 締まり強い  
3 に近い黄褐色 10YR4/3  
4 に近い黄褐色 10YR4/2 黒褐色土  
5 に近い黄褐色 10YR4/3 締まり強い  
6 暗褐色 10YR2/1 締まりなし  
7 褐色 10YR4/4

第57図 土坑(1)

位は、 $N-44^{\circ}-W$ を指す。

#### 第5号土坑 (第57図)

A F-5グリッドに位置する。北端は削平されているが、平面形は、円形を呈するとみられる。規模は、径120 cm以上×135 cm、深さ13 cmを測る。主軸方位は、 $N-42^{\circ}-E$ を指す。

#### 第6号土坑 (第57図)

A F-4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸227 cm、短軸81 cm、深さ28 cmを測る。主軸方位は、 $N-70^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文片・須恵器片が出土した。

#### 第7号土坑 (第57図)

A F-4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸98 cm、短軸63 cm、深さ27 cmを測る。主軸方位は、 $N-7^{\circ}-E$ を指す。

#### 第8号土坑 (第57図)

A F-5グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ297 cm、幅182 cm、深さ49 cmを測る。主軸方位は、 $N-82^{\circ}-W$ を指す。

#### 第9号土坑 (第57図)

A F-5グリッドに位置する。北半が削平されており、平面形は、不明である。規模は、長さ146 cm、幅60 cm以上、深さ12 cmを測る。主軸方位は、 $N-56^{\circ}-W$ を指す。

#### 第10号土坑 (第57図)

A B-7グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸92 cm、短軸67 cm、深さ33 cmを測る。主軸方位は、 $N-6^{\circ}-W$ を指す。

#### 第13号土坑 (第58図)

A A-8グリッドに位置する。第4号溝跡と重複し、切っている。平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ130 cm、幅125 cm、深さ37 cmを測る。主軸方位は、 $N-6^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文片・土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第14号土坑 (第58図)

A A-8グリッドに位置する。第15号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規

模は、長さ222 cm、幅110 cm、深さ64 cmを測る。主軸方位は、 $N-75^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文片・土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第15号土坑 (第58図)

A A-8グリッドに位置する。第14号土坑と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ235 cm、幅140 cm、深さ39 cmを測る。主軸方位は、 $N-80^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第16号土坑 (第58図)

A A-8グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸127 cm、短軸90 cm、深さ22 cmを測る。主軸方位は、 $N-3^{\circ}-W$ を指す。

#### 第22号土坑 (第58・65図)

A A-9グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ195 cm、幅107 cm、深さ20 cmを測る。主軸方位は、 $N-5^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、土師器片・砥石・縄文片が出土した。砥石は上端が欠損している。4面使用され、凝灰岩製である。

#### 第25号土坑 (第58・65図)

A A-7グリッドに位置する。平面形は、不整形円形を呈する。規模は、長軸268 cm、幅80 cm、深さ45 cmを測る。主軸方位は、 $N-7^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、半分が欠損しているが、古銭が覆土上位から出土した。残存文字から中国の明代の「武固寶」とみられる。

#### 第26号土坑 (第58・65図)

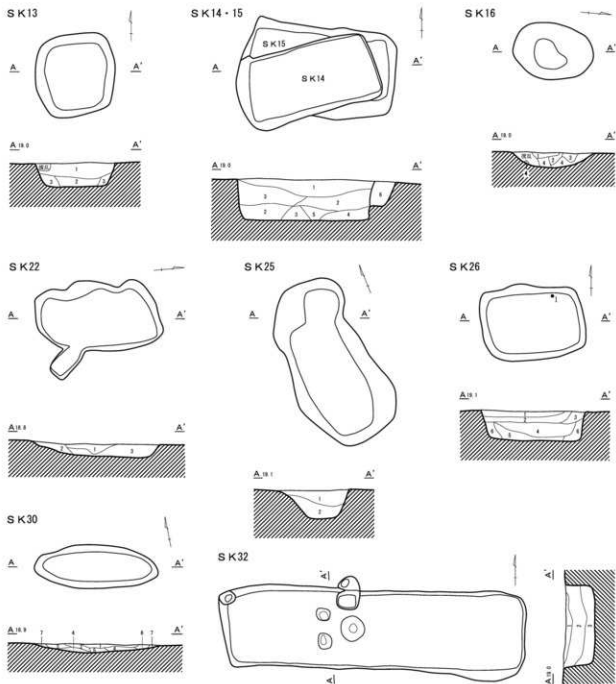
A A-7グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ162 cm、幅120 cm、深さ45 cmを測る。主軸方位は、 $N-83^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、常滑甕片が覆土上位から出土した。

#### 第30号土坑 (第58図)

A B-8グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸194 cm、短軸68 cm、深さ13 cmを測る。主軸方位は、 $N-77^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、土師器片が出土した。



#### SK13

- 1 黒褐色 1093/2 締まりなし
- 2 暗褐色 1093/3 ローム小ブロック
- 3 黒褐色 1093/2 ローム小ブロック

#### SK14・15

- 1 黒褐色 1092/2
- 2 黒褐色 1092/2 ローム小ブロック若干
- 3 黒褐色 1093/2 ローム小ブロック多
- 4 黒褐色 1092/2 ローム小ブロック多
- 5 黒褐色 1092/2 ローム小ブロック若干 締まりあり

#### SK16

- 1 黒褐色 1093/2
- 2 黒色 1092/2 締まり強い
- 3 黒褐色 1093/2 締まりなし
- 4 暗褐色 1093/3 締まり強い

#### SK22

- 1 黒褐色 1093/1
- 2 黒褐色 1093/1 締まりなし
- 3 褐色 1093/4

#### SK25

- 1 黒褐色 1092/2 ローム粒子多 締まりなし
- 2 黒色 1092/1

#### SK26

- 1 暗褐色 1093/3 締まりなし
- 2 暗褐色 1093/3 ローム粒子多
- 3 濃い黄褐色 1093/3
- 4 黒褐色 1093/2 ローム粒子若干
- 5 黒褐色 1092/2 ローム粒子若干
- 6 黒褐色 1093/2 締まりなし

#### SK30

- 1 黒褐色 1093/1 締まりなし
- 2 黒褐色 1093/1 黄褐色土
- 3 黒褐色 1092/2
- 4 褐色 1093/4
- 5 褐色 1093/4 黒褐色土
- 6 暗褐色 1092/4
- 7 黒褐色 1092/3

0 2m

第58図 土坑(2)

### 第32号土坑 (第58・65図)

AA-8グリッドに位置する。第5号住居跡と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ476cm、幅123cm、深さ46cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

遺物は、土師器片・鉄器・縄文片が出土した。

### 第35号土坑 (第59・65図)

AA-8グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径225cm×180cm、深さ57cmを測る。主軸方位は、N-51°-Eを指す。

遺物は、土師器環の他、土器蓋が出土した。

### 第36号土坑 (第59図)

Z-8グリッドに位置する。第37・38・39・40号土坑と重複し、第39号土坑に切られ、第37・38・40号土坑を切っている。平面形は、L字形を呈する。規模は、長さ205cm、幅166cm、深さ40cmを測る。主軸方位は、N-79°-Wを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

### 第37号土坑 (第59図)

Z-8グリッドに位置する。第36・40号土坑と重複し、第36号土坑に切られている。第40号土坑を切っている。平面形は、L字形を呈する。規模は、長さ166cm、幅96cm以上、深さ29cmを測る。主軸方位は、N-83°-Wを指す。

### 第38号土坑 (第59図)

AA・Z-8グリッドに位置する。第36・40号土坑と重複し、第36号土坑に切られている。第40号土坑との先後関係は、不明である。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ202cm、幅113cm以上、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-83°-Wを指す。

### 第39号土坑 (第59図)

Z-8グリッドに位置する。第36号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ156cm、幅93cm、深さ49cmを測る。主軸方位は、N-83°-Wを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

### 第40号土坑 (第59図)

Z-8グリッドに位置する。第36・37・38号土坑と重複し、第36・37号土坑が切っている。第38号土坑との先後関係は、不明である。平面形は、方形を呈する。規模は、長さ141cm、幅65cm以上、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-11°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

### 第41号土坑 (第59図)

Z-9グリッドに位置する。第39・42号土坑と重複し、2基とも切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ158cm、幅110cm、深さ62cmを測る。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

### 第42号土坑 (第59図)

Z-9グリッドに位置する。第41・43号土坑と重複し、第41号土坑に切られ、第43号土坑を切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ138cm、幅108cm、深さ42cmを測る。主軸方位は、N-87°-Wを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

### 第43号土坑 (第59図)

Z-9グリッドに位置する。第42号土坑と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ170cm、幅103cm、深さ47cmを測る。主軸方位は、N-11°-Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

### 第44号土坑 (第59図)

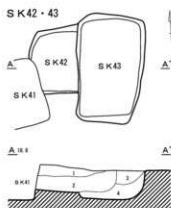
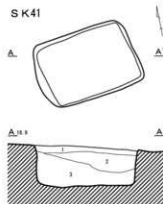
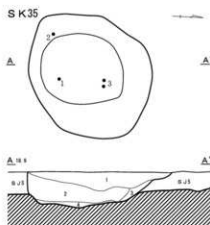
Z・AA-7グリッドに位置する。西側は調査区域外であり、平面形は、不明である。確認できる規模は、南北151cm、東西90cm以上、深さ24cmを測る。主軸方位は、N-58°-Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

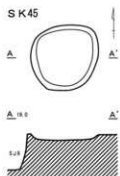
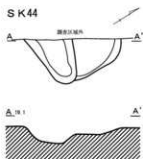
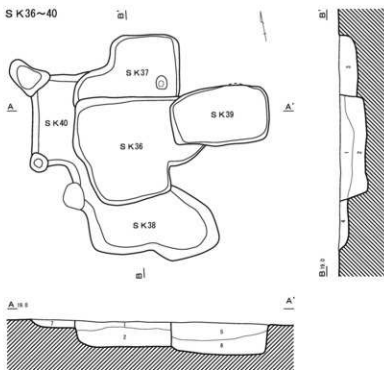
### 第45号土坑 (第59図)

Z-8グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径110cm×104cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、N-40°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片・縄文片が出土した。



- S K 35  
 1 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子多 焼土粒子 締まりなし  
 2 黒褐色 10YR3/1 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子多 締まりややあり  
 3 黒褐色 10YR3/1 焼土粒子・焼土ブロック多 ローム粒子 締まりややあり  
 4 黒褐色 10YR3/1 焼土粒子多 締まりあり



- S K 36・37・38・39・40  
 1 暗褐色 10YR3/2 ローム粒子多 締まりややあり  
 2 暗褐色 10YR2/3 ロームブロック多 ローム粒子 締まりあり  
 3 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子 ロームブロック多 締まりややあり  
 4 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子 ロームブロック多 締まりなし  
 5 黒褐色 10YR3/2 ローム粒子少量 ロームブロック 締まりややあり  
 6 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子 ロームブロック多 締まりややあり  
 7 暗褐色 10YR2/3 ローム粒子少量 締まりややあり
- S K 41  
 1 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子多 ロームブロック少 締まりなし  
 2 暗褐色 10YR4/4 ロームブロック・ローム粒子多 締まりなし  
 3 暗褐色 10YR3/4 ロームブロック多 ローム粒子多 締まりややあり

- S K 42・43  
 1 褐色 10YR4/4 ローム粒子多 締まりややあり  
 2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック多 締まりあり  
 3 褐色 10YR4/4 ロームブロック多 締まりあり  
 4 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子・ロームブロック多 炭化物

0 2m

第59図 土坑(3)

#### 第46号土坑 (第60図)

Z-8グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径104cm×100cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-17°-Wを指す。

遺物は、縄文片・陶器片が出土した。

#### 第47号土坑 (第60図)

AA-7グリッドに位置する。西側が調査区域外となっており、平面形は、不明である。確認できる規模は、南北長172cm、東西長50cm以上、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-30°-Eを指す。

遺物は、縄文片が出土した。

#### 第48号土坑 (第60図)

AA-7・8グリッドに位置する。第3号住居跡と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ181cm、幅122cm、深さ100cmを測る。主軸方位は、N-15°-Wを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第49号土坑 (第60図)

AA-8グリッドに位置する。第4号住居跡と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ167cm、幅107cm、深さ52cmを測る。主軸方位は、N-10°-Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第50号土坑 (第60図)

AA-9グリッドに位置する。第4号住居跡・第1号掘建柱建物跡ピット1と重複し、第1号掘建柱建物跡に切られ、第4号住居跡を切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ152cm、幅99cm、深さ48cmを測る。主軸方位は、N-4°-Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第51号土坑 (第60図)

AA・AB-9グリッドに位置する。東側は調査区域外であり、平面形は、長方形を呈するとみられる。確認できた規模は、長さ135cm、幅135cm、深さ51cmを測る。主軸方位は、N-81°-Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第54号土坑 (第60図)

AA-8グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸105cm、短軸38cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

#### 第56号土坑 (第60図)

Z-10グリッドに位置する。重複関係は、第1号性格不明遺構に上面が切られる。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ277cm、幅90~100cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-2°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第57号土坑 (第60・65図)

Z-10グリッドに位置する。東側が調査区域外で、第7号溝跡・Z-9グリッドピット1と重複し、切られている。平面形は、方形を呈するとみられる。確認できる規模は、東西長100cm、南北長107cm以上、深さ62cmを測る。主軸方位は、N-12°-Eを指す。

遺物は、須恵器片が出土した。

#### 第59号土坑 (第61図)

Y-9・10グリッドに位置する。北側が調査区域外となっており、平面形は、長方形を呈するとみられる。確認できる規模は、長さ165cm、幅137cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N-5°-Wを指す。

#### 第61号土坑 (第61図)

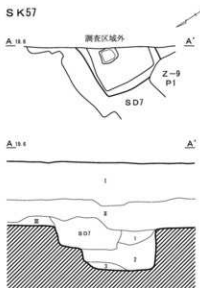
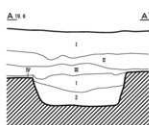
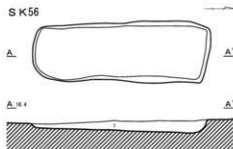
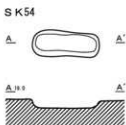
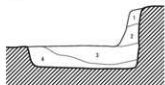
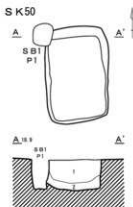
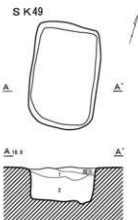
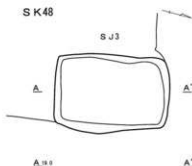
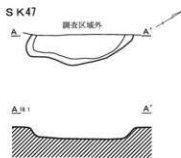
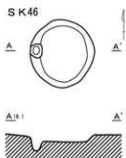
Y-9グリッドに位置する。北側が調査区域外となっており、平面形は、不明である。確認できる規模は、長さ297cm、幅51cm、深さ57cmを測る。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

#### 第63号土坑 (第61図)

Y-9グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸133cm、短軸86cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

#### 第64号土坑 (第61図)

Y-9グリッドに位置する。平面形は、方形を呈する。規模は、長さ92cm、幅86cm、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。



- SK48
- 1 黒褐色 10YR3/2
  - 2 黒褐色 10YR2/2
  - 3 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック多
  - 4 黒色 10YR2/1

- SK49
- 1 黒褐色 10YR3/1 ローム粒子・細まりなし
  - 2 黒褐色 10YR3/1 ローム粒子・ロームブロック多 細まりあり

- SK50
- 1 黒褐色 10YR2/3 ローム粒子・ロームブロック多 細まりあり
  - 2 黒褐色 10YR3/1 ローム粒子多 炭化物 細まりややあり

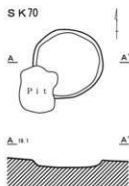
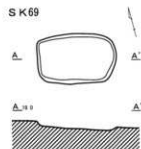
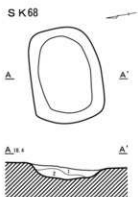
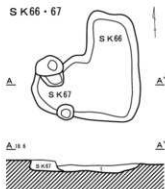
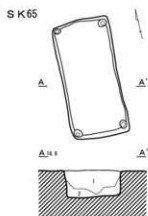
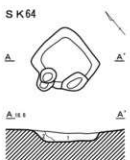
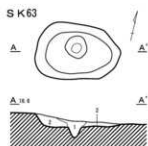
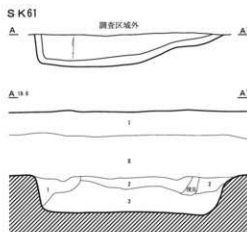
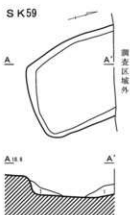
- SK51
- I 黒褐色 10YR3/2 ローム粒子を多く含む 現在の部の耕作土
  - II 黒褐色 10YR2/2 ローム粒子を僅かに含む 細まりややあり
  - III 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子 赤色スコリアを含む しまりややあり 断縁層
  - IV 褐色 10YR4/4 ソフトローム 立川遺跡に相
  - 1 褐色 10YR4/4 ローム粒子 細まりあり
  - 2 暗褐色 10YR3/3 ロームブロック多 ローム粒子 細まりあり

- SK54
- 1 黒色 10YR2/1 ロームブロック・ローム粒子多、炭化物

- SK57
- I 黒褐色 10YR3/2 ローム粒子を多く含む 現在の部の耕作土
  - II 黒褐色 10YR2/2 ローム粒子を僅かに含む 細まりややあり
  - III 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子 赤色スコリアを含む しまりややあり 断縁層
  - 1 褐色 10YR4/4 炭化物微 ローム粒子 細まりあり
  - 2 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子・ロームブロック多 細まりあり
  - 3 褐色 10YR4/4 ローム粒子多

0 2m

第60図 土坑(4)



S K 59  
1 暗褐色 10Y3/3 ローム粒子・ロームブロック多 締まりなし

S K 61  
1 黒褐色 10Y3/2 ローム粒子を多く含む 現在の畑の耕作土  
2 黒褐色 10Y2/2 ローム粒子を僅かに含む 締まりややあり  
3 黒褐色 10Y2/3 ロームブロック多  
4 暗褐色 10Y3/3 ロームブロック多  
5 暗褐色 10Y3/4 ロームブロック多 炭化物

S K 63  
1 黒褐色 10Y3/1  
2 灰黄褐色 10Y3/4 2 ローム粒子多

S K 64  
1 黒褐色 10Y3/2 ローム小ブロック 締まりなし  
2 黒褐色 10Y3/2 ロームブロック多

S K 65  
1 黒色 10Y2/1 ロームブロック多 ローム粒子多  
2 黒色 10Y2/1 ロームブロック少

S K 66  
1 黒褐色 10Y2/2

S K 69  
1 黒褐色 10Y3/2 ロームブロック多 締まりなし  
2 暗褐色 10Y3/4 ロームブロック多 ローム粒子多

0 2m

第61図 土坑 (5)

#### 第65号土坑 (第61図)

Y-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ188cm、幅87cm、深さ44cmを測る。主軸方位は、N-1°-Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第66号土坑 (第61図)

Y-9グリッドに位置する。第67号土坑と重複し、切っている。平面形は、L字形を呈する。規模は、長さ170cm、幅70~100cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-8°-Eを指す。

#### 第68号土坑 (第61図)

Z-9グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ153cm、幅112cm、深さ19cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

#### 第69号土坑 (第61・65図)

Z-8グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ124cm、幅79cm、深さ8cmを測る。主軸方位は、N-76°-Wを指す。

遺物は、土師器片・古銭が出土した。古銭は北宋の「元通寶」で、文字は時計回りである。

#### 第70号土坑 (第61図)

Z-8グリッドに位置する。ピットにより南西部が切られている。平面形は、円形を呈する。規模は、径111cm×108cm、深さ12cmを測る。

遺物は、縄文片・土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第72号土坑 (第62図)

Y-10グリッドに位置する。第7号溝跡と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈するとみられる。確認できる規模は、長さ100cm、幅90cm、深さ19cmを測る。主軸方位は、N-11°-Eを指す。

#### 第73号土坑 (第62図)

Z-9グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ124cm、幅95cm、深さ40cmを測る。主軸方位は、N-88°-Wを指す。

#### 第74号土坑 (第62図)

Y-9グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ100cm、幅63cm、深さ

10cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

#### 第76号土坑 (第62図)

P-15グリッドに位置する。P-15グリッドピット6に切られている。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ208cm、幅132cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-25°-Wを指す。

遺物は、縄文片・須恵器片・陶器片が出土した。

#### 第77号土坑 (第62図)

P-15グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸139cm、短軸47cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-56°-Eを指す。

遺物は、縄文片・土師器片が出土した。

#### 第78号土坑 (第62図)

Q-14グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ88cm、幅71cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-34°-Wを指す。

#### 第80号土坑 (第62図)

Q-13・14グリッドに位置する。第81号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ167cm、幅100cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-18°-Wを指す。

遺物は、土師器片・陶器片が出土した。

#### 第81号土坑 (第62図)

Q-13・14グリッドに位置する。第80号土坑と重複し、先後関係は不明である。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ234cm、幅69cm、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-21°-Wを指す。

遺物は、土師器片・陶磁器片が出土した。

#### 第82号土坑 (第62・65図)

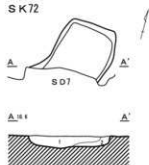
Q-14グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ158cm、幅63cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

遺物は、土師器片・釘が出土した。

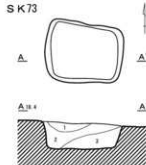
#### 第83号土坑 (第62・65図)

Q-13・14グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ361cm、幅62cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

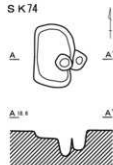
S K72



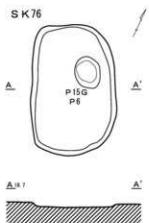
S K73



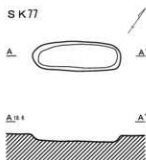
S K74



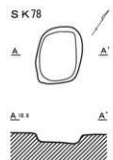
S K76



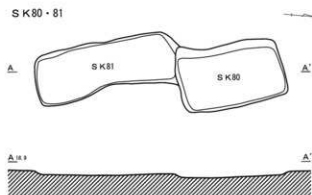
S K77



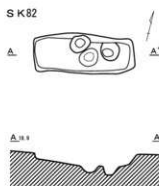
S K78



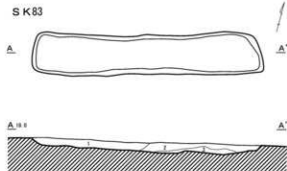
S K80・81



S K82



S K83



S K72

- 1 褐色 10YR4/4 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子 締まりなし
- 2 赤褐色 2.5YR4/9 焼土粒子・焼土ブロック・被熱ロームブロック

S K73

- 1 褐色 10YR4/4 ロームブロック多 締まりあり
- 2 暗褐色 10YR3/4 ローム粒子・ロームブロック多 締まりなし
- 3 褐色 10YR4/4 ローム粒子・ロームブロック多 締まりなし

S K83

- 1 黒褐色 10YR2/3 ローム粒子・ロームブロック(径1cm)・炭化粒子多
- 2 暗褐色 10YR3/3 ローム粒子・ロームブロック(径1~3cm)極多 炭化粒子少
- 3 黒褐色 10YR2/3 ローム粒子・ロームブロック(1cm)多

0 2m

第62図 土坑 (6)

遺物は、縄文片・土師器片・陶器片と断面円形の棒状鉄製品が出土した。

#### 第84号土坑 (第63・65図)

Q-13・14グリッドに位置する。R-14グリッドビット2に坑底中央が切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ140cm、幅84cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-29°-Eを指す。

遺物は、断面長方形の角柱状鉄器が出土した。

#### 第85号土坑 (第63図)

R-14グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ99cm、幅74cm、深さ21cmを測る。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

#### 第86号土坑 (第63図)

R-14グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸107cm、短軸68cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-2°-Wを指す。

#### 第88号土坑 (第63図)

R-15グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸87cm、短軸57cm、深さ22cmを測る。主軸方位は、N-45°-Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第89号土坑 (第63図)

R-14・15グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸161cm、短軸125cm、深さ54cmを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。

#### 第90号土坑 (第63図)

V-12グリッドに位置する。平面形は、方形を呈する。規模は、長さ70cm、幅68cm、深さ105cmを測る。主軸方位は、N-12°-Eを指す。

#### 第91号土坑 (第63図)

R-15グリッドに位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長軸95cm、短軸43cm、深さ23cmを測る。主軸方位は、N-9°-Eを指す。

#### 第92号土坑 (第63図・22図23)

O-16グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ115cm、幅93cm、深さ46cmを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。

遺物は、須恵器片・縄文片・石鏃が出土した。

#### 第93号土坑 (第63図)

R-13・14グリッドに位置する。平面形は、不整長方形を呈する。規模は、長さ129cm、幅67cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-77°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

#### 第94号土坑 (第63図)

T-14グリッドに位置する。平面形は、不整長方形を呈する。規模は、長さ209cm、幅70cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

遺物は、土師器片・縄文片・剥片が出土した。

#### 第96号土坑 (第63図)

T-13グリッドに位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長軸109cm、短軸86cm、深さ25cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第97号土坑 (第63図)

T-12・13グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸63cm、短軸48cm、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-53°-Wを指す。

#### 第98号土坑 (第64図)

T-12グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸84cm、短軸69cm、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第104号土坑 (第64図)

U-12グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ181cm、幅96cm、深さ20～28cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。

遺物は、土師器片・須恵器片が出土した。

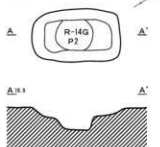
#### 第105号土坑 (第64図)

U・V-12グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ157cm、幅87cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-47°-Wを指す。

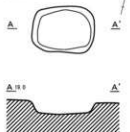
#### 第106号土坑 (第64図)

U・V-12グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径106cm×103cm、深

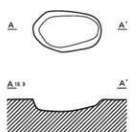
SK84



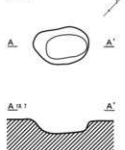
SK85



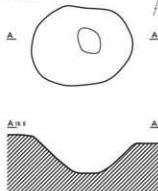
SK86



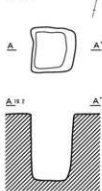
SK88



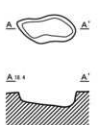
SK89



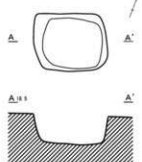
SK90



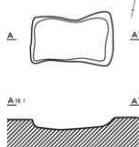
SK91



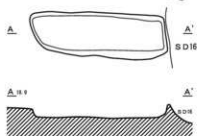
SK92



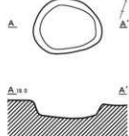
SK93



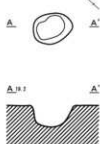
SK94



SK96



SK97



第63图 土坑(7)

0 2m

さ11cmを測る。主軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、縄文片・土師器片が出土した。

#### 第107号土坑 (第64図)

U・V-12・13グリッドに位置する。第108号土坑と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、不整形円形を呈する。規模は、径134cm×120cm、深さ4cmを測る。主軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

#### 第108号土坑 (第64図)

U・V-13グリッドに位置する。第107号土坑と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、不整形円形を呈する。規模は、径60cm以上×72cm、深さ5cmを測る。主軸方位は、 $N-4^{\circ}-W$ を指す。

#### 第113号土坑 (第64図)

W-11グリッドに位置する。平面形は、台形を呈する。規模は、長さ326cm、幅80～136cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、 $N-0^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第116号土坑 (第64図)

X-10グリッドに位置する。第115号土坑と重複し、切っている。南側の一部が攪乱を受けているが、平面形は、長方形を呈するとみられる。規模は、長さ188cm以上、幅76cm、深さ5cmを測る。主軸方位は、 $N-7^{\circ}-E$ を指す。

#### 第117号土坑 (第64・65図)

X-10グリッドに位置する。平面形は、不整形長方形を呈する。規模は、長さ324cm、幅68cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、 $N-81^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、土師器片・陶器片・リング状鉄器が出土した。

#### 第118号土坑 (第64図)

X-10グリッドに位置する。第4号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、長楕円形を呈する。規模は、長軸305cm、短軸56cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、 $N-87^{\circ}-W$ を指す。

遺物は、土師器片・陶器片が出土した。

#### 第119号土坑 (第64図)

X-10グリッドに位置する。第4号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、円形を呈する。規模は、径64cm×56cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、 $N-0^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、土師器片が出土した。

#### 第120号土坑 (第66・67図)

X-10グリッドに位置する。第4号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、円形を呈する。規模は、径88cm×75cm、深さ115cmを測り、南壁が僅かにオーバーハングしている。主軸方位は、 $N-90^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、陶器の中碗、陶器の片口、摺鉢の他に煙管の吸口、板状の金属、刀子が出土した。

#### 第121号土坑 (第66図)

W-10グリッドに位置する。第3号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ546cm、幅54cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、 $N-85^{\circ}-E$ を指す。

#### 第122号土坑 (第66図)

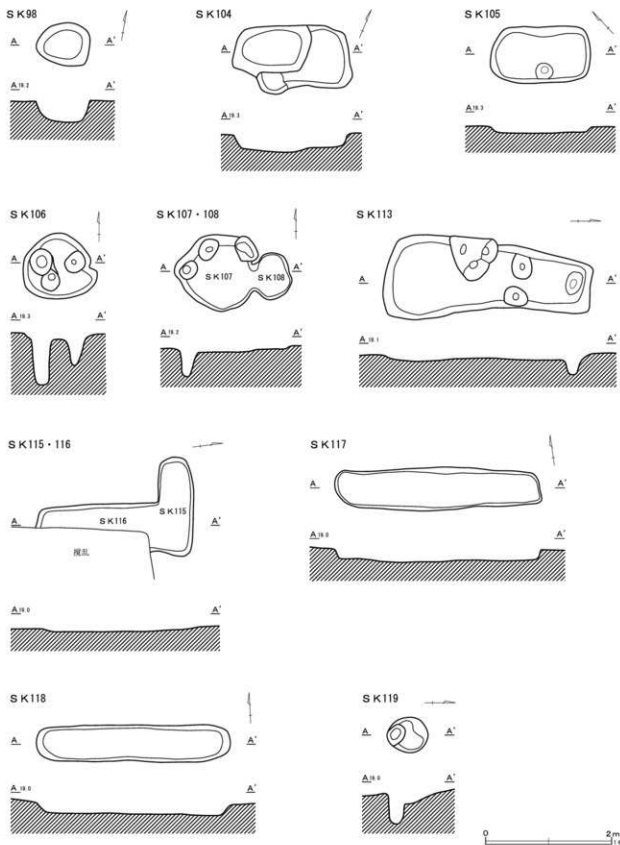
W-10グリッドに位置する。第3号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、不整形長方形を呈する。規模は、長さ257cm、幅58cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、 $N-83^{\circ}-E$ を指す。

#### 第123号土坑 (第66図)

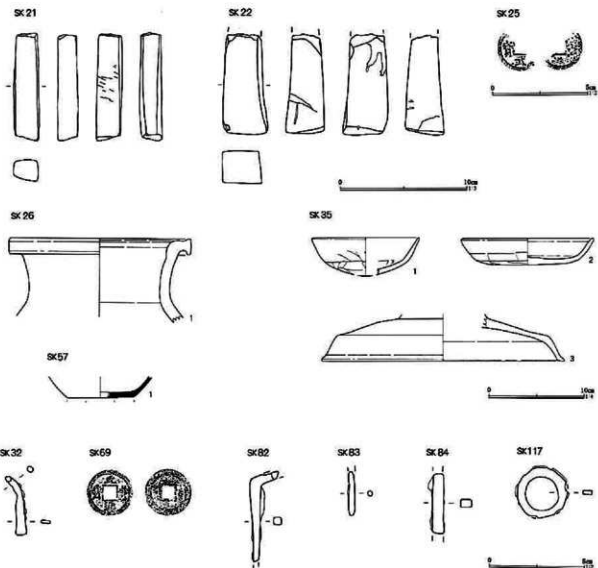
W-10グリッドに位置する。第3号性格不明遺構と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、不整形長方形を呈する。規模は、長さ269cm、幅50cm、深さ27cmを測る。主軸方位は、 $N-87^{\circ}-E$ を指す。

#### 第124号土坑 (第66図)

AD-6グリッドに位置する。第127・128号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ452cm、幅56cm、深さ4cmを測る。主軸方位は、 $N-85^{\circ}-E$ を指す。



第64图 土坑 (8)



第65図 土坑出土遺物

土坑出土遺物観察表 (第65図)

| 番号   | 器種  | 口径     | 器高 | 底径 | 胎土  | 焼成 | 色調    | 残存 | 備考                  |
|------|-----|--------|----|----|-----|----|-------|----|---------------------|
| SK26 | 陶器壺 | (18.8) |    |    | B   | 良好 | にぶい赤褐 | 25 | 降灰による発泡付着物 常滑       |
| SK57 | 須恵環 | (7.0)  |    |    | B J | 良好 | 灰     | 20 | 底部右回転外周へう削り 内面丁寧なナデ |

第35号土坑出土遺物観察表 (第65図)

| 番号 | 器種  | 口径     | 器高  | 底径 | 胎土  | 焼成 | 色調  | 残存 | 備考                                 |
|----|-----|--------|-----|----|-----|----|-----|----|------------------------------------|
| 1  | 土師環 | (11.2) |     |    | E J | 良好 | 橙   | 20 | 体部外面一部と底部へう削り 体部内面へうナデ             |
| 2  | 土師環 | (13.7) | 2.8 |    | B J | 良好 | 橙   | 20 | 口縁部横ナデ 体部外面下端へうナデ 底部へう削り 内面口縁部油煙付着 |
| 3  | 土器蓋 | (25.4) |     |    | B G | 良好 | 灰黄褐 | 20 | 口縁部から天井部外面工具右回転ナデ                  |

#### 第125号土坑

AB-7グリッドに位置する。第2号住居跡・第22号溝跡と重複し、第2号住居跡・第2号溝跡を切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ147cm、幅33cm、深さ27cmを測る。主軸方位は、N-71°-Wを指す。

#### 第126号土坑

AB-7グリッドに位置する。第2号住居跡と重複し、切っている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸38cm、短軸14cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、N-5°-Wを指す。

#### 第138号土坑 (第66図)

AE-6グリッドに位置する。南側が調査区域外となっている。平面形は、円形を呈するとみられる。規模は、径183cm×150cm以上、深さ155cmを測る。主軸方位は、N-75°-Wを指す。

#### 第139号土坑 (第66図)

AE-5グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸88cm、短軸65cm、深さ36cmを測る。主軸方位は、N-41°-Wを指す。

#### 第143号土坑 (第66図)

AE-6グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径84cm×74cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-23°-Eを指す。

#### 第144号土坑 (第68図)

AD-7グリッドに位置する。第15号住居跡ピット7と重複し、南壁は明確にすることはできなかった。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸123cm、短軸103cm、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-54°-Eを指す。

#### 第145号土坑 (第68図)

AD-7グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸103cm、短軸82cm、深さ36cmを測る。主軸方位は、N-54°-Eを指す。

#### 第146号土坑 (第68図)

AD-6・7グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸105cm、短軸64cm、

深さ13～20cmを測る。主軸方位は、N-79°-Eを指す。

#### 第154号土坑 (第68図)

AC-7グリッドに位置する。南東隅の壁は確認できなかったが、平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ120cm、幅96cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-7°-Eを指す。

#### 第155号土坑 (第68図)

AC-7グリッドに位置する。床面が一部ビットにより確認できなかった。平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ114cm、幅82cm、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-58°-Eを指す。

#### 第156号土坑 (第68図)

AC-7グリッドに位置する。第13号住居跡と重複し、切られている。平面形は、楕円形を呈するとみられる。確認できた規模は、長軸220cm、短軸136cm、深さ30cmを測る。主軸方位は、N-7°-Eを指す。

#### 第158号土坑 (第68図)

AC-7グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。南壁が一部確認できなかったが、規模は、長軸86cm、短軸70cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-50°-Eを指す。

#### 第159号土坑 (第68図)

Q-15グリッドに位置する。東側は調査区域外で、南側は第11号溝と重複し、切っている。平面形は、楕円形を呈するとみられる。確認できた規模は、長軸164cm、短軸67cm、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

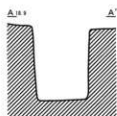
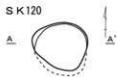
#### 第160号土坑 (第68図)

Q-15グリッドに位置する。北側は既調査区で削平されている。北側は不明であるが、平面形は、不整長方形を呈するとみられる。確認できた規模は、長さ120cm、幅67cm、深さ8cmを測る。主軸方位は、N-8°-Eを指す。

#### 第161号土坑 (第68図)

Q-15グリッドに位置する。平面形は、楕円形

SK120



SK121



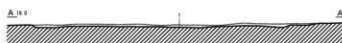
SK122



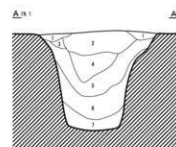
SK123



SK124



SK138



SK139



SK143



SK124

1 原褐色 黄土粒子・ローム粒子や中多

SK138

- 1 褐色 ローム粒子・炭化物粒子微
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物粒子微
- 3 暗褐色 炭化物粒子微
- 4 明褐色 ロームブロック少 炭化物粒子微
- 5 褐色 ロームブロック少 炭化物粒子微
- 6 明褐色 ロームブロックや中多
- 7 暗褐色 ロームブロック少

SK139

1 明褐色 黒色土を部分的に含む

SK143

1 暗褐色 ローム粒子少 炭化物粒子少

0 2m

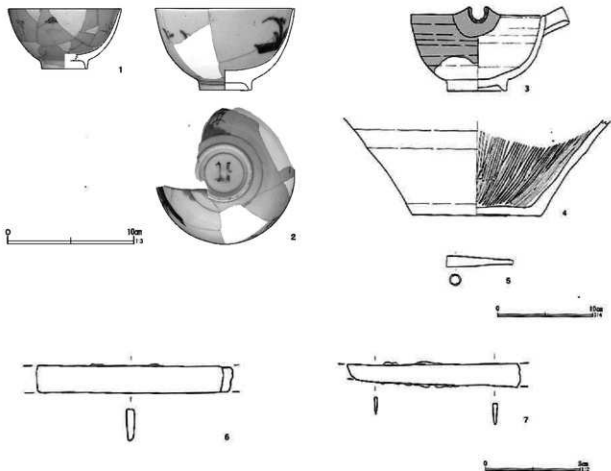
第66図 土坑(9)

を呈する。規模は、長軸 50 cm、短軸 29 cm、深さ 20 cm を測る。主軸方位は、N-56°-E を指す。

# 第162号土坑 (第68図)

Q-15 グリッドに位置する。平面形は、隅丸長

方形を呈する。規模は、長さ 107 cm、幅 58 cm、深さ 20 ~ 47 cm を測る。主軸方位は、N-71°-E を指す。



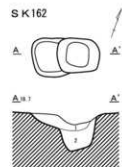
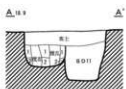
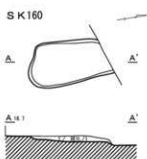
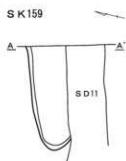
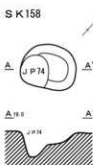
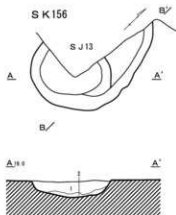
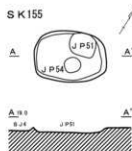
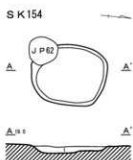
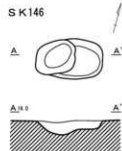
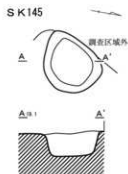
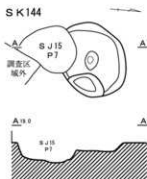
第67図 第120号土坑出土遺物

第120号土坑出土遺物観察表 (第67図)

| 番号 | 材質 | 器種 | 形状 | 法 量    |     |      | 文 様 |     | 残存 | 備 考     |
|----|----|----|----|--------|-----|------|-----|-----|----|---------|
|    |    |    |    | a      | b   | c    | 外 面 | 内 面 |    |         |
| 1  | 磁器 | 小碗 | 丸形 | 8.9    | 4.8 | 3.5  | 蠟   | —   | 80 |         |
| 2  | 磁器 | 中碗 | 丸形 | (11.0) | 6.5 | 4.1  | 草花  | —   | 50 | 銘「π用?長」 |
| 4  | 磁器 | 柄鉢 |    |        |     | 13.5 | —   | —   | 70 | 外面口クロナデ |

第120号土坑出土遺物観察表 (第67図)

| 番号 | 材質 | 器種 | 形状     | 法 量  |     |     |      | 残存  | 備 考 |
|----|----|----|--------|------|-----|-----|------|-----|-----|
|    |    |    |        | a    | b   | c   | d    |     |     |
| 3  | 陶器 | 片口 | 口縁切込丸形 | 14.2 | 8.0 | 6.3 | 16.7 | 100 |     |



SK154  
1 暗褐色 黒色粒子鉄 ローム粒子少

SK156 (A-A')  
1 暗褐色 炭化物・焼土粒子・ローム粒子微  
2 褐色 ローム粒子やや多

SK156 (B-B')  
1 暗褐色 黒色粒子・ローム粒子鉄  
2 褐色 黒色粒子・ローム粒子微

SK159  
1 黒褐色 ロームブロック多  
2 黒褐色 ローム粒子少

SK160  
1 黒褐色 ローム粒子やや多 焼土粒子少

SK161  
1 暗褐色 ロームブロック少  
2 黒褐色 ロームブロック多

SK162  
1 暗褐色 ローム粒子少 しまり弱い  
2 黒褐色

0 2m

第68図 土坑 (10)

#### (4) 溝 跡

##### 第1号溝跡 (第69図)

AH・AG-2・3グリッドに位置する。第2号溝と重複し、切られている。南北ともに調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長13.90m、幅0.50～0.64m、深さ27～39cmを測る。主軸方位は、N-6°-Eを指す。遺物は、土師器片が出土した。

##### 第2号溝跡 (第69図)

AH・AI-2グリッドに位置する。第1号溝と重複し、切っている。南側は途中で確認することができなかった。確認された規模は、全長7.64m、幅0.26～0.70m、深さ9～20cmを測る。主軸方位は、N-6°-Eを指す。遺物は、土師器片が出土した。

##### 第3号溝跡 (第70・71図)

AF-4・5グリッドに位置する。東西ともに調査区域外へ伸びており、確認された規模は、全長13.56m、幅1.38～1.44m、深さ36～59cmを測る。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

遺物は、須恵器高台付坏・鉢の他に須恵器甕片・縄文片が出土した。

##### 第4号溝跡 (第72図)

AA・AB-7・8グリッドに位置する。南側は調査区域外になっており、第3号住居跡・第13号土坑・第6号溝と重複しており、第3号住居跡の南壁を切るが、第13号土坑・第6号溝との先後関係は不明である。検出された規模は、全長4.78m、幅2.86～4.00m、深さ15～38cmを測る。主軸方位は、N-1°-Eを指す。遺物は、縄文片が出土した。

##### 第5号溝跡 (第72図)

AA-7グリッドに位置する。北は調査区域外に伸びており、南は第3号住居跡と切りあうが、先後関係は不明である。検出された規模は、全長2.96m、幅0.26～0.46m、深さ5～20cmを測る。主軸方位は、N-28°-Wを指す。

##### 第6号溝跡 (第72図)

AA・AB-7グリッドに位置する。検出された規模は、全長6.70m以上、幅0.20～0.36m、深さ

4～10cmを測る。主軸方位は、N-28°-Wを指す。

##### 第7号溝跡 (第73図)

Y-10、Z-9・10グリッドに位置する。東は調査区域外に伸びており、第57号土坑と重複し、切っている。検出された規模は、全長7.14m、幅0.70～0.90m、深さ33～42cmを測る。主軸方位は、N-80°-Eを指す。

##### 第8号溝跡 (第73図)

Y-9グリッドに位置する。西側が調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長1.72m以上、幅0.38～0.40m、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-80°-Wを指す。

##### 第9号溝跡 (第73図)

Y-9グリッドに位置する。西側が調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長1.80m以上、幅0.54～0.66m、深さ9～18cmを測る。主軸方位は、N-83°-Wを指す。遺物は、縄文片が出土した。

##### 第10号溝跡 (第74・75図)

P-15・16グリッドに位置する。東側が調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長6.74m以上、幅0.52～0.61m、深さ29～40cmを測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

遺物は、覆土上層から吊り金具、円盤に吊り金具が付いた鉄器が出土した。

##### 第11号溝跡 (第89図)

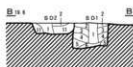
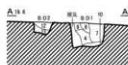
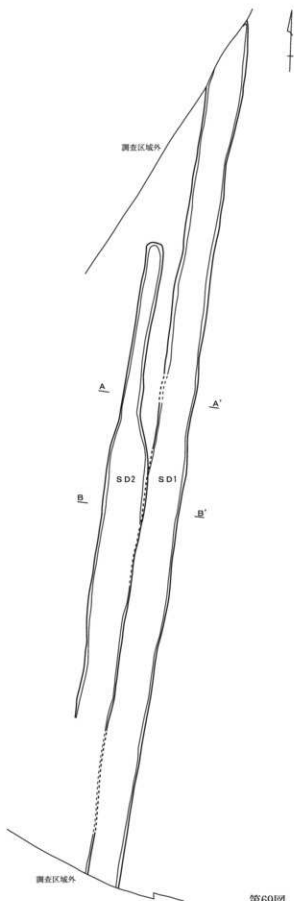
Q-14・15グリッドに位置する。東側が調査区域外に伸びており、第159号土坑に切られており、確認された規模は、全長15.5m、幅0.60～0.85m、深さ46～53cmを測る。主軸方位は、N-102°-Wを指す。

遺物は、刀子・釘が出土した。

##### 第12号溝跡 (第76・77図)

S-12・13・14・15グリッドに位置する。東側・西側ともに調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長22.7m、幅2.6～3.3m、深さ112～130cmを測る。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

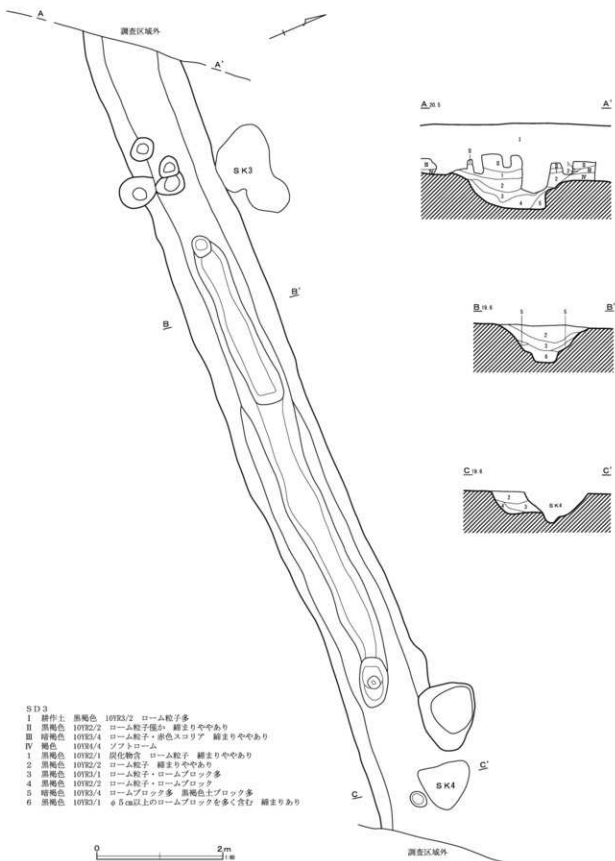
遺物は、須恵器坏・甕、土師器台付甕・甕、鉄器、



- SD1・2
- |            |         |                 |
|------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色      | 10V32/2 | ローム粒子・ブロック若干    |
| 2 黒褐色      | 10V32/1 | ローム粒子若干         |
| 3 黒褐色      | 10V32/1 | ロームブロック多        |
| 4 黒色       | 10V32/1 | ロームブロック若干       |
| 5 黒色       | 10V32/1 | 締まりなし           |
| 6 黒色       | 10V32/1 | ロームブロック僅少、締まり強い |
| 7 暗褐色      | 10V32/3 | ローム粒子多、ブロック若干   |
| 8 にぶい黄褐色   | 10V32/4 |                 |
| 9 ローム小ブロック |         |                 |
| 10 灰黄褐色    | 10V32/4 | ローム粒子多、締まり強い    |
| 11 黒色      | 10V32/1 | ローム粒子僅少、締まりあり   |
| 12 灰黄褐色    | 10V32/4 | ローム粒子僅少、締まりあり   |
| 13 灰黄褐色    | 10V32/4 | 締まりなし           |

第69図 第1・2号溝跡

0 2m



第70図 第3号溝跡



第71図 第3号溝跡出土遺物

第3号溝出土遺物観察表 (第71図)

| 番付 | 器 種   | 口径 | 器高 | 底径    | 胎 土 | 焼成 | 色 調 | 残存 | 備 考             |
|----|-------|----|----|-------|-----|----|-----|----|-----------------|
| 1  | 須恵高台杯 |    |    | 6.1   | A B | 良好 | 暗灰黄 | 95 | 底部右回転糸切り        |
| 2  | 須恵鉢   |    |    | (9.4) | B J | 良好 | 灰   | 20 | 貼り付け高台<br>内面自然粒 |

泥面子が出土した。遺物は、西端部に集中し、出土位置は、中層より下で出土したが、2・3の台付甕が床面より20 cm程、他は50～80 cm程浮いた状態で出土した。

#### 第13号溝跡 (第78図)

S-14グリッドに位置する。第14号溝を切り、東は調査区域外に伸びている。確認された規模は、全長5.2 m、幅0.42 m、深さ30～40 cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。

遺物は、鉄片が出土した。

#### 第14号溝跡 (第78図)

S・T-14グリッドに位置する。第13号溝に切られ、東は調査区域外に伸びている。確認された規模は、全長4.5 m、幅0.50～0.56 m、深さ40～57 cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。

#### 第15号溝跡 (第78図)

T-14グリッドに位置する。東は調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長3.1 m、幅0.50～0.54 m、深さ13～28 cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。

#### 第16号溝跡 (第78図)

T-13・14グリッドに位置する。東は調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長7.0 m、幅0.73～0.89 m、深さ17～28 cmを測る。主軸方位は、N-73°-Eを指す。

#### 第17号溝跡 (第79・80図)

T-12・13・14、U-11・12・13グリッドに位置する。第18号溝と交差して、切っている。東西ともに調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長24.0 m、幅1.00～1.34 m、深さ62～75 cmを測る。主軸方位は、N-82°-Eを指す。

遺物は、須恵器破片、土師器片が出土した。

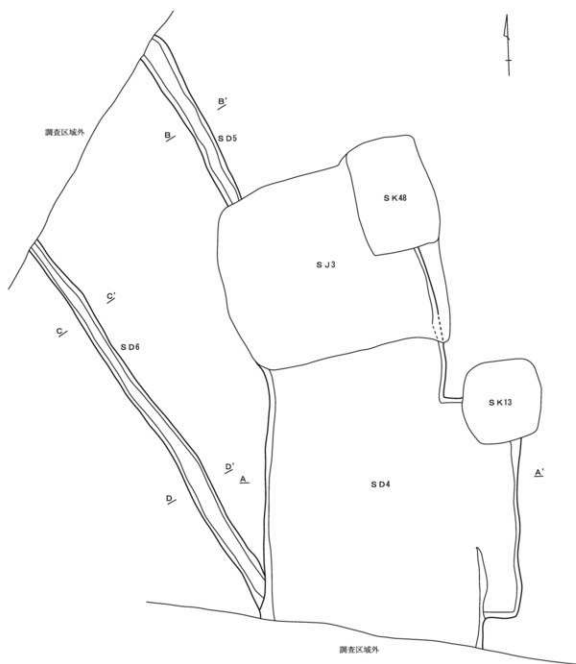
#### 第18号溝跡 (第79図)

T・U-11グリッドに位置する。第17号溝と交差し、切られている。北側は調査区域外に伸びており、確認された規模は、全長7.8 m、幅1.2～1.5 m、深さ19～31 cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。遺物は、土師器片が出土した。

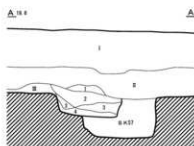
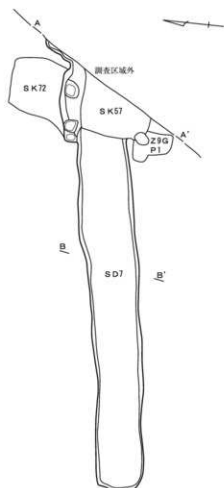
#### 第19号溝跡 (第81～87図)

U・V・W・X-11グリッドに位置する。第11号住居跡と重複し、切っている。南北ともに調査区域外に伸びており、検出された規模は、全長31 m、幅2.3～5.7 m、深さ70～120 cmを測る。主軸方位は、N-5°-Wを指す。

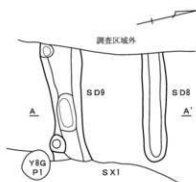
遺物は、陶磁器類、銭貨、金属製品、土製品、瓦が出土した。金属製品には、先端が二股のもの、角柱状の棒状鉄器、小刀の切先・刃部、釘、円盤状のもの、板状のもの、毛抜き、煙管や鉄製の香炉と見られるものがある。



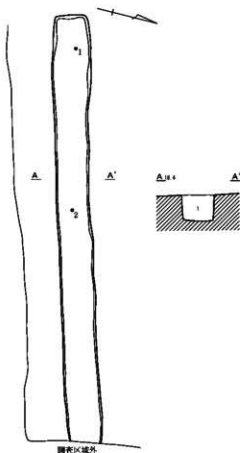
第72图 第4·5·6号沟迹



- SD7  
 I 耕作土 10YR2/2 ローム粒子層が  
 II 黒褐色 10YR2/4 ローム粒子・赤色粒子 やや縮まりあり  
 III 暗褐色 10YR2/1 ローム粒  
 1 黒色 10YR2/1 ローム粒  
 2 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック多  
 3 黒褐色 10YR3/1 ローム粒・ロームブロック多  
 4 黒色 10YR2/1 ローム粒少



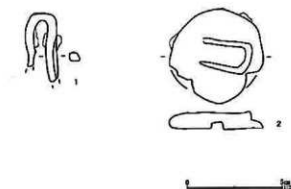
第73図 第7・8・9号溝跡



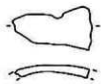
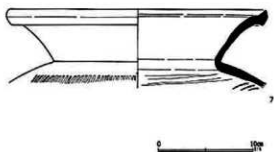
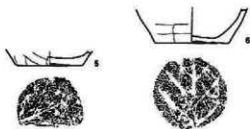
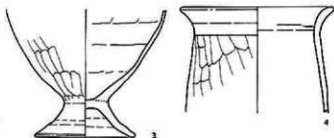
1 増彩色 10H2/3 ローム粒子多 ロームブロック (50~80cm)



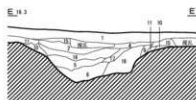
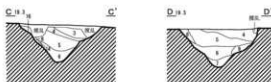
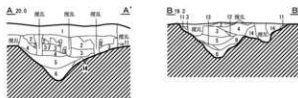
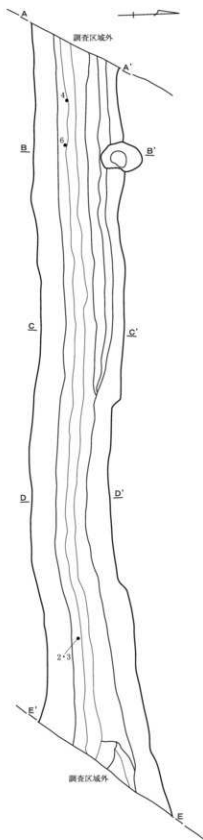
第74図 第10号溝跡



第75図 第10号溝跡出土遺物



第76図 第12号溝跡出土遺物



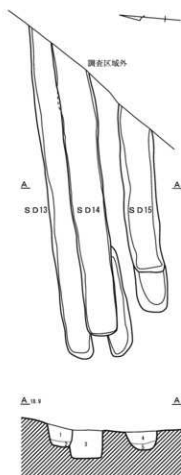
- |    |              |                       |
|----|--------------|-----------------------|
| 1  | 耕作土          |                       |
| 2  | 黒色 7.5YR7/1  | 粗粒                    |
| 3  | 黒褐色 7.5YR5/1 |                       |
| 4  | 黒褐色 7.5YR5/1 | ローム粒子多 黒色ブロック若干 締まりあり |
| 5  | 黒褐色 7.5YR5/1 | ロームブロック・ローム粒子若干 締まりあり |
| 6  | 黒褐色 7.5YR5/1 | ローム粒子微 締まりなし          |
| 7  | 黒褐色 7.5YR5/2 | 黄褐色土多 締まりなし           |
| 8  | 黒褐色 7.5YR5/1 | 締まり有り                 |
| 9  | 黒褐色 7.5YR5/1 | ロームブロック・ローム粒子若干 締まりあり |
| 10 | 黒褐色 7.5YR5/1 | ローム多                  |
| 11 | 褐色 7.5YR4/3  | 焦土・灰色土粒子 締まり強い        |
| 12 | 黒褐色 7.5YR5/1 | 黄褐色土多                 |
| 13 | 黒褐色 7.5YR5/1 | ロームブロック・ローム粒子若干 締まりなし |
| 14 | 黒褐色 7.5YR5/1 | ローム混合土                |
| 15 | 暗褐色 7.5YR3/2 |                       |
| 16 | 黒褐色 7.5YR5/2 | ローム粒子若干 締まりあり         |
| 17 | 黒褐色 7.5YR5/1 | ロームブロック・ローム粒子多 締まりあり  |
| 18 | 黒褐色 7.5YR5/1 | ロームブロック・ローム粒子多        |

0 4 m  
1:100

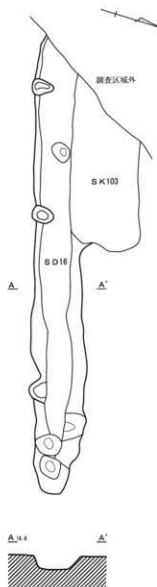
第77図 第12号溝跡

第12号溝出土遺物観察表 (第76図)

| 番号 | 器 種   | 口径           | 器高  | 底径    | 胎 土     | 焼成 | 色 調  | 残存  | 備 考                         |
|----|-------|--------------|-----|-------|---------|----|------|-----|-----------------------------|
| 1  | 須恵環   | (11.5)       | 3.7 | 5.8   | I J L   | 普通 | 灰    | 45  | 底部右回転糸切り<br>体部下位～底部酸化焙焼成    |
| 2  | 土師台付甕 | 13.2         |     |       | B       | 普通 | にふい褐 | 25  | 口縁～頸部内外面クロコナデ               |
| 3  | 土師台付甕 |              |     | 10.1  | B D     | 良好 | 褐灰   | 90  | 甕部内外面下位に一部油煙付着              |
| 4  | 土師甕   | (15.8)       |     |       | A D J   | 普通 | 橙    | 60  | 口縁部内外面クロコナデ 胴部外面↑<br>方向へテ削り |
| 5  | 土師甕   |              |     | (7.0) | A J     | 普通 | 橙    | 80  | 体部外面→方向へテ削り 底部木葉痕           |
| 6  | 土師甕   |              |     | 7.8   | A B F J | 普通 | 橙    | 60  | 体部外面→方向へテ削り 底部木葉痕           |
| 7  | 須恵甕   | (27.0)       |     |       | J       | 良好 | 褐灰   | 15  | 体部外面平行叩き・自然釉 内面青海波紋         |
| 8  | 泥面子   | 径2.25 厚さ0.95 |     |       |         | 普通 | 橙    | 100 | 文様不明                        |

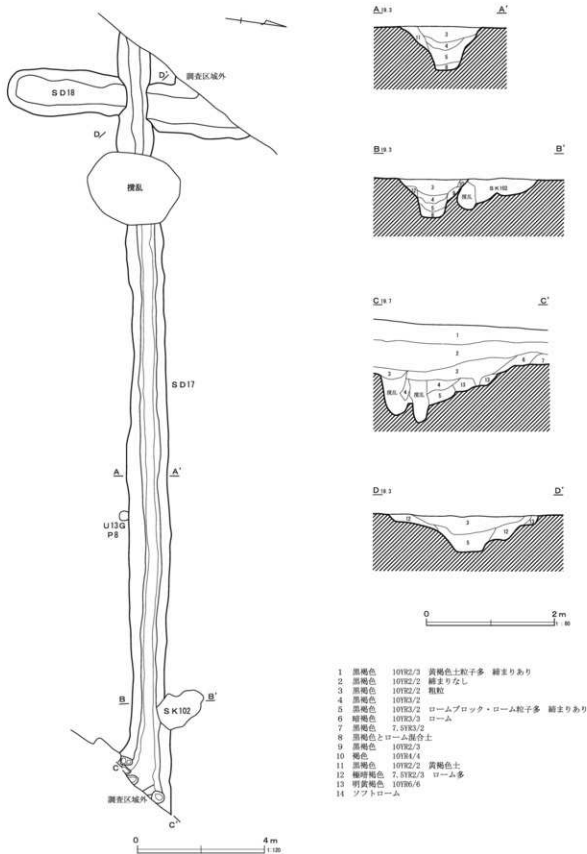


- 1 暗褐色 10193/3 ローム粒子・ロームブロック多(1～3cm)
- 2 暗褐色 10193/3 ローム粒子・ロームブロック少(1cm)  
炭化粒子少 焼土粒子微 雜りあり
- 3 暗褐色 10193/3 ローム粒子・ロームブロック多(1～5cm)
- 4 黒褐色 10192/2 ローム粒子・ロームブロック多(1～2cm)
- 5 黒褐色 10192/2 ローム粒子少

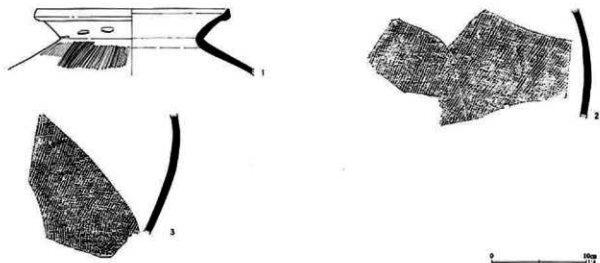


0 2 m

第78図 第13・14・15・16号溝跡



第79図 第17・18号溝跡



第80図 第17号溝跡出土遺物

第17号溝出土遺物観察表 (第80図)

| 番号 | 器 種  | 口径     | 器高 | 底径 | 胎 土 | 焼成 | 色 調 | 残存 | 備 考                |
|----|------|--------|----|----|-----|----|-----|----|--------------------|
| 1  | 須恵器甕 | (20.2) |    |    | A F | 良好 | 灰黄  | 30 | 胴部外面平行叩き 胴部内面ロクロナデ |
| 2  | 須恵器甕 |        |    |    | F   | 良好 | 灰   | 破片 | 外面平行叩き 内面工具ナデ      |
| 3  | 須恵器甕 |        |    |    | F   | 良好 | 灰   | 破片 | 外面平行叩き 内面工具ナデ      |

## 第20号溝跡

Y-10グリッドに位置する。L字状に屈曲し、北側・東側は調査区域外へ伸びている。確認された規模は、全長7.00 m、幅0.40～1.60 m、深さ5～25 cmを測る。主軸方位は、N-11°-EからN-80°-Eを指す。

## 第21号溝跡 (第88図)

A C・A D-6グリッドに位置する。北側は調査区域外へと伸びている。確認された規模は、全長11.5 m、幅0.44～0.58 m、深さ6～23 cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

遺物は、土鍬が1点出土した。長さ31.9 mm、最大径7.7 mm、孔径1.9 mmである。

## 第22号溝跡 (第88図)

A B・A C-7グリッドに位置する。南側で第13号住居跡、北側で第14号住居跡と重複し、いずれも切っているが、平面では確認できなかった。確認された規模は、全長2.0 m、幅0.50～0.60 m、

深さ10～14 cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

## 第23号溝跡 (第89図)

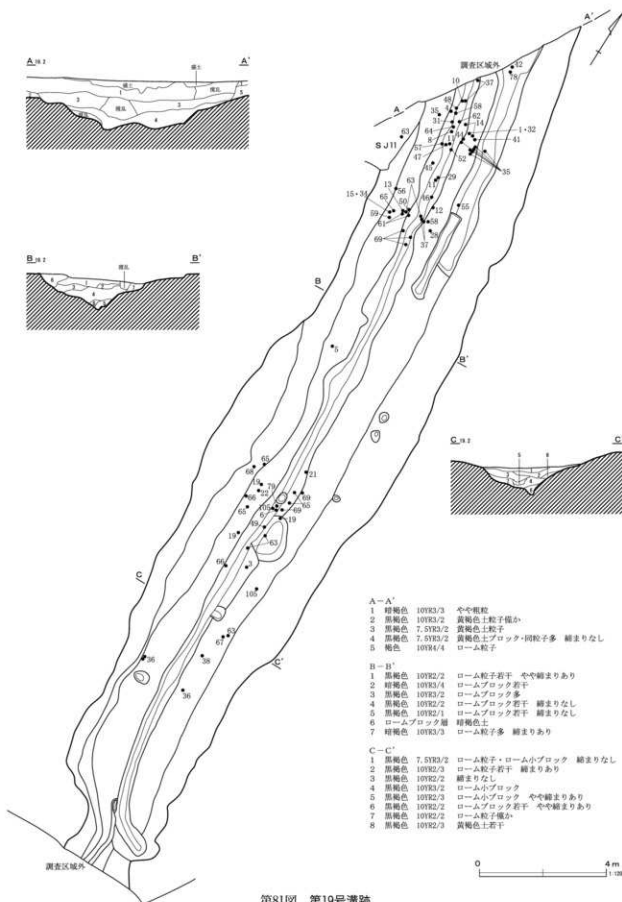
Q-15グリッドに位置する。東側は調査区域外へ伸びている。確認された規模は、全長4.0 m、幅0.60～1.00 m、深さ23～37 cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

## 第24号溝跡 (第89図)

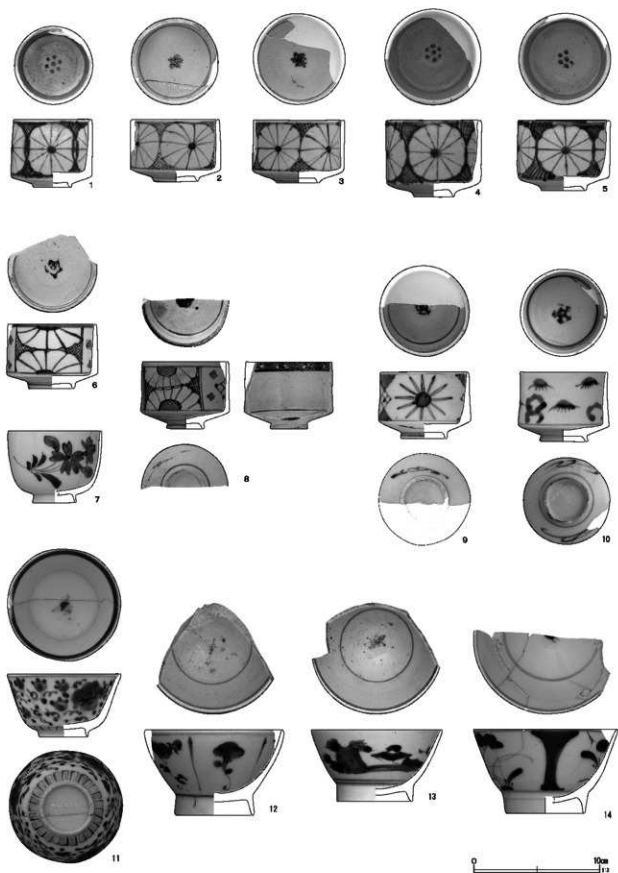
Q-15グリッドに位置する。東側は調査区域外へ伸びている。確認された規模は、全長3.65 m、幅0.50～0.60 m、深さ21～26 cmを測る。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

## 第25号溝跡 (第89図)

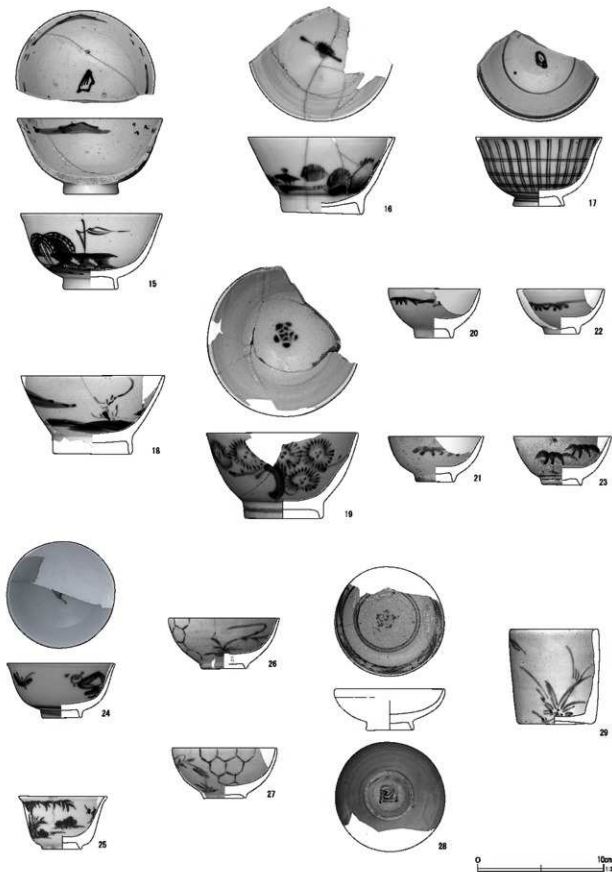
Q-15グリッドに位置する。北端で第23号溝と重複するが、先後関係は不明である。確認された規模は、全長4.40 m以上、幅0.20～0.35 m、深さ9～21 cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。



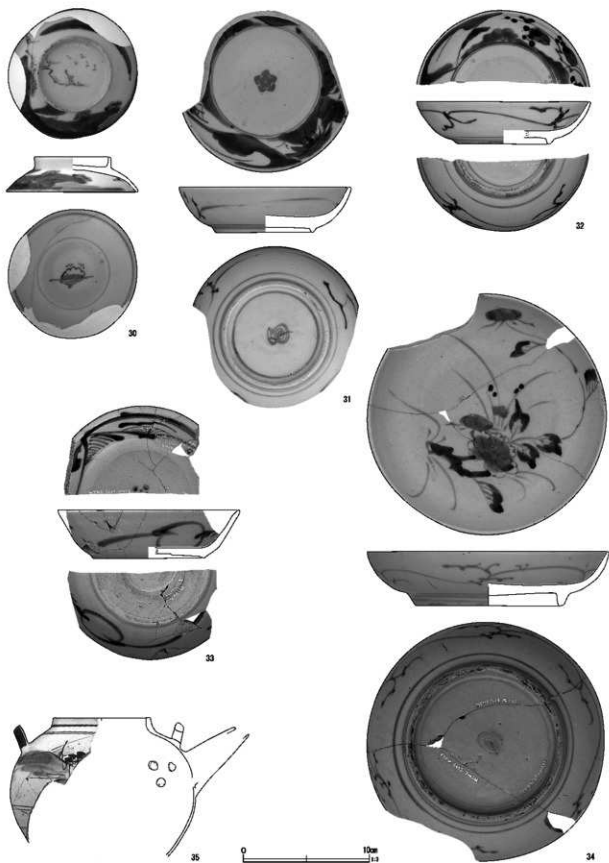
第81図 第19号跡



第82図 第19号清跡出土遺物（1）



第83图 第19号满跡出土遺物 (2)



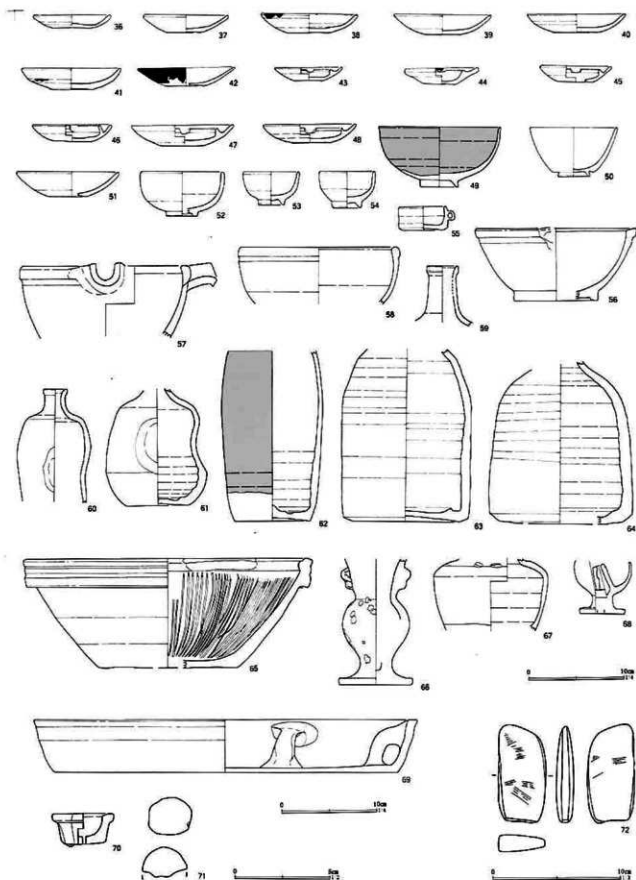
第84图 第19号清跡出土遺物 (3)

第19号溝出土遺物観察表 (第82~84図)

| 番号 | 材質 | 器 種 | 形 状  | 法 量    |     |       | 文 様             |               | 残存  | 備 考             |
|----|----|-----|------|--------|-----|-------|-----------------|---------------|-----|-----------------|
|    |    |     |      | a      | b   | c     | 外 面             | 内 面           |     |                 |
| 1  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | 6.2    | 5.4 | 2.9   | 菊花繁ぎ            | 見込五弁花         | 80  | 肥前系             |
| 2  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | (7.0)  | 5.0 | 3.5   | 菊花繁ぎ            | 見込五弁花         | 45  | 肥前系             |
| 3  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | 7.2    | 5.0 | 3.4   | 菊花繁ぎ            | 見込五弁花         | 60  | 肥前系             |
| 4  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | (7.6)  | 6.1 | 3.1   | 菊花繁ぎ            | 見込五弁花         | 60  | 肥前系             |
| 5  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | 7.3    | 5.6 | 3.5   | 菊花繁ぎ            | 見込五弁花         | 80  | 肥前系             |
| 6  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | (7.6)  | 5.1 | 3.5   | 菊花散し・市松         | 見込五弁花         | 50  | 肥前系             |
| 7  | 磁器 | 小碗  | 筒丸形  | (7.4)  | 5.7 | (3.4) | 草花文             | —             | 60  |                 |
| 8  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | (6.8)  | 5.3 | (2.9) | 菊花散し・市松         | 見込菊花蕾文        | 45  | 口縁内面四方禪文 肥前系    |
| 9  | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | 7.0    | 5.3 | (3.7) | 菊花繁ぎ・市松         | 見込五弁花         | 55  | 高台外唐草文 肥前系      |
| 10 | 磁器 | 小碗  | 半筒形  | 7.0    | 5.5 | 3.8   | —               | 見込五弁花         | 95  | 高台外唐草文 肥前系      |
| 11 | 磁器 | 小碗  | 腰張形  | 9.0    | 5.0 | 3.8   | 草花文             | 見込草花          | 100 | 肥前系             |
| 12 | 磁器 | 中碗  | 広東形  | (11.0) | 6.8 | 6.3   | 仙芝祝寿文           | 見込圓縁・不明文字     | 50  | 波佐見・平戸系         |
| 13 | 磁器 | 中碗  | 広東形  | (10.4) | 5.7 | 6.0   | 山水 (山)          | 見込圓縁・寿        | 70  | 波佐見・平戸系         |
| 14 | 磁器 | 大碗  | 広東形  | (12.4) | 6.7 | (6.1) | 草花文             | 見込圓縁・草花       | 45  | 波佐見・平戸系         |
| 15 | 磁器 | 中碗  | 丸形   | (11.2) | 6.0 | 4.2   | 山水 (橋)          | 見込不明          | 60  | 口縁内山・鳥 見込目跡 肥前系 |
| 16 | 磁器 | 中碗  | 広東形  | (11.6) | 6.1 | 6.2   | 海浜一亭文           | 見込波岩文         | 40  | 口縁帯線文 瀬戸・美濃系    |
| 17 | 磁器 | 中碗  | 端反形  | (10.0) | 5.5 | 4.0   | 格子・格子縞          | 見込丸文          | 60  | 口縁内二重圓縁 肥前系     |
| 18 | 磁器 | 中碗  | 広東形  | (11.4) | 6.2 | (6.3) | 山水 (山)          | —             | 80  | 見込目跡 3 肥前系      |
| 19 | 陶器 | 大碗  | 広東形  | 12.1   | 6.8 | 6.0   | 松               | 見込五弁花         | 70  |                 |
| 20 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | 7.3    | 3.9 | (3.0) | 篋               | —             | 80  |                 |
| 21 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | 7.6    | 3.6 | 3.2   | 篋               | —             | 75  |                 |
| 22 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | 7.0    | 3.6 | 2.8   | 篋               | —             | 70  |                 |
| 23 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | 7.8    | 3.9 | 3.1   | 篋               | —             | 90  |                 |
| 24 | 磁器 | 小碗  | 端反形  | 8.5    | 4.3 | 3.1   | 蟻               | 見込不明          | 55  |                 |
| 25 | 磁器 | 小碗  | 端反形  | 7.0    | 4.2 | 3.0   | 篋・草             | —             | 70  |                 |
| 26 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | (8.8)  | 4.0 | 3.5   | 亀甲・草            | —             | 70  |                 |
| 27 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | (8.3)  | 4.0 | 3.4   | 亀甲・草            | —             | 60  |                 |
| 28 | 磁器 | 小碗  | 丸形   | 8.7    | 3.3 | 3.75  | 高台内二重角枠<br>内に渦福 | 見込五弁花<br>二重圓縁 | 80  | 口縁内四方禪文         |
| 29 | 磁器 | 小碗  | 筒形   | 7.1    | 7.5 | 5.7   | 草花文             | —             | 70  |                 |
| 30 | 磁器 | 中碗蓋 | —    | 10.4   | 2.8 | 6.0   | 山水 (山) 見込鳥      | 見込波岩文         | 80  | 瀬戸・美濃系          |
| 31 | 磁器 | 小皿  | 丸形底中 | 13.6   | 3.6 | 7.6   | 唐草文             | 見込五弁花         | 80  | 高台内「渦福」 波佐見・平戸系 |
| 32 | 磁器 | 小皿  | 丸形底中 | (13.8) | 3.4 | (7.3) | 唐草文             | 草花文           | 40  |                 |
| 33 | 磁器 | 五寸皿 | 平形底中 | (14.4) | 3.8 | (9.8) | 唐草文             | 見込五弁花         | 45  |                 |
| 34 | 磁器 | 中皿  | 丸形底広 | 19.1   | 4.3 | 10.8  | 唐草文             | 草花文           | 90  | 高台内「渦福」 波佐見・平戸系 |

第19号溝出土遺物観察表 (第84図)

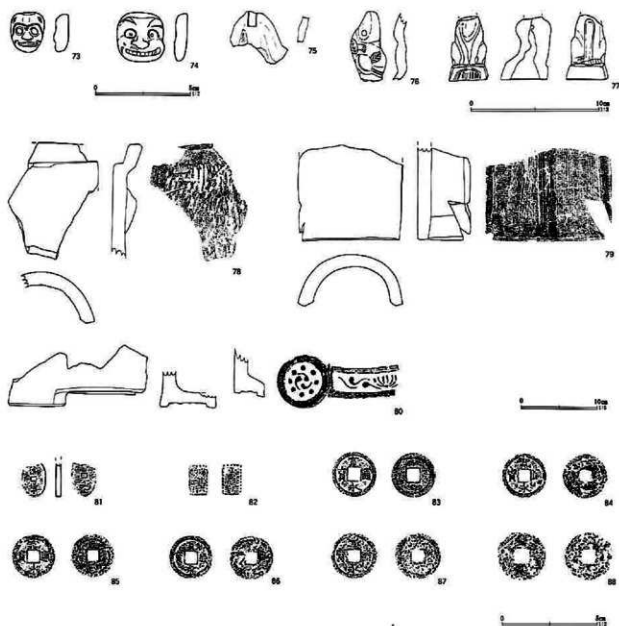
| 番号 | 材質 | 器 種 | 形 状 | 法 量   |   |   |        | 残存 | 備 考         |
|----|----|-----|-----|-------|---|---|--------|----|-------------|
|    |    |     |     | a     | b | c | d      |    |             |
| 35 | 陶器 | 土瓶  | 丸形  | (7.7) |   |   | (18.9) | 40 | 色絵 (緑・茶) 山水 |



第85図 第19号溝跡出土遺物(4)

第19号溝出土遺物観察表 (第85~86図)

| 番号 | 材質 | 器 種  | 形 状             | 法 量                |      |        |        | 残存  | 備 考                     |
|----|----|------|-----------------|--------------------|------|--------|--------|-----|-------------------------|
|    |    |      |                 | a                  | b    | c      | d      |     |                         |
| 36 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | (8.2)              | 1.4  | 4.0    |        | 60  | 見込環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系         |
| 37 | 土器 | 灯明皿  | 無高台平形           | 9.0                | 1.9  | 3.5    |        | 70  | 透明釉 口縁一部油煙              |
| 38 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | 10.2               | 2.1  | 4.7    |        | 80  | 見込環状痕 鉄軸 口縁一部に油煙 瀬戸・美濃系 |
| 39 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | 10.2               | 2.1  | 3.8    |        | 95  | 見込環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系         |
| 40 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | 10.3               | 2.0  | 4.5    |        | 90  | 見込環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系         |
| 41 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | 10.5               | 2.3  | 4.5    |        | 99  | 見込環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系         |
| 42 | 陶器 | 灯明皿  | 無高台平形           | (10.3)             | 1.9  | (4.0)  |        | 60  | 見込目跡2 体部外面上半部付着 瀬戸・美濃系  |
| 43 | 陶器 | 灯明受皿 | 油溝切立状           | 7.2                | 1.4  | 3.1    | 4.6    | 70  | 鉄軸 体部外面環状痕 瀬戸・美濃系       |
| 44 | 土器 | 灯明受皿 | 油溝半月状           | 7.8                | 1.7  | 3.3    | 4.6    | 70  | 透明釉 口唇部一部油煙             |
| 45 | 陶器 | 灯明受皿 | 油溝切立状           | 7.6                | 1.7  | 3.6    | 5.0    | 60  | 体部外面環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系       |
| 46 | 陶器 | 灯明受皿 | 油溝切立状           | 8.4                | 1.8  | 4.1    | 6.0    | 80  | 体部外面環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系       |
| 47 | 陶器 | 灯明受皿 | 油溝切立状           | (10.8)             | 2.2  | 3.7    | 7.3    | 80  | 体部外面環状痕 油煙付着 鉄軸 瀬戸・美濃系  |
| 48 | 陶器 | 灯明受皿 | 油溝切立状           | 9.8                | 2.0  | 4.0    | 6.7    | 80  | 体部外面環状痕 鉄軸 瀬戸・美濃系       |
| 49 | 陶器 | 大碗   | 浅半球形            | (13.0)             | 6.3  | 4.0    |        | 40  | 緑釉 瀬戸・美濃系               |
| 50 | 陶器 | 中碗   | 杉形              | (9.2)              | 5.2  | (3.4)  |        | 50  | 灰釉 瀬戸・美濃系               |
| 51 | 陶器 | 小皿   | 平形無高台           | (10.9)             | 2.6  | (4.0)  |        | 50  | 灰釉 瀬戸・美濃系               |
| 52 | 陶器 | 小碗   | 呉器形             | (9.0)              | 4.7  | 4.7    |        | 40  | 見込目跡2 灰釉 瀬戸・美濃系         |
| 53 | 陶器 | 小碗   | 丸形              | (6.0)              | 3.5  | 2.8    |        | 55  | 灰釉 瀬戸・美濃系               |
| 54 | 陶器 | 小碗   | 腰盤形             | (6.0)              | 3.9  | 3.1    |        | 40  | 灰釉 瀬戸・美濃系               |
| 55 | 陶器 | 餌猪口  | 環楕形             | 4.9                | 2.5  | 5.2    |        | 90  | 乳白釉 瀬戸・美濃系              |
| 56 | 陶器 | 片口   | 口縁切込平形          | (17.0)             | 7.5  | (8.8)  |        | 40  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 57 | 陶器 | 片口   | 口縁切込平形          | (18.0)             |      | 20.7   |        | 15  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 58 | 陶器 | 片口   |                 | (17.0)             |      |        |        | 35  | 灰釉 瀬戸・美濃系               |
| 59 | 陶器 | 小瓶   | 鶴首              | 3.3                |      |        |        | 80  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 60 | 陶器 | 小瓶   | べこかん形鶴首         | 2.6                |      |        | (7.7)  | 30  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 61 | 陶器 | 中瓶   | べこかん形           |                    |      | 6.5    | 10.6   | 60  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 62 | 陶器 | 中瓶   | 高田徳利形           |                    |      | 8.0    | 10.7   | 40  | 緑釉 瀬戸・美濃系               |
| 63 | 陶器 | 大瓶   | 船徳利形            |                    |      | 13.0   | 13.5   | 40  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 64 | 陶器 | 大瓶   | 船徳利形            |                    |      | (15.0) | 15.1   | 40  | 鉄軸 瀬戸・美濃系               |
| 65 | 瓦器 | 挫鉢   | 口縁外帯三段          | (30.5)             | 11.5 | (14.6) |        | 30  |                         |
| 66 | 陶器 | 仏花瓶  | 瓶子耳付形<br>口縁内凸帯大 |                    |      | (7.8)  | 7.1    | 80  | 鉄軸 (黒) 白釉斑点状            |
| 67 | 陶器 | 小壺   | ?耳瀬戸壺形          |                    |      |        | (12.0) | 30  | 鉄軸                      |
| 68 | 陶器 | 乗轡   | 台付たんころ形         |                    |      | 4.7    | 1.3    | 50  | 鉄軸 低部軸孔有                |
| 69 | 土器 | 焙烙   | 有耳・底平坦          | (40.5)             | 5.6  | (36.1) |        | 40  | 深め 耳が内壁から底部             |
| 70 | 土器 | 植木鉢  | ミニチュア           | 3.3                | 1.6  | 2.3    |        | 80  | 八角形 罇縁桶形                |
| 71 | 土製 | 玉    | —               | 径2.0×2.3           |      |        |        | 50  |                         |
| 72 | 石製 | 砥石   | —               | 縦7.6 幅3.7 厚さ1.3    |      |        |        | 100 |                         |
| 73 | 土製 | 泥面子  | 面形              | 長径2.1、短径1.7、厚さ0.7  |      |        |        | 100 | 人面                      |
| 74 | 土製 | 泥面子  | 面形              | 長径2.6、短径2.5、厚さ0.6  |      |        |        | 100 | 鬼                       |
| 75 | 土製 | 人形   | 天神              | 幅(4.6)、高さ(4.1)     |      |        |        |     | 前後型合せ                   |
| 76 | 土製 | 人形   | —               | 幅(2.8)、高さ(5.5)     |      |        |        |     | 前後型合せ                   |
| 77 | 土製 | 像    | 狐               | 幅3.0、高さ(4.9)、厚さ4.0 |      |        |        | 80  | 前後型合せ                   |
| 81 | 土製 | 小判   | ミニチュア           | 縦(1.7)×横1.3×厚さ0.25 |      |        |        | 60  | 「天保通宝」                  |
| 82 | 銀  | 一朱銀  | —               | 縦1.61×横1.02×厚さ0.2  |      |        |        | 100 | 表「以十六換一両」裏「銀座常是」        |
| 83 | 鉄  | 寛永通寶 | —               | 径2.37×2.36 厚さ0.13  |      |        |        | 100 | 方形孔0.68                 |
| 84 | 鉄  | 寛永通寶 | —               | 径2.37×2.35 厚さ0.13  |      |        |        | 100 | 方形孔0.61                 |
| 85 | 鉄  | 寛永通寶 | —               | 径2.32×2.31 厚さ0.14  |      |        |        | 100 | 方形孔0.58                 |



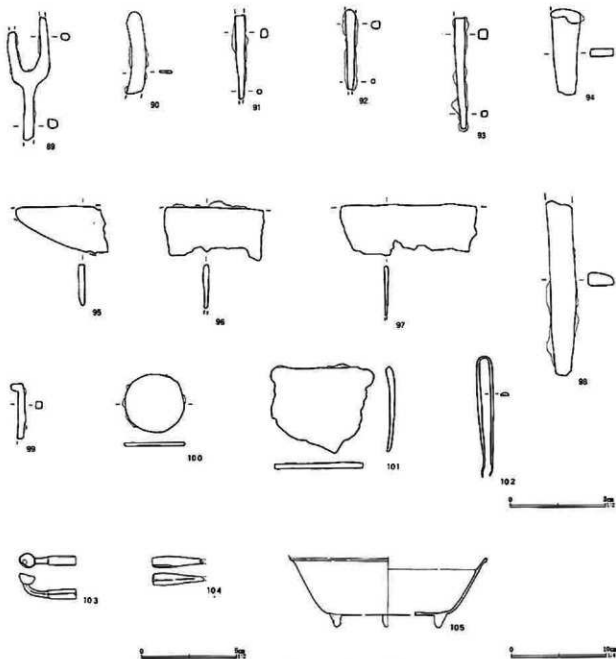
第86図 第19号溝跡出土遺物（5）

第19号溝出土瓦観察表 (第86図)

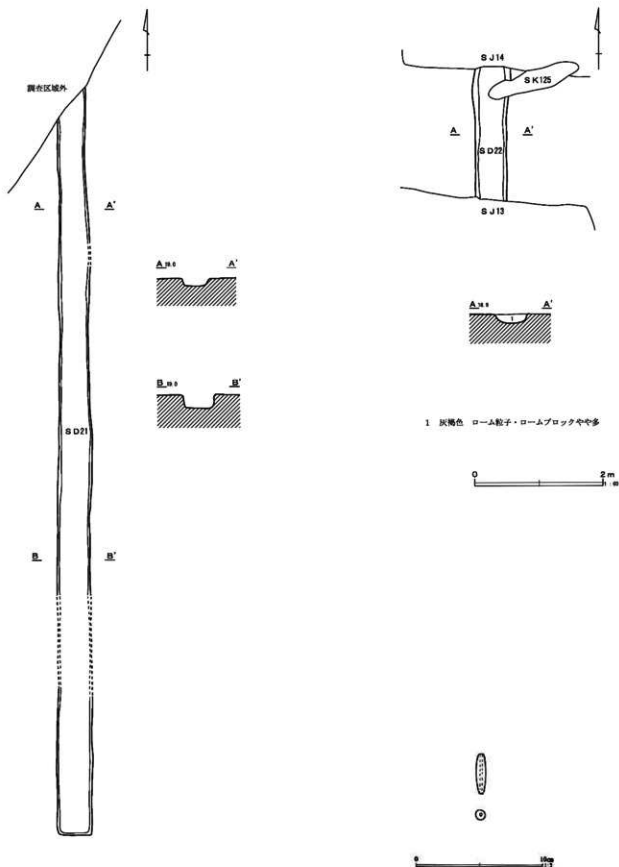
| 番号 | 種別 | 分類  | 法 量 (cm)                                        | 文 様              | 備 考      |
|----|----|-----|-------------------------------------------------|------------------|----------|
| 78 | 丸瓦 | 丸瓦  | 長さ (15.4)、幅 (11.8)、高さ5.6<br>厚さ1.7、玉縁長2.5、面取長0.9 |                  |          |
| 79 | 丸瓦 | 丸瓦  | 長さ (12.5)、幅13.6、高さ6.9<br>厚さ1.7、面取長1.4           |                  |          |
| 80 | 棧瓦 | 軒棧瓦 | 長さ (4.7)、瓦厚4.0、文様区幅2.1<br>丸区径7.4、文様区両径4.9       | 丸区：左巻三巴<br>平区：岩草 | 瓦当面銀塗色痕跡 |

第19号溝出土遺物観察表（第86図）

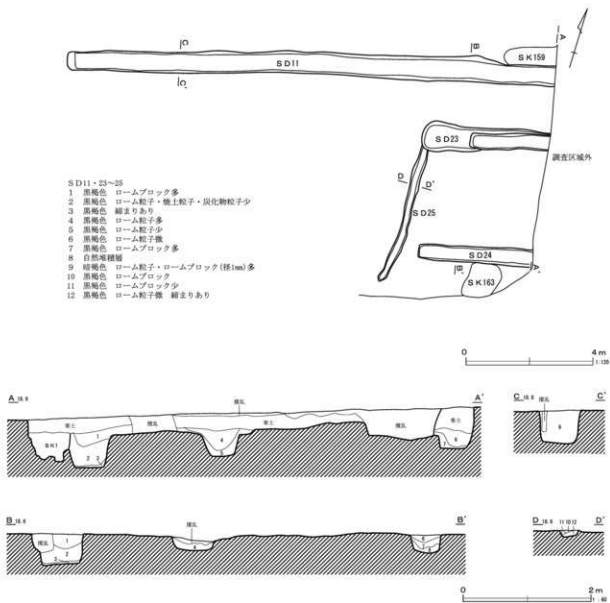
| 番号 | 材質 | 器 種  | 形 状 | 法 量               |   |   |   | 残存  | 備 考            |
|----|----|------|-----|-------------------|---|---|---|-----|----------------|
|    |    |      |     | a                 | b | c | d |     |                |
| 86 | 鉄  | 寛永通寶 | —   | 径2.31 厚さ0.14      |   |   |   | 100 | 方形孔0.62        |
| 87 | 鉄  | 寛永通寶 | —   | 径2.45×2.44 厚さ0.10 |   |   |   | 100 | 方形孔0.65        |
| 88 | 鉄  | 不明   | —   | 径2.56×2.57 厚さ0.22 |   |   |   | 100 | 方形孔0.66 両面錆著しい |



第87図 第19号溝跡出土遺物（6）



第88図 第21・22号溝跡、第21号溝跡出土遺物



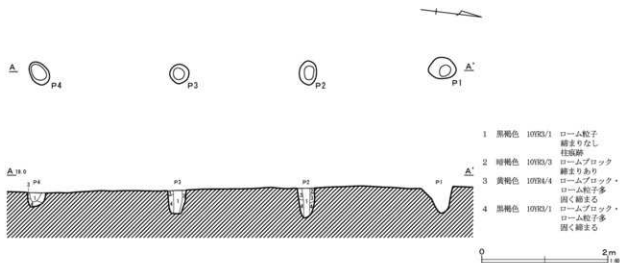
第89図 第11・23・24・25号溝跡

## (5) 柵 列

### 第1号柵列 (第90図)

AA・Z-8グリッドに位置する。ビット1が第38号土坑を切っている。3間で南北方向に伸びる杭列で、規模は6.4mで、柱間寸法は柱穴芯心間で

北から2.15m、2.05m、2.2mであった。ビット2・3・4で柱痕が見られた。柱穴は、径30cmの円形、30×40cmの楕円形で、深さビット4が20cm、他は35～40cmであった。



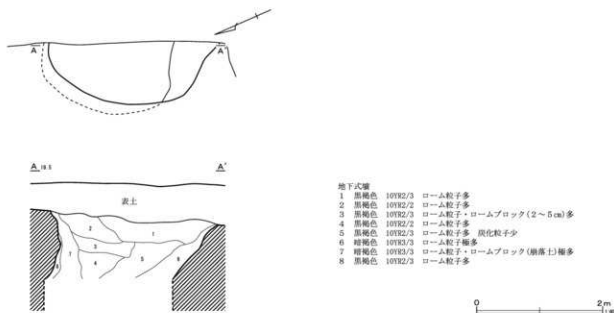
第90図 第1号柵列

## (6) 地下式坑

### 第1号地下式坑 (第91・92図)

X-10グリッドに位置する。南東半は調査区域外

である。境界のため深く掘ることができなかった。入り口部の口径2.6mで南壁は内傾し、北壁・北西



第91図 第1号地下式坑

壁は直立気味からオーバーハングして北方向に地下  
坑が伸びるとみられる。

遺物は、石臼の破片が出土した。



第92図 第1号地下式坑出土遺物

## V まとめ

今回の調査では、縄文時代中期、奈良時代前代から平安時代にかけての住居跡の他に、近世の遺物が出土した溝などが検出された。

古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡は、これまでの市教育委員会の調査では、宮脇遺跡で古墳時代後期の鬼高期の住居跡1軒、谷津遺跡・黒貝戸遺跡で、古墳時代後期の住居跡は1軒ずつと非常に希薄な地域である。奈良時代の住居跡は宮脇遺跡では検出されず、黒貝戸遺跡8軒・殿山遺跡9軒が検出されたにすぎない。一方、蛇行して流れる権平川に形成され南に張り出す舌状台地上の谷津遺跡では奈良時代の住居跡が23軒検出されている。平安時代では宮脇遺跡で35件、谷津遺跡12軒、黒貝戸遺跡・殿山遺跡で各2軒ずつが確認され、宮脇遺跡では掘立柱建物跡6軒も確認されている。

今回の調査では、古墳時代の住居跡は確認できなかった一方、奈良時代前代の7世紀後半代の住居跡が2軒確認できた。奈良時代の住居跡は5軒確認でき、半数の7軒の住居跡が平安時代のものとなっている。

よって、市調査を含めた宮脇遺跡の住居跡は、古墳時代後期が1軒、奈良時代以前が2軒、奈良時代が5軒、平安時代が42軒となっており平安時代が中心の集落跡である。

これらの調査から、この地域では古墳時代から奈良時代前までは、点在型で集落の形成は行われず、奈良時代になって南に張り出す舌状台地を中心に集落が形成される。平安時代には、舌状台地にも点在して住居跡がみられるが、中心は台地やや内部の宮脇遺跡を中心として集落が形成されるようになるが、奈良・平安時代を通じて小規模集落ととどまる。

今回調査された第13号住居跡は、9世紀前半代の住居跡で、東壁に設けられたカマドが白色粘土で構築され、カマドの南側の壁に粘土が貼り付けられていた。このような例は、市調査の9世紀中葉の

15号住居跡（宮脇遺跡HG・A区）でも、東壁中央に設けられたカマドが白色粘土で構築され、カマドの南側の壁沿いに粘土ブロックが検出されているという同じ構造がとられている。壁に粘土が貼り付けられている構造は、この地域では2例のみである。

また、カマドに構築材として粘土が用いられた住居跡は、今回の調査では第8号住居跡・第12号住居跡、前述の第13号住居跡の3軒であった。その他にも市調査の宮脇遺跡・谷津遺跡の平安時代の住居跡にも、粘土をカマド構築材として用いた住居跡が確認されている。

市調査の宮脇遺跡では、古墳時代後期の1号住居跡（第5地点）、平安時代の5～8号住居跡（第8地点）、15号住居跡（HG・A区）、23号住居跡（第13地点）、26～30号住居跡（第17地点）、39号住居跡（第20地点）、42号住居跡（第23地点）、43号住居跡（第24地点）と15軒の住居跡で、白色粘土が使用されている。谷津遺跡では、奈良時代の住居跡では12号住居跡（6-5A区）、15号住居跡（HG・A区）、18号住居跡（4-8区）、22号住居跡（F区）、25・26号住居跡（第16地点）、28・29・30・32～34号住居跡の12軒、平安時代では16号住居跡（HG・A区）、17号住居跡（HG・B区）、23号住居跡（G区）、31号住居跡（第17地点）の4軒をあげることができ半数の近くの住居跡で粘土を用いたカマド構築法が採られていた。

カマド構築に際しては、宮脇遺跡・谷津遺跡では、古墳時代後期にも粘土を用いて構築する手法をとり、奈良時代主体の谷津遺跡から平安時代主体の宮脇遺跡へと引き継がれてきたものと想定される。

今回の調査では、第5号住居跡からは、土師器杯・碗・甕のほかには須恵器高台付環が出土し、第34図4は口径15.8cmで底部が高台より突出している。このような例は、築道下第366号住居跡や第436号住居跡に見られ7世紀第3四半期後半から第4四

半期のものとされる。

第4号住居跡の土師器環(第31図1)は口縁部が直立する小型のもので8世紀第1四半期と見られる。

第1・2・7・12・13号住居跡は平安時代の須恵器環が出土している。第7号住居跡の須恵器環は口径比2/3程度で9世紀第1四半期、第12・13号住居跡は口径比1/2からやや超えるものがあり、9世紀第1四半期から中葉に掛けてのもの、第1・2号住居跡の須恵器環口径比1/2程度で9世紀中葉のものである。

近世遺物に関しては、第19号溝跡から陶磁器、瓦、銭貨が出土し、銀貨の「文政南鐐一朱銀」は文政期最後のものとして、文政12年(1829)に発行された江戸幕府最初の額面銀貨である。

市調査の谷津遺跡の第16地点の1号地下室状遺構・2号地下室状遺構から陶磁器・瓦・鉄製品・古銭・煙管等が出土し、宮脇遺跡と同様の遺物の出土があった。両遺跡とも陶磁器などから、18世紀後半から19世紀前半にかけてのものとみられる。

## 参考文献

- |         |      |                                           |
|---------|------|-------------------------------------------|
| 赤熊浩一    | 1988 | 『将監塚・古井戸』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第71集           |
| 岩瀬謙・栗岡潤 | 2003 | 『如意遺跡IV』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第285集           |
| 加藤秀之    | 1993 | 『宮脇遺跡17地点』『富士見市内遺跡 I』 富士見市文化財報告 第43集      |
| 小出輝雄    | 1987 | 『宮脇遺跡第7・8地点』『富士見市遺跡群 V』 富士見市文化財報告 第37集    |
| 小出輝雄ほか  | 1990 | 『宮脇遺跡・谷津遺跡発掘調査報告書(1)』 富士見市遺跡調査会調査報告 第33集  |
|         | 1990 | 『宮脇遺跡・谷津遺跡発掘調査報告書(2)』 富士見市遺跡調査会調査報告 第34集  |
|         | 1990 | 『宮脇遺跡・谷津遺跡発掘調査報告書(3)』 富士見市遺跡調査会調査報告 第35集  |
| 隈本健介    | 1995 | 『宮脇遺跡第20地点』 富士見市遺跡調査会調査報告 第42集            |
|         | 1998 | 『宮脇遺跡第23・24地点』『富士見市内遺跡 VI』 富士見市文化財報告 第49集 |
| 郡司勇夫    | 1981 | 『日本貨幣図鑑』 東洋経済新報社                          |
| 鶴持和夫    | 2000 | 『築道下遺跡 III』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第245集        |
| 高橋 敦    | 1981 | 『宮脇遺跡第5地点』『富士見市中央遺跡群 IV』 富士見市文化財報告 第21集   |
| 富士見市    | 1986 | 『富士見市史』資料編2 考古                            |
| 和田晋治    | 1992 | 『宮脇遺跡第13・15地点』『富士見市遺跡群 X』 富士見市文化財報告 第42集  |
|         | 1993 | 『谷津遺跡第16地点』 富士見市遺跡調査会調査報告 第39集            |
|         | 1995 | 『谷津遺跡第17地点』 富士見市遺跡調査会調査報告 第43集            |

遺構番号新旧対照表

住居跡

| 新       | 旧           |
|---------|-------------|
| 第1号住居跡  | 第1号住居跡      |
| 第2号住居跡  | 第2号住居跡      |
| 第3号住居跡  | 第3号住居跡      |
| 第4号住居跡  | 第4号住居跡      |
| 第5号住居跡  | 第5号住居跡      |
| 第6号住居跡  | 第6号住居跡      |
| 第7号住居跡  | 第7号住居跡      |
| 第8号住居跡  | 第8号住居跡      |
| 第9号住居跡  | 第9号住居跡      |
| 第10号住居跡 | 第10号住居跡     |
| 第11号住居跡 | 第11号住居跡     |
| 第12号住居跡 | 第12号住居跡     |
| 第13号住居跡 | 第4次Ⅰ区第1号住居跡 |
| 第14号住居跡 | 第4次Ⅰ区第2号住居跡 |
| 第15号住居跡 | 第4次Ⅰ区第3号住居跡 |
| 第16号住居跡 | 第4次Ⅰ区第4号住居跡 |
| 第17号住居跡 | 第4次Ⅰ区第5号住居跡 |
| 第18号住居跡 | 第4次Ⅰ区第6号住居跡 |

土坑

| 新       | 旧           |
|---------|-------------|
| 第1号土坑   | 第1号土坑       |
| §       | §           |
| 第26号土坑  | 第26号土坑      |
| 第28号土坑  | 第28号土坑      |
| §       | §           |
| 第89号土坑  | 第89号土坑      |
| 第90号土坑  | V-12グリッド    |
|         | 第109号土坑     |
| 第91号土坑  | 第91号土坑      |
| §       | §           |
| 第108号土坑 | 第108号土坑     |
| 第109号土坑 | U-13グリッド    |
|         | 第109号土坑     |
| 第110号土坑 | 第110号土坑     |
| §       | §           |
| 第123号土坑 | 第123号土坑     |
| 第124号土坑 | 第4次Ⅰ区第1号土坑  |
| 第125号土坑 | 第4次Ⅰ区第2号土坑  |
| 第126号土坑 | 第4次Ⅰ区第3号土坑  |
| 第127号土坑 | 第4次Ⅰ区第5号土坑  |
| 第128号土坑 | 第4次Ⅰ区第6号土坑  |
| 第129号土坑 | 第4次Ⅰ区第7号土坑  |
| 第130号土坑 | 第4次Ⅰ区第8号土坑  |
| 第131号土坑 | 第4次Ⅰ区第9号土坑  |
| 第132号土坑 | 第4次Ⅰ区第10号土坑 |
| 第133号土坑 | 第4次Ⅰ区第11号土坑 |
| 第134号土坑 | 第4次Ⅰ区第12号土坑 |
| 第135号土坑 | 第4次Ⅰ区第13号土坑 |
| 第136号土坑 | 第4次Ⅰ区第14号土坑 |

| 新       | 旧           |
|---------|-------------|
| 第137号土坑 | 第4次Ⅰ区第15号土坑 |
| 第138号土坑 | 第4次Ⅰ区第16号土坑 |
| 第139号土坑 | 第4次Ⅰ区第17号土坑 |
| 第140号土坑 | 第4次Ⅰ区第18号土坑 |
| 第141号土坑 | 第4次Ⅰ区第19号土坑 |
| 第142号土坑 | 第4次Ⅰ区第20号土坑 |
| 第143号土坑 | 第4次Ⅰ区第21号土坑 |
| 第144号土坑 | 第4次Ⅰ区第22号土坑 |
| 第145号土坑 | 第4次Ⅰ区第23号土坑 |
| 第146号土坑 | 第4次Ⅰ区第24号土坑 |
| 第147号土坑 | 第4次Ⅰ区第25号土坑 |
| 第148号土坑 | 第4次Ⅰ区第26号土坑 |
| 第149号土坑 | 第4次Ⅰ区第27号土坑 |
| 第150号土坑 | 第4次Ⅰ区第28号土坑 |
| 第151号土坑 | 第4次Ⅰ区第29号土坑 |
| 第152号土坑 | 第4次Ⅰ区第30号土坑 |
| 第153号土坑 | 第4次Ⅰ区第31号土坑 |
| 第154号土坑 | 第4次Ⅰ区第32号土坑 |
| 第155号土坑 | 第4次Ⅰ区第33号土坑 |
| 第156号土坑 | 第4次Ⅰ区第34号土坑 |
| 第157号土坑 | 第4次Ⅰ区第35号土坑 |
| 第158号土坑 | 第4次Ⅰ区第36号土坑 |
| 第159号土坑 | 第4次Ⅲ区第1号土坑  |
| 第160号土坑 | 第4次Ⅲ区第2号土坑  |
| 第161号土坑 | 第4次Ⅲ区第3号土坑  |
| 第162号土坑 | 第4次Ⅲ区第4号土坑  |
| 第163号土坑 | 第4次Ⅲ区第5号土坑  |

溝跡

| 新     | 旧         |
|-------|-----------|
| 第1号溝  | 第1号溝      |
| 第2号溝  | 第2号溝      |
| 第3号溝  | 第3号溝      |
| 第4号溝  | 第4号溝      |
| 第5号溝  | 第5号溝      |
| 第6号溝  | 第6号溝      |
| 第7号溝  | 第7号溝      |
| 第8号溝  | 第8号溝      |
| 第9号溝  | 第9号溝      |
| 第10号溝 | 第10号溝     |
| 第11号溝 | 第11号溝     |
| 第12号溝 | 第12号溝     |
| 第13号溝 | 第13号溝     |
| 第14号溝 | 第14号溝     |
| 第15号溝 | 第15号溝     |
| 第16号溝 | 第16号溝     |
| 第17号溝 | 第17号溝     |
| 第18号溝 | 第18号溝     |
| 第19号溝 | 第19号溝     |
| 第20号溝 | 第71号土坑    |
| 第21号溝 | 第4次Ⅰ区第1号溝 |
| 第22号溝 | 第4次Ⅰ区第2号溝 |
| 第23号溝 | 第4次Ⅲ区第1号溝 |
| 第24号溝 | 第4次Ⅲ区第2号溝 |
| 第25号溝 | 第4次Ⅲ区第3号溝 |
| 第26号溝 | 第4次Ⅲ区第4号溝 |